

『未来を変える目標 SDGsアイデアブック』 授業での活用事例

高等学校編

総合的な探究の時間

- P5 . . . 石川県立能登高等学校 対象：1年生
SDGsの視点を用いた地域課題の理解
- P7 . . . 佐賀県立小城高等学校 対象：1・2年生
SDGsをテーマにしたオンリーワン課題探究
- P8 . . . ヒューマンキャンパス高等学校熊本学習センター 対象：1～3年生
「これからの未来と働き方について」
- P10 . . . 自由ヶ丘高等学校 対象：1年生
SDGs探求カフェ 探求活動を行う仲間を見つけよう！
- P12 . . . 加古川東高等学校 対象：1年生
ミニ課題研究
- P14 . . . 兵庫県立伊川谷高等学校 対象：3年生
SDGsについて学ぼう
- P16 . . . 新潟青陵高等学校（コミュニケーション英語） 対象：1年生
探求学習×英語×SDGs
- P18 . . . 新潟県立津南中等教育学校 対象：1年生
SDGsを中核とした地域探求「津南・妻有学」と国際交流
- P20 . . . 愛知県立大府東高等学校 対象：2年生
総合的な探究の時間—SDGsについて考え、実践する—
- P22 . . . 都立成瀬高等学校 対象：1年生
SDGsルワンダ協力プロジェクト
- P24 . . . オイスカ学校 対象：2年生
海外研修（持続可能な社会を目指して）
- P26 . . . 愛知県立豊田東高等学 対象：3年生
持続可能なコミュニティをつくろう
- P28 . . . 静岡県立富士高等学校 対象：1年生
SDGsから地域理解、企業探究、進路決定へ
- P30 . . . 長崎県立対馬高等学校 対象：2年生
対馬が抱える課題の解決策を考え、対馬市に提言しよう！
- P32 . . . 宮城県多賀城高等学校 対象：2年生
SDGsを知ろう
- P34 . . . 武蔵高等学校 対象：1年生
高1 総合講座 SDGsと課題研究
- P36 . . . 長岡豊学校 対象：1～3年生
探究活動

- P38 . . . 日本文理大学附属高校 対象：1年生
総合探求
- P40 . . . 秋田県立湯沢翔北高等学校 対象：2年生
総合的な探求時間(課題設定)
- P41 . . . 愛媛県立松山工業高等学校 対象：1年生
～みんなで守る地域の未来プロジェクト～
- P44 . . . 秋田県立湯沢高等学校 対象：1～3年生
総合的な探究の時間
- P46 . . . 岩手県立沼宮内高等学校 対象：1年生
デジタルマップとクライシスマッピング
- P48 . . . 千葉県立君津高等学校 対象：3年生
総合的な探求の時間 SDG'sに関する探求

探究基礎・課題研究

- P50 . . . 秋田県立横手清陵学院高等学校 対象：1年生
SDG s について学ぼう！！
- P52 . . . 石川県立金沢商業高等学校 対象：3年生
SDG s について考える
- P54 . . . 大阪府立桜塚高等学校 対象：2年生
課題研究
- P56 . . . 青森県立弘前実業高等学校 対象：3年生
県内企業はどうやって地域課題を解決しているのか？

英語

- P58 . . . 高知県立山田高等学校 対象：1年生
総合英語
- P60 . . . 福島県立ふたば未来学園高等学校 対象：2年（中学3年共同）
HIRONO GARBAGE ORCHESTRA
- P62 . . . 広島市立舟入高等学校 対象：2年
あなたの服が難民の力に！～teenagerのあなたが今できること～
- P64 . . . 興南高等学校 対象：3年
Plastic Waste
- P66 . . . 市立札幌平岸高等学校 対象：2年
SDG Bots!:Robots for the People
- P67 . . . 古川学園高等学校 対象：2年
SDGsにつながる英文ライティング
- P69 . . . 宮城県仙台第三高等学校 対象：1年
SS英語表現Ⅰ
- P71 . . . 福山暁の星女子高等学校 対象：2年
SDGsを自分ごととしてとらえるための表現活動
- P73 . . . 東京都立農業高等学校 対象：3年
SDGsに向けた世界の取組（英文パラグラフの書き方を学ぶ）
- P77 . . . 兵庫県立明石高等学校 対象：1年
English x SDGs プロジェクト

生物基礎・生物

- P79・・秋田県立新屋高等学校 対象：1～3年生
SDG s の視点で生態系を分析し、あなたのアクションプランを宣言できるようになろう！
- P81・・滋賀県立河瀬高等学校 対象：2・3年生
スナック菓子は好き？(生態系保全)
- P83・・兵庫県立伊川谷高等学校 対象：3年生
生物探求SDG s ワーク
- P85・・富山第一高等学校 対象：1年生
「なりきって」ポスター発表

地理

- P87・・宮城第一高校 対象：3年生
- P89・・長崎県立波佐見高等学校 対象：1年生
「持続可能な社会の担い手」になるために～カードゲームを起点とした学習によって～
- P91・・明德学園相洋中高等学校 対象：1年生
持続可能な「支援案」を作成せよ！

現代社会

- P93・・東京都立小笠原高等学校 対象：2年生
持続可能なまちづくりを考えよう
- P95・・沖縄県立北山高校 対象：1、3年生
未来を変える目標 SDGsアイデアブック
- P98・・名古屋経済大学市邨高校 対象：1年生
マイクロプラスチックプロジェクト

地学基礎

- P100・・東京都立羽村高等学校 対象：3年生
SDGsとESDの視点を取り入れた地学基礎の授業

数学

- P105・・近畿大学附属広島高等学校福山校 対象：2年生
SDGs×ちょっと数学×5D2文

課題研究

- P109・・高知県立山田高等学校 対象：3年生
SDGs講習会

ロングホームルーム

- P111・・石川県立能登高等学校 対象：2年生
進路学習（社会問題に関心を持つことの大切さ）

グローバルリサーチ

- P112・・甲南高等学校 対象：1年生
コロナ禍の課題に気づこう！

決定者講座

- P113・・桐朋女子高等学校 対象：3年生
PBLフィールドで社会問題に出会う

家庭基礎

- P115・・青森県立弘前実業高等学校 対象：1年生
なぜ必要なの？SDGs？
- P117・・静岡県立科学技術高等学校 対象：1年生
わたしの生活とSDGs

家庭総合

- P119・・青森県立弘前実業高等学校 対象：1年生
持続可能な生活を考えよう

フードデザイン

- P121・・青森県立弘前実業高等学校 対象：1年生
世界の課題を考えよう

学校設定科目

- P123・・海星学院高等学校 対象：3年生
SDGs探究発表
- P125・・京都府立鴨沂高等学校 対象：3年生
「『現代社会の課題とその解決法』について考える」

産業社会と人間

- P127・・千葉県立小金学校 対象：1年生
SDGsストーリーズ

進路指導とSDGs

- P129・・高崎商科大学附属高等学校 対象：3年生
ESD/SADGs 学習指導実施報告書

特別活動

- P131・・沖縄県立那覇工業高等学校 対象：1・3年生
SDGsの視点を取り入れた清掃活動の実践
- P133・・東海学園高等学校 対象：1年生
地球の未来をかんがえよう！

特別支援学校

特別活動

- P135・・沖縄県立那覇工業高等学校 対象：3年生
ゴミとは何だろう。プラスチックとは何だろう。

SDGsの視点を用いた地域課題の理解

学校名: 石川県立能登高等学校 名前: 木村聡(高校魅力化・探究コーディネーター)

対象	1年	単元名	SDGsの視点を用いた地域課題の理解
科目	総合的な探究の時間	目標	その1 SDGsについて、その名称や理念、17の目標などを認知している その2 SDGsの17の目標について理解を深めている その3 チームで協力してSDGsを達成するための行動を考え出せる
時間	1時間		
参考資料	アイデアブック		

期待できる学習効果

- その1 SDGsについて、その名称や理念、17の目標などを認知している
- その2 SDGsの17の目標について理解を深めている
- その3 チームで協力してSDGsを達成するための行動を考え出せる

授業内容

国連が定めたSDGs(持続可能な開発目標)を理解するところから始め、SDGsの視点から地域課題を見つめていき、一人ひとりの興味関心のあるテーマを見つけることを狙いとした。この前時には、1学期の活動内容を簡単に振り返り、SDGsについて基礎知識を紹介して理解を促し、自分の最も興味あるゴールを1つ選んだ。そして本時ではSDGsのポイントである「各目標同士の関連性」について理解を促すとともに、生徒が関心を持ったゴールについての取り組み事例を「SDGsアイデアブック」を資料として読んだ。その上で、身近な地域をSDGsで見たときの評価や目標達成に必要なことを生徒たちが話し合った。

【本時の概要】

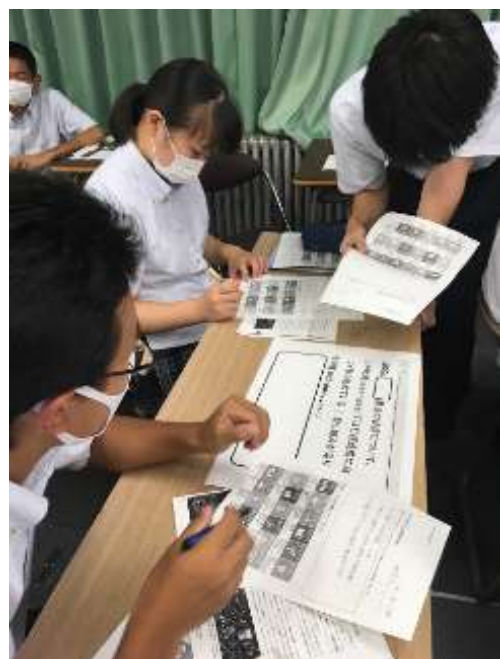
- ・SDGsについてのおさらい
- ・SDGsの各目標同士の関連性を知る
 - 目標は17に分かれているが、それぞれの目標はお互いに密接に関連していること
 - 住民(個人)と地域の最適を両立した目標達成(WillとNeedsとの重なり)が求められる
- ・SDGsの17の目標について資料「SDGsアイデアブック」を読んで理解を深める
- ・それぞれの目標についてチームで話し合う
 - 身近な地域(能登町や奥能登)での評価をする
 - 身近な地域(能登町や奥能登)で2030年までに達成するにはどんな行動が必要かを考える

SDGsの視点を用いた地域課題の理解

学校名: 石川県立能登高等学校 名前: 木村聡(高校魅力化・探究コーディネーター)

子どもたちの反応・感想

世界や地域には自分がまだ知らない様々な問題・課題が存在していることを、SDGsアイデアブックを読んだり、自分が住む地域をSDGsの視点で考えてみてつかむことができた様子だった。また、SDGs17のゴールの関連性についても理解が深まった様子だった。



SDGsをテーマにしたオンリーワン課題探究

学校名： 小城高等学校 名前： 近藤浩明

対象	1・2年生	単元名
科目	総合的な探究の時間	オンリーワン課題探究
時間	38時間	目標
参考資料	アイデアブック等	その1 SDGsについて理解する。
		その2 SDGsに基づいた課題探究に取り組む。
		その3 成果報告をPowerPoint等を利用してまとめることができる。

期待できる学習効果

- ・その1 世界的な課題を理解し、今世界で何が求められているのか理解することができる。
- ・その2 課題を理解し、それを解決するために必要な探究力、行動力が身につく。
- ・その3 意見をまとめ、適格に自己表現、発信をすることができる。

授業内容

1年時の3学期からテーマを決めますので、本年度は2年生には間に合わず、現在、1年生がアイデアブックを活用し、取り組むテーマを決定しているところです。

以下、本年度の2年生の活動と合わせて内容と計画を報告します。

- | | |
|--------|---|
| 1月まで | キャリア甲子園のテーマを題材に、小規模な探究活動や体験をとおして、取り組むテーマを決定していく。その際、アイデアブック等の資料を活用して課題探究に必要な情報収集能力・情報表現力を身に着ける。 |
| 2月 | SDGsについて知る。興味関心のある分野を選定する。 |
| 3月 | 分野ごとにグループに分かれ、17の目標の中のそれぞれのターゲットについて調べ、探究活動の方向性を決める。 |
| 4～7月 | 具体的に課題・解決策を考え、自分たちでできる規模の活動を考える。解決に必要な材料等の準備・行程決め。また、解決のために外部機関との連携の必要性の考察および外部機関への連絡。 |
| 8～9月 | 外部機関との連携が必要なグループは、外部機関との活動、アンケート実施が必要なグループはアンケート実施および回収・集計、実験が必要なグループは実験を実施する等、これまでに考察した活動を実際に実施する。 |
| 10～11月 | 活動の細部を詰める。レポートや発表スライドの作成。 |
| 12月 | 活動の成果を、オンリーワン課題探究発表会において提案する。外部より講師を招いて評価をしていただく。合わせて、SDGs講演会を実施。 |

「これからの未来と働き方について」

学校名: ヒューマンキャンパス高等学校熊本学習センター 名前: 中熊和典

対象	1年～3年	単元名	総合的な探求(キャリア教育)「これからの未来と働き方について」
科目	総合的な探究	目標	その1 身の回りの職業に目を向ける その2 これからの時代の変化について考える その3 1次産業から3次産業までを考え、これからの時代に合う6次産業などについて、自分事として考えてみる。
時間	4時間		
参考資料	アイデアブック等		

期待できる学習効果

- ・その1 高校卒業後のキャリアデザインについて考えるきっかけとする。
- ・その2 現在の環境、これからの将来について持続可能な産業を中心に考える。
- ・その3 既存の産業にこだわらず、新しい産業を時速可能な環境の面から考えてみる

授業内容

【1時間目】

- ① 自分の身の回りにある職業について、できる限り考えを巡らせ、ブレインストーミングを行う。
- ② 5, 6人のグループを作り、その中で職業について話し合うことで、身の回りの職業について、イメージを広げる。
- ③ 現段階で自分がなりたい職業について考えてみる。

【2時間目】

- ④ これからの社会や世界のことについて、考える。
 - (1) アイデアブックをそれぞれが目を通し、自分が一番気になったことについて、グループ内で発表をし、それぞれの考え方をシェアする。
 - (2) これから10年後の未来がどうなっているかについて、一人一人が考え、意見を出し合う。

※未来がどうなっているか、否定的、楽観的にもなりすぎないように、バランスよく考えが出るようファシリテーションを行う。

「これからの未来と働き方について」

学校名: ヒューマンキャンパス高等学校熊本学習センター 名前: 中熊和典／吉本慎

授業内容2

【3時間目】

⑤ これからの自分のやりたい仕事について、考える。

(1) 1時間目で行った将来やりたい仕事について、SDGsの視点をういながら、持続可能な職業の在り方として、考えてキャリアプランを考えてみる。

【4時間目】

⑥ どういう仕事と連携して仕事を作ることができるか、自分のビジネスパートナーになれるような人を、探し出してオファーする。(約5分ごとに相手を変えて話をする×5セット)

(まとめ)

全体を通しての気づき、学びなどについて、発表ができる人に発表してもらい、全体と意見をシェアする。

子どもたちの反応・感想

(生徒たちの感想: 一部)

- ・「今までじっくりと職業について考える時間がなかったので、よかった。」
- ・「今までは、今ある仕事の中から職業を選ばないといけないと思っていたが、自分たちが職業を作ることも必要だと思った。」
- ・「やっぱり環境は大事」
- ・「SDGsで様々なゴールを知ること、私たちも少しずつ未来を変えていけるような気がした。」
- ・「環境にやさしい事業でお金持ちになりたい。」
- ・「SDGsがなんなのか、少しわかった気がした。」
- ・「時代は変わっていくので、いつも注意しておかないといけないと思った。」

環境や社会問題などについて、どこか他人事のようにとらえていた生徒に、それぞれの未来として考えさせることによって、未来を自分ごととしてとらえることができるようになったを思われます。

SDGs探求カフェ 探求活動を行う仲間を見つけよう！

学校名：自由ヶ丘高等学校 名前：川本 学

対象	1年生	単元名	
科目	なし	なし	
時間	2時間	目標	その1 SDGsアイデアブックから興味のある分野を見つける その2 調べ学習やディスカッションを通じて自分にできることを見つける その3 SDGsに興味のある仲間と出会い、共に探求する場をつくる
参考資料	アイデアブック等		

期待できる学習効果

- ・その1 探求の手順を学べる
- ・その2 SDGsの各目標のうちひとつを選び、現状や課題を学べる
- ・その3 同じ志のある仲間と出会い学べる

授業内容

自由ヶ丘高等学校では、外部の講師を招きSDGsなど現代社会の課題を探求する「SDGs探求カフェ」という講座を2年前より行っている。
 今回の(アイデアブックを使用する)授業は探求カフェに所属する2年生がSDGsに興味のある1年生に探求の仕方をレクチャーするという目的で行った。
 事前のアンケートでどの目標について興味関心があるかを調査し、4つの目標(全4グループ)に分かれて探究活動を行った。

探究活動については、事実を挙げる→仮説を立てる→必要な知識を得る→まとめて次の探求につなげる、のような4段階で行う。

事実を挙げる

アイデアブックを読み込み重要だと思う用語、わからない用語(文章)を挙げて今回探求したい題材をディスカッションにより決定する

仮説を立てる

事実を基に社会的な課題、問題点を挙げ、探求すべきテーマを決定する

SDGs探求カフェ 探求活動を行う仲間を見つけよう！

学校名：自由ヶ丘高等学校 名前：川本 学

授業内容2

必要な知識を挙げ手分けして調べる(NeedToKnow)

問題点を明らかにするために獲得しなければならない知識についてグループ内で担当を決めて調べる。
ここまでの1回目の授業になり、次回までに各自まとめる。

まとめて資料をつくりグループ毎でプレゼンテーションを行う

資料はiPadで作成し全員がプレゼンできるように担当を決める。

全体的に2年生がファシリテーターとなり、なるべく1年生が主体的に動けるように意識しながら活動を進めた。最後のプレゼンでは問題の解決まで到達できているグループはほとんどなかったがICTを駆使して立派なプレゼンができていた。

子どもたちの反応・感想

- ・探求の手順について学べた。
- ・問題点に対してどのように考えればよいかわかった。
- ・ディスカッションによって自分の考えがまとまった。
- ・気軽に話せる雰囲気があり楽しかった。
- ・答えがないことについて議論できたことがよかった。
- ・自分の頭で考える授業だと思った。
- ・建設的な意見を言うことが出来なかったので成長したい。
- ・アイデアブックで課題がわかり探求が進めやすかった。
- ・アイデアブックには自分の興味の薄い分野についても掲載されていて役に立った。
- ・アイデアブックから事実を見つけることができ、もっと知りたいと思った。
- ・プレゼンを行う際の注意点が理解できた。
- ・みんなで調べることによって今まで知らなかったことに気づき驚きの連続でした。
- ・調べることによって新たな疑問を見つけることができた。
- ・事実や根拠に基づく資料の作成や説明の仕方がわかった。
- ・SDGsが様々な分野に繋がっていることがわかり、視野が広がった。

ミニ課題研究

学校名:加古川東高等学校 名前:和田尚也

対象	1年生	単元名	ミニ課題研究 (SDGsを用いた課題研究)
科目	総合的な探究	目標	1 SDGsに触れ、現代における世界の目標を理解することができる 2 探究活動において、主観的な情報と客観的な事実の使い分けができる。 3 探究活動において、事実をもとに仮説の形成、立証へ向けた計画ができる。
時間	2		
参考資料	アイデアブック		

期待できる学習効果

上記 目標と同じ

授業内容

- 1 冊子やインターネットを用いてSDGsについて調べ、現代における世界の目標を知る
- 2 SDGsの中から一つのテーマを選び、その課題とつながる身近な事象を考える。身近なレベルでこのテーマについて、どのような解決すべき問題があるか、また、その問題を扱う上でどのようなデータが必要かを考え、話し合う
- 3 2について、必要なデータを調べる。または調べる方法を考える。
- 4 3と並行して、何らかの形で2の問題の解決策を示す内容で、かつ自分たちで実証的に調査・研究できる問い(「～を解決するにはどうするのか?」)を考え、話し合う。

ミニ課題研究

学校名: 加古川東高等学校 名前: 和田尚也

授業内容2

・SDGsに掲げられているテーマをただ真に受けるだけでなく、「実際にその問題が存在するか」あるいは「その度合いはどのくらいか」について根拠をもったうえで問題探しや仮説の形成のステップに映ることが重要だと考えている。そのため、問題の実情についてアンケートやフィールドワークも行うことができるように“身近な問題に落とし込んで考える”よう指導している。

・調べ学習のデバイスとしては、スマホを使用させた。学校のiPadやChromebookなどを共用するのを避ける(感染症対策の観点から)ためだったが、貴社が紹介されているHPやREASAS、Google Scholar等、やや専門的なサイトを一括で指示して使わせることは難しかった。

子どもたちの反応・感想

熱心に取り組んでいた。QRコードを読み取ってスマホで情報を得ている生徒がほとんどであった。

SDGsについて学ぼう

学校名:兵庫県立伊川谷高等学校 名前:河合祐介

対象	3年生	単元名
科目	総合的な学習の時間	
時間	2時間	目標
参考資料	アイデアブック等 SDGsTV	その1 SDGsを知る その2 SDGsのターゲットが有機的に関連していることを学ぶ

期待できる学習効果

- ・その1 自身に取り組めるターゲットを発見できる
- ・その2 友人との考え方の違いを知り、お互いのターゲットのつながりを発見させる
- ・その3 プレゼンテーション力の向上

授業内容

10月26日

- 1 各クラスでSDGsTVで「SDGsとは」の 根本かおる氏のメッセージを視聴させる
- 2 SDGsTVで「SDGsアクションストーリーワーク」を視聴させる
- 3 各班にSDGsアイデアブックを配布し、関心のあるテーマを調べさせる
- 4 ワークシートに従ってSDGsカードを貼らせる

11月2日

- 1 作成したワークプリントを班内で発表させる(1分／人)
- 2 生物探求の授業選択者がチューターをする
- 2 発表を聞いて、コメントシートに感想やメッセージを記入する
- 3 全員終了したら他の班に移動する
- 4 チューターは移動せず、新しい班で発表する

* 対象生徒240名

SDGsについて学ぼう

学校名:兵庫県立伊川谷高等学校 名前:河合祐介

授業内容2

授業のポイント

- 動画でSDGsとは何かを学ばせる
- 動画でワークの段取りを理解させる
- SDGsアイデアブックで自分の関心のあるタイトルについて学ばせる
- 関連タイトルの意味をSDGsアイデアブックで学ばせる

発表のポイント

- ワークシートを班員に見せながら発表させる
- チューターに的確に質疑応答に対応させる
- 他の人の発表から自分の関心との相違に気付かせる
- それぞれのタイトルがつながっていることを最後に解説する

子どもたちの反応・感想

感想コメントが掲載された学年通信を添付します
ワークシートの成果物を添付します



探究学習 × 英語 × SDGs

実施校：新潟青陵高等学校 教諭名：石塚和洋

対象	1 学年	単元名	Communication English Land Mark 啓林館) Edo : A Sustainable Society その他
科目	総合的な探究の時間、コミュニケーション英語	目標	(1)プラスチックごみについて、SDGsの観点から考えること (2)探究学習(SDGs)と教科の連動を意識し、今社会に求められていることを考えさせるために自分の頭で考えたり、他者の意見を聞いたりして、自身の考えを明確にもつこと (3)江戸時代の循環型社会に関する英文を通して、現代と比較したり、個人でできることやすぐにできることなどを考えること
参考資料	コミュニケーション英語教科書 アイデアブックなど		

期待できる学習効果

今後の探究学習や日常生活で、持続可能な社会を創るために行動する

授業内容

(2年間かけての取り組みです)

5月：(1) 新潟県の課題「人口減少と少子高齢化」について講演を聴く。その後グループワークで探究する。
(以降、2月まで継続実施)

(2) SDGsの概要を説明。テーマ：「自分事として捉えてみよう」

7月：「スポーツゴミ拾い」に参加。新潟市内の海岸清掃でSDGsの必要性を体感する。SDGsアイデアブックを参考に、スポーツゴミ拾いはどのゴールに関連するかを考える。

9月：1週間に2つずつ、アイデアブックのゴールをワークシートに要約する。ゴールのポイントやキーワード、アイデアをまとめてSDGsの理解を深める。2ヶ月継続し生徒それぞれが関心を示す分野が分かってきた。

11月：SDGsカードゲームを実施。SDGsがより深く理解できたと感じています。

1月：英語の教科書で江戸時代の持続可能な社会についての英文を読み、現代との違い、相似点、個人でできること、リサイクル産業についてグループワークをした。

現在の日本のプラスチックゴミに関して、東南アジアに輸出されているニュースを見て、身近な行動をするにはどういふことを意識すればよいかを考えた。また、9月に比べ、それぞれのゴールが連動していて、一つの課題がいくつものゴールに関連していることに気づく生徒が増えた。

江戸時代のことを参考に、英語でアウトプットをし、他者の意見を聞き、自分の考えを再構築した。

2月：新潟県の課題について、SDGsとの関連性を考える。(持続可能な街作り)

生徒側から、ユニクロ「届けよう、服のチカラプロジェクト」に参加したいとの提案があり、コース全体で実施することになった。(6月から実施だが、校内では2月21日にスタート)

3月：発表と続く。

2年次：シンガポール修学旅行で「水」について関連させた取り組みを行う。

探究学習 × 英語 × SDGs

実施校:新潟青陵高等学校 教諭名:石塚和洋

授業の様子



子どもたちの反応・感想 / 指導して感じること

添削前の英文です。また、生徒たちからユニクロさんのリサイクル活動に参加したいという提案があったことが大きな喜びです。ねらいとしていた、「個人でできることやすぐにできることなどを考える」「今後の探究学習や日常生活で、持続可能な社会を創るために行動する」ことが芽生えてきたと感じています。来年度も継続して国際理解、SDGsなどの理解を深める取り組みを継続していきます。

ask6
江戸時代の社会も参考にして、どのようなことに気をつけると持続可能な社会につながると思うか。
We must respect modesty and hate to waste things, because everything is a valuable resource. So I want to do recycle, for example clothes and paper. If many people change their heart, we can achieve a sustainable society.

江戸時代の社会も参考にして、どのようなことに気をつけると持続可能な社会につながると思

I think it is important for us to respected modesty and hated to waste of things. Because, in a society of mass production and mass consumption, we have to carry out the recycling-based society. /so.

ask6

江戸時代の社会も参考にして、どのようなことに気をつけると持続可能な社会につながると思うか。

I think that people needed to recycle what they had. Not only in Japan but also in other parts of the world, 3Rs is important.

SDGsを中核とした地域探究「津南・妻有学」と国際交流

実施校：新潟県立津南中等教育学校 教諭名：松井市子

対象	4学年	単元名	津南・妻有学
科目	総合的な探究の時間	目標	1 SDGsカードゲーム「X」やアイデアブック翻訳プロジェクトを通してSDGsの理解を深める 2 SDGsを中核に、地域住民や海外の学生と地域課題を共有し、多角的視点でビジネスプラン実行を目指す
時間	38時間		
参考資料	アイデアブック SDGsカードゲーム「X」		

期待できる学習効果

- 1 海外の学生との交流を通して、言語や文化の違いを理解し、自己表現する能力を高めることができる
- 2 ビジネスプランを考える過程で、他者と協調する態度や発想力、情報収集・整理力を高めることができる

授業内容

第1フェーズ(2コマ)：SDGsカードゲーム「X(クロス)」を使ってSDGsに慣れ親しむ

- ・Think the Earthから寄贈してもらった「アイデアブック」を使い、SDGsの基本理念を学習する。
- ・金沢工業大学がHPで公開している「クロス」を使い、トレードオフ状態を既存のリソースで解決する方法についてカードゲームで体感する。

第2フェーズ(2コマ)：アイデアブックをグループ毎に翻訳する ※プロジェクト参加

英語表現Ⅰの授業でグループ毎に翻訳し、グループ写真を撮ってwordファイルでまとめる。

第3フェーズ(3日間18コマ)：在日留学生とSDGsを使って地域課題についてディスカッションをする

- ・コミュニケーション英語Ⅰの授業で事前学習(スカイプ)する。
- ・グループ毎に留学生(10名)の出身国の地域課題をSDGsに落とし込み、日本人としてどう向き合うべきかグループ毎に発表する。(第2フェーズで作成したwordファイルを会場に掲示)

第4フェーズ(6コマ)：ビジネスプランの提案をする

- ・地域住民にビジネスプランを発表し、フィードバックをもらう。
- ・SDGs関連を中心に各種コンテストに応募する。

第5フェーズ(2コマ)：文化祭に向けた準備

第2フェーズで作成したwordファイルと寄贈された本、ビジネスプランを地域住民にも取り組みが伝わるように会場に掲示する。

第6フェーズ(5コマ)：海外研修先の学校とSDGsをテーマに交流授業を展開する

- ・地域課題を海外で発表できるよう英語表現Ⅰの授業で教材を作成する。
- ・(水や雪について)両国の地域課題を発表し合う。

第7フェーズ(3コマ)：プロジェクトやビジネスプランを振り返る

- ・英語表現Ⅰの授業でプロジェクトの振り返りを行い、次年度のアクションプランを考える。
- ・ビジネスプランを振り返り、次年度のアクションプランを考える。

SDGsを中核とした地域探究「津南・妻有学」と国際交流

実施校：新潟県立津南中等教育学校 教諭名：松井市子

授業の様子



在日留学生との事前学習(スカイプ)と交流活動(寸劇やディスカッション)の様子



海外研修の交流授業の様子



アイデアブック翻訳プロジェクトの様子



子どもたちの反応・感想

総合的な探究の時間「津南・妻有学」では、地域課題を解決するための探究活動を展開する。4学年は地域課題解決に向けたビジネスプランを作成することが一つの目標である。

第1フェーズでは、アイデアブックを使ったりカードゲームを行ったりした。アイデアブックは読みやすい構成で、親しみを感じている生徒が多かった。SDGs17の目標が差し込んであり、そのシートに英語を書き込んだ。SDGsカードゲーム「X」は初級編と発展編に取り組んだ。英語版は次年度他学年と合同で取り組む。

第2フェーズでは、ビジネスプランのグループ毎に訳したいゴールを選択し、グループ写真を撮ってwordファイルにまとめた。熱心に翻訳に取り組み、ALTのチェックも受けて満足そうだった。

第3フェーズでは、英語を使ったディスカッションに取り組む。諸外国の地域課題に興味を示し、地球規模で様々な問題に向き合えたことは有意義であった。

第4・5・6フェーズでは、海外研修ムードの中、ビジネスプラン発表や文化祭準備に取り組み、SDGs関連のコンテストにも応募するなど、発信することを意識した期間である。

第7フェーズは、新型コロナウイルスのせいで延期となったが、新年度に実施予定である。

SDGsを中核に総合的な探究を展開できたことは、より広く深く地域課題と向き合うことにつながったので、次年度は地域との関連を増やし、学校全体や教科横断的に取り組みを拡大して展開したい。

総合的な探究の時間—SDGsについて考え、実践する—

学校名:愛知県立大府東高等学校 名前:杉山久美子

対象	第2学年	単元名
科目	総合的な探究の時間	SDGs探究
時間	週1時間×20	目標
参考資料	その1 総合的な探究の時間を活用し、自身の考えを表現する能力伸ばす。 その2 SDGsに関するそれぞれの研究成果を他の生徒と共有することで、これらの問題について当事者意識を持って捉えられるようにする。	
	アイデアブック NOLTYスコラ探究ブック インターネット等	

期待できる学習効果

- ・その1 総合的な探究の時間にグループで研究した成果を、クラス単位、学年単位で発表する。自身の発表を振り返ったり、他のグループの発表を見たりすることで、自身の発表の改善に繋がるとともに、発表回数を多くこなすことで人前で話すことに慣れる。
- ・その2 同じグループの生徒と協働し、1つのテーマについて研究することで、自分だけでは気づかない視点でSDGsについて研究を進められる。
- ・その3 他のグループの発表を聞くことで、新たな問題に気づくことができる。

授業内容

6月～7月:グループ研究

- ・『未来を変える目標 SDGsアイデアブック』を参考に、自分たちが探究したいテーマを決める。
- ・決定したテーマについて、現状を調べ、その解決のためにどのような実践が可能か探究する。

9月:クラス内のポスター発表

- ・教員が見やすいポスターの構成や効果的なプレゼン方法を指導する。生徒同士で評価しあい、互いの改善点を気づかせる。

10月:学年のポスター発表

- ・体育館で全グループのポスター発表を行う。優秀なポスターは学年掲示板、他の生徒の参考になるようにする。

10月～12月:グループ研究

- ・これまでの研究をさらに深めるために必要な研究方法を考えさせる。また、ポスター発表の際に提案した解決方法や、『未来を変える目標 SDGsアイデアブック』を参考に考えた解決方法をグループで実践し、その結果をまとめる。

- ・SDGs Questへの応募を目指すことで、目的意識を持って主体的に研究に取り組ませる。
- ・教員が見やすいスライドの構成や効果的なプレゼン方法を指導する。

1月:クラス内の口頭発表及びSDGs Questへの応募

- ・生徒同士で評価しあい、互いの改善点を気づかせる。
- ・各グループの発表を聞いて、SDGsのゴール達成のために自分たちにできることを考えさせる。

2月:学年代表による口頭発表

- ・クラス内で選抜されたグループが、体育館で発表を行う。代表の発表を見ることで、見やすいスライドの構成や効果的なプレゼン方法について学ぶ。

総合的な探究の時間—SDGsについて考え、実践する—

学校名:愛知県立大府東高等学校 名前:杉山久美子

授業内容2



子どもたちの反応・感想

【発表について】

- ・身振り手振りをした方が相手に伝わりやすいことを実際に他のグループの発表を聞いて実感し、自分も実践することができた。
- ・ただ自分が発表するだけではなく、人の発表も聞くことで発表してる子のいい所とか、少し直した方がいい所が見えて、その分自分の発表のクオリティをあげることができたと思います。
- ・自分ではわかりやすいと思って聞いている側からしたら伝わりにくいことがあることを感じ、相手の反応を見ながら話す大切さを学んだ。

【ポスターについて】

- ・見やすいレイアウトでないと、相手に伝わりづらいのと同時に説明するのも大変になると感じた。
- ・グラフや図を使ったほうが文字だけより見やすいということを学んだ。
- ・実際に海へ行った内容でポスターを作ったので、探究もでき最初から最後まで自分たちの力で出来たので達成感がありました。
- ・1人でやるよりもみんなでポスターを作ったり、発表の原稿を考えた方が、色々な意見が出て自分では気づかなかったところが気づけてよかった。

【SDGsについて】

- ・ゴミの分別をしっかりとすることと3Rを心がける。
- ・自分が思っていたよりもたくさんの環境などの問題があった。
- ・研究をするまでフードロスについて気にすることがあまりなく、食物への関心のなさや、農家の方の苦労を理解していないことにとても反省しました。アンケートの結果を見ても、はっきりとフードロスについて知っている人がとても少なかったので、世の中の人に、食べ物の大切さを知ってもらわなければならないと思いました。
- ・実際に現地に行って自分の目で見ることによって、ネットで調べて出てきた情報よりも得る情報が多いんだなと感じた。現地に行くことが1番大事だなと感じた。
- ・フードロスが思っていたよりも深刻でびっくりした。作っているうちにだんだんとフードロスについて興味を持つことが出来た。特にスマートフォンのアプリでフードロスを減らせる(品質に問題がある商品の低価格での購入)など驚きばかりだった。
- ・SDGsを通して地球が今どれだけ環境破壊されているかわかった。探究で改善点を見つけたのでまずは自分で、できるところから改善していきたい。

SDGsルワンダ協力プロジェクト

学校名: 都立成瀬高等学校 名前: 宇都宮裕

対象	1学年	単元名
科目	総合的な探究の時間	
時間	12時間	目標
参考資料	アイデアブック等	開発途上国の課題に対して日本の高校生ができることは何かを考え、周りを巻き込みながら実行にうつす。

期待できる学習効果

- ・その1 探究のサイクル(課題発見、情報収集、整理分析、まとめ表現)の型を身に付ける
- ・その2 主体性や協調性、やり抜く力を身に付ける
- ・その3 国際理解が深まる

授業内容

週に1回の総合的な探究の時間は、希望制で7つのプロジェクトに分かれて活動を行っています。その中の1つである「SDGsルワンダ協力プロジェクト」では、開発途上国であるアフリカのルワンダについて、現地での活動経験のある外部講師をお招きして、現状や課題を紹介してもらいます。また、紹介していただいた内容だけでなく実際に自分たちで書籍やインターネット、オンラインツアーに参加する等を通して情報収集を行い、机上の空論ではなく、実際に自分たちに何ができるのかを具体的に考えていきます。その中でアイデアブックを活用しました。世界の諸問題に対してのアイデアが多数紹介されているため、生徒たちはその内容も参考に自分たちの企画を考案していきましました。この活動は5人1チームで行っています。生徒たちは自分たちの考案した企画を周りの人を巻き込みながら実践していきます。

SDGsルワンダ協力プロジェクト

学校名: 都立成瀬高等学校 名前: 宇都宮裕

子どもたちの反応・感想

今年は以下の企画が進行中です。(全8つの企画の内抜粋)

①『算数パズルで勉強するきっかけを作る！！』

小学生を対象に、生活の中で必要な計算能力を身に付けてもらうためパズルをつくる

②『学ぶことの楽しさを知ってもらおうプロジェクト』

世界のすごろくに触れてもらい、娯楽に触れながら世界のことを理解してもらう

③『知ってもらおう！ルワンダとワールドビジョンジャパン』

開発途上国や支援する団体に認知度を高め、協力者のすそ野を広げる

④『プロジェクトR』

学校周辺にあるルワンダコーヒーを扱っている店を調査し、まとめ、そのおいしさを広める

海外研修(持続可能な社会を目指して)

学校名:オイスカ学校 名前:新井 昭男

対象	2年生	単元名
科目	総合的な探求の時間	総合的な探求の時間
時間	45分×17	目標
参考資料	「SDGsアイデアブック」等	その1 持続可能な開発目標を知り、日本および世界各国で起きている課題等について知識を広げる その2 世界各国で起きている問題を解決するために自分ができることを話し合い、その考えを深める。 その3 自分たちのまわりにある課題解決の取組について、PowerPointなどにまとめ、クラスや学年外に発表・発信する。

期待できる学習効果

- その1
「SDGsアイデアブック」を通して、現在の自分たちの生活が当たり前ではなく、世界各国のかかわりが不可欠であることを知る。
- その2
これまでの諸活動が「持続可能な開発目標」とかかわっていることを確認し、課題を身近なものとして捉えることができる。
- その3
PowerPointなどを用いて他者に発表・発信することを通して、SDGsの考え方を広げ、深めることができる。

授業内容

○授業内容や授業のポイントなどを教えて下さい。

本校では、2年生の11月下旬に「海外研修」で約10日間から2週間ほど、フィリピン・インドネシアに出向き、NGOオイスカインターナショナルの活動に取り組む活動があります。しかし、昨年度と本年度は新型コロナウイルス流行の影響により、現地への渡航が難しく、実施を断念しました。そこで、この活動の代案として、世界各国の課題解決につなげる、探究活動を行うことにしました。これは、本校が教育の柱に据えている「オイスカSDGs教育」に基づき、SDGsの視点で問題点を洗い出し、改善策を考え、発表・発信することの具現化の一つです。

1学期までに、NGOオイスカインターナショナルが行っている活動を理解し、2学期からは「SDGsアイデアブック」を参照に、SDGsの視点で課題を捉え、その解決のためのチームを編成し、インターネット等で調査活動をしながら、PowerPointなどで発表資料の作成を行います。資料完成後はクラスや学年で発表会を開き、生徒の相互理解を深めながら、課題意識や実効性の向上を目指します。

これらの活動は、次年度、進路決定期を迎えるにあたり、資料作成やプレゼンテーション等を通して表現力・発信力を高めるとともに、職業観や将来の進路目標の具現化につなげるとともに、自己肯定感の向上につなげることをねらいます。

海外研修(持続可能な社会を目指して)

学校名:オイスカ学校 名前:新井 昭男

子どもたちの反応・感想

反応・感想について

- ・日本および世界各国の課題をSDGsの視点でみると、たくさんありすぎて何から始めればよいかわからなくなるが、身近なところから始めると自分のゴールが見えて、他の活動を始めてみるきっかけになる。
- ・調べ方やまとめ方、発表に至るまで、自分がどのようにチームに関わり、やってこれたのか見直す機会になった。
- ・「SDGsアイデアブック」には様々な事例や報告などが載っていて、とても見やすかった。また、検索サイトで調べるときの参考になった。

探究活動



発表会の様子



持続可能なコミュニティをつくろう

学校名: 愛知県立豊田東高等学校 名前: 清水 美季

対象 高校3年生

科目 異文化理解

時間 5時間

参考資料

アイデアブック(英語版)
Issues That Matter
(金星堂)

単元名

持続可能なコミュニティ

目標

その1 持続可能なコミュニティの例を英語で読むことができる。
その2 自分たちのコミュニティの問題点を解決する持続可能なコミュニティを考え、英語で発表することができる。

期待できる学習効果

- ・その1 世界の持続可能なコミュニティの例について知り、自分たちの地元のコミュニティについて持続可能な街づくりを考えること。
- ・その2 持続可能な街づくりの発表を通して、さまざまなSDGsの目標について知ること。

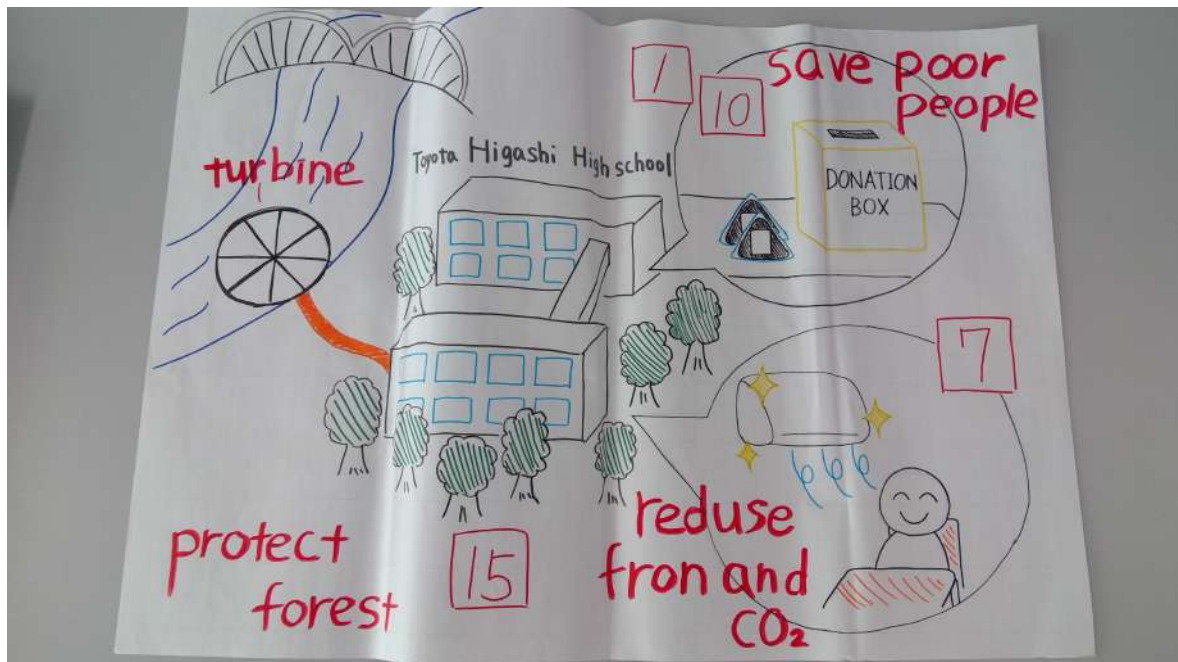
授業内容

- (1)教科書 Issues That Matter(金星堂)Unit 2 Sustainable Communitiesを読み、世界の持続可能なコミュニティの例を理解する。
 - (2)教科書の本文の中でSDGsの目標に関わっていると思う部分を見つけ、クラスで発表し、共有する。
 - (3)アイデアブック13「気候変動に具体的な対策を」に掲載のトランジション・タウンを参考資料として紹介する。
 - (4)自分たちの地元のコミュニティにおいて、問題だと考えている点をイメージマッピングで分析する。
 - (5)持続可能なコミュニティの例を参考にして、地元の街を持続可能なコミュニティにする改善策をポスターにまとめ、発表する。
- ・自分たちのコミュニティの中でさまざまなSDGsに関わる部分を見つけ、改善策を考えることで Think globally, Act locallyを実現した。
・アイデアブックの事例を紹介し、「あなたが今いる場所でトランジションを始めるとしたら、何から手をつける？」という言葉に注目することで、自分たちも考えてみよう自分事にすることができた。

持続可能なコミュニティをつくろう

学校名: 愛知県立豊田東学校 名前: 清水 美季

授業内容2



子どもたちの反応・感想

- ・SDGsについて学び始めた頃だったので、最初にコミュニティの中でさまざまなSDGsに関わる事例を知ることができて、SDGsとは何か理解することができた。
- ・持続可能な取り組みの中で地元でもできることは何かを考えることで、自分とは遠い国の話ではなくて、自分たちの学校や地域からでもSDGsを発信していきたいと思うようになった。
- ・コミュニティづくりには、環境問題にかかわる目標もあれば、心豊かに暮らしていくという目標までさまざまなコミュニティが考えられるので、自分たちの理想のコミュニティについてしっかり考えることが必要だと感じた。
- ・自分たちの考えたコミュニティを他県の高校生や、他国の高校生と共有出来たらいいなと思った。

SDGsから地域理解、企業探究、進路決定へ

学校名：静岡県立富士高等学校

対象	1年生	単元名	SDGsから地域理解、企業探究、進路決定へ
科目	総合的な探究の時間	目標	3時間の目標 その1 SDGsを改めて理解する その2 社会の様々な問題を自分の問題として考える
時間	105時間うち3時間		
参考資料	アイデアブック等		

期待できる学習効果

- ・その1 SDGsについてその理念や17の目標を理解する
- ・その2 社会の様々な問題を自分の問題として考え、その後の地域理解、企業探究にSDGsの考え方を生かす
- ・その3 最終的に学校の教育目標である「社会の発展に寄与するために、主体的に学び続ける人材」として個々の生き方を考えるきっかけとなる。

授業内容

○ 1年生

4月 中学校でも学んでいる生徒が多いSDGsを改めて知る。(1時間)

SDGsの説明に加えて、Think the Earthアイデアブックを配布。

外部講師主導のもとSDGsカードゲームをしながら、慣れ親しむ。(1時間)

SDGsカードゲームの振り返り(1時間)

5月～7月 ソーシャルチェンジ、OB企業訪問(質問力向上講座等)

9月～3月 ※教育と探求社「エンジン」を使用しながら、地域の新しい可能性について考える。

○ 2年生

教育と探求社「クエストエデュケーション」を使用しながら、グループで企業から与えられるミッションに取り組み、社会を変えること、未来を創造することの魅力を感じる。

○ 3年生

「20年後の未来を考える」をテーマに講演を聞いたり、スピーチをしたりするところから、学問探究、大学探究につなげる。

※年度によって、マイナビ、認定NPO法人カタリバマイプロジェクトなどで地域探究を行っている。

子どもたちの反応・感想

<https://radio-f.jp/2020/12/30/post-21794/>

こちらに生徒インタビュー記事が掲載されています。

<http://www.edu.pref.shizuoka.jp/fuji-h/home.nsf> 富士高校の様子に生徒の様子が掲載されています。普段から生徒総会で紙の資料配付をやめる(目標15)など、生徒がSDGsを意識した生活をおくっていることがわかります。

対馬が抱える課題の解決策を考え、対馬市に提言しよう！

学校名：長崎県立対馬高等学校 名前：山村なつみ（2学年 総合的な探究の時間担当）

対象	第2学年	単元名	(ESD対馬学)対馬が抱える課題の解決策を考え、対馬市に提言しよう！
科目	総合的な探究の時間	目標	その1 地元「対馬」が抱える課題を発見する その2 書籍やインターネットの情報だけではなく、実際に地域に方々に話を聞いたり、自分の目で見たりして、課題解決の方策を探る その3 課題解決策を対馬市に対して提言する際に、PowerPointを用いて発表を行う
時間	25時間		
参考資料	アイデアブック等		

期待できる学習効果

- ・その1
課題発見能力・課題解決能力を鍛える
- ・その2
グループ活動や地域の方との交流を経て、思考・判断・表現力だけではなく協働性を身につける
- ・その3
ふるさとの課題から、日本や世界へと視野を広げ、持続可能な社会を創る力を身につける

授業内容

- ①対馬市が抱える課題について調べ、探究したいテーマごとにグループを作成。
※対馬市役所にも協力していただき、地域の課題を「知る」ところから始めた。
- ②グループでテーマを掘り下げ、文献調査やインターネットによる情報収集を行う。
※特にインターネット上の情報を扱う際には、その情報の正確性や引用元を確認することを心がけさせる。
- ③各グループでインタビューやフィールドワークを実施。事前にアポイントメントを取った事業所等に訪問し、課題に関する理解を深める。
※対馬市役所や対馬振興局にも協力していただき、多くの事業所から協力を得ることができた。また、生徒自身が電話によってアポイントメントを取ることで、電話対応のマナーなど社会に出る上で必要となる力を身につけさせることもできた。インタビュー・フィールドワーク活動後は、協力していただいた事業所に御礼状を書き、送付した。
- ④インタビュー・フィールドワークの成果をまとめ、PowerPointを用いて中間報告を行う。
※文化祭の場を借りて、中間報告を行った。
- ⑤課題解決策を提案するうえで、補足のインタビュー・フィールドワークが必要であればグループごとに実施する。
※遠方の事業所に対しては、オンラインによるインタビューも実施した。

対馬が抱える課題の解決策を考え、対馬市に提言しよう！

学校名：長崎県立対馬高等学校 名前：山村なつみ(2学年 総合的な探究の時間担当)

授業内容2

- ⑥PowerPointを用いて最終報告をまとめる。
- ⑦似ているテーマごとで会場をわけ、発表会予選を行う。
※審査員として、対馬市役所・対馬振興局の職員を招き、評価・講評をしていただく。
- ⑧予選を勝ち上がったグループで、発表会本選を行う。
※審査員として、対馬市長・対馬振興局長を招き、評価・講評をしていただく。
- ⑨これまでの活動を振り返り、ポートフォリオにまとめる。

子どもたちの反応・感想

- ・最初はSDGsに関心はなかったけど、二年生になって本格的に学んで対馬市の抱えている課題を知ることができ、改めて自分が対馬市にできることはなにか考えようという気持ちになったので良かった。
- ・対馬が抱えている問題をこの活動を通してより深く知ることができたし、活動前は知らなかったことについても知ることができたので良かった。その中でも環境問題は自分も実際に海岸清掃やごみ拾いをして改善することに貢献できるので、これからボランティアなどを通じて活動したいと思った。
- ・世界の問題を知り、それが対馬にもあることに驚いた。自分たちでテーマ設定して解決方法を考えるのは難しかったけど自分たちでできて達成感を感じることができた。インタビューなどを通して対馬にたいする理解も深めることができてよかった。朝鮮通信使についてもくわしく学べて良い体験ができた。このことを普段の勉強にも生かしたい。
- ・今回の活動を通してまた、新たな面から「対馬」について知ることが出来た。また、同時に仲間と協力して課題解決に向けて努力することが出来て、今後につながる良い経験をする事が出来た。
- ・対馬のことをここまで真剣に考えることはなかなかないので自分が住んでいる地域のことを様々な視点から学ぶことができ、知識が増えたと思います。問題点がたくさんあることを知れました。
- ・小学生のときから学んできた対馬という分野をより深く考えることができ、またその現状について知ることができた。この調査を踏まえて私たちはなにをしなければならないのか、何ができるのかを考えて提言するまでがとても楽しかった。学生の立場から見る対馬はこういうものなんだというのを市長さんたちにもっと知ってほしい。
- ・中学からこのような学習はたくさんあったけど、今までは考えて調べて校内で発表で、終わっていた。高校では社会で様々な問題に携わる方々の前で発表させてもらう機会があり、自分自身が貢献できていることを実感することができた。いい経験になったと思う。

SDGsを知ろう

学校名:宮城県多賀城高等学校 名前:荒川清政

対象	高校2年生	単元名
科目	総合的な学習の時間	課題研究
時間	3時間	目標
参考資料	・アイデアブック ・世界がもし100人の村だったら ① 知識を活用する力・必要性を見出す力を身に付ける。 ② 研究途中での議論や中間発表・最終発表における質疑応答経験を通して批判的思考を伸長させる。 ③ 議論する力・質問する力の深化を図る。	

期待できる学習効果

その1 世界の課題を身近に感じ、自分事としてSDGsをとらえることができる。

その2 SDGsの17の目標を知り、研究テーマとの関連性を見つける。

授業内容

- ① 世界がもし100人の村だったらを体験する。
特定非営利活動法人開発教育協会で作成した、「世界がもし100人の村だったら」を使用し、アクティビティを用いて世界を体感する取り組みを行った。その中で、SDGsと関連付けて、識字や男女平等、水へのアクセスについて、世界と日本の違いについて理解を深めた。
- ② 課題研究のテーマを設定し、研究を深める。
各グループに分かれ、アイデアブックを用いて、研究のテーマを決定していきました。グループ内で議論をし、SDGsの目標に近づけるか、自分事として考え、それを波及することができるかなど、検討を繰り返し完成に近づけていきました。

授業の様子



課題研究の
テーマ設定



中間発表会



課題研究発表会では、ポスターを作成し、プレゼンを行いました。

子どもたちの反応・感想

何を知ることができましたか？

5番にもあるように「ジェンダー平等を実現しよう」という目標が世界で120位で日本はジェンダー平等についての意識が低いことが分かった。また、アフリカの方では5秒に1回という高頻度で誰かがセクハラしているというとてもびっくりした。

これから、どのように自分の行動を変えていきたいですか？

- ・男のり分り隔てなく平等に接する
- ・電気を節約する
- ・水を節約する
- ・自然を大切にする
- ・使わない物を寄付する

課題研究でどの目標に迫りたいですか？

11番の「住み続けられるまちづくりを」から、私たちの研究内容とうまく結びついて誰もが住み続けることができる快適なまちをつくるための一歩になれたらと思う。

何を知ることができましたか？

日本のような先進国が男女平等などについてのSDGsが達成できず、ルワンダのような発展途上国と知られるような国の方が、国を挙げてSDGsに取り組んでいることが分かった。

これから、どのように自分の行動を変えていきたいですか？

日本は4つのSDGsを達成しており、その中でも教育面を達成できているということは、自分の取り組みが正しい、よりよいものになるのではないかなと思った。

課題研究でどの目標に迫りたいですか？

私たちは研究のために実際に幼稚園に訪れて調査を行っています。お世話になる方との交流、刈賀城高校として、刈賀城高校生としてのコミュニティを考えたときに、11番目の目標のパートナーシップで目標を達成しようというのが私たちのゴールかなと思いました。

高1総合講座 SDGsと課題研究

学校名: 武蔵高等学校 名前: 安田明弘

対象	高1	単元名
科目	総合学習	SDGsと課題研究
時間	年間30時間程度	目標
参考資料	アイデアブック等	その1: 個人の興味関心にそった諸課題に関して、各自研究テーマを設定し、1年間をかけて課題研究を行う。 その2: 各自設定した諸課題とSDGsとの結びつきについて理解を深める。 その3: 1年間の研究報告を通して、自身の研究に対する振り返りをするとともに、他の生徒の研究報告を通して、より複眼的な視点でSDGsや諸課題を見つめることができるようになる。

期待できる学習効果

- ・ 基本的なリサーチスキル(課題設定、研究、報告等)の獲得
- ・ 社会課題や自身の設定課題について、自分ごととして捉え、実際に五感を動かして行動する経験を得る。
- ・ 社会課題やSDGsに関わる複雑なシステム理解のための複眼的な視点の獲得。

授業内容(各講座の概要・生徒が設定した課題テーマ等)

授業の前提

本校では、高校の「総合的な学習の時間」(これから探究となるが)として、本校の20人以上の教員が、それぞれの得意分野を活かした20以上の選択授業を用意し、生徒はそこから任意の講座を1年間受講するという総合講座を実施している。その中の一部の講座をSDGsに紐づけて、SDGs関連講座として、各講座の課題研究の成果を合同発表会として生徒主体で共有する活動を行った。SDGsへの導入として、寄贈頂いたアイデアブックを利用させて頂いた。以下SDGsに関わる活動を行った講座の一部を紹介する。

SDGsに関連する課題研究を行った講座(SDGsに関連する課題テーマ例)

(1) SDGs実践講座

講座概要:

SDGsとは何か、年度の前半はSDGs関連の書籍の輪読をもとに紐解き、年度の後半では実際に持続可能な林業の取り組みを町単位で行う宮城県の鳴子温泉を訪問し、針葉樹の植林と皆伐で荒れてしまった森を豊かな100年の森に作り直す営みをしながら、木材のカスケード利用や、木材の100%活用を目指してのCHPというシステムを導入して小規模エネルギー供給事業を試験的にを行っている林業事業者を訪ねて、壮大な取り組みの一面を学んできた。

生徒が設定した課題テーマ例:

「くりこまくんえんの取り組み」「サステナヴィレッジの取り組み」「こけし」「湯治学」「鳴子の米プロジェクト」

高1総合講座 SDGsと課題研究

学校名: 武蔵高等学校 名前: 安田明弘

授業内容(各講座の概要・生徒が設定した課題テーマ等)

(2) 国境の島「対馬」を体験する

講座概要:

現代において、対馬は「課題先進地域」といわれる。過疎や高齢化の問題だけでなく自然環境の変化によって危機的な状況の集落がある。そこには日本の将来の縮図があり、現代日本の抱えるさまざまな課題を見ることができる。「東京」を中心とした発展ありきの未来志向ばかりでは今後の日本が成り立たないことはもはや自明である。SDGsを視野に入れながら持続可能な社会をどう描くのか。「中央」から離れて「国境の島」へと足を運び、その空気を呼吸し、外からの視線を交えて自らの足下を見つめ直すとともに、これからの社会について考えた。

生徒が設定した課題テーマ例:

「明治後期以降の対馬要塞と東京湾要塞」「赤米神事など対馬の祭りと神事」「オソロシドコロと天道信仰」「ツシマヤマネコ保護と有機農業」「孝行芋(サツマイモ)と対馬のいも料理(「ろくべえ」など)」「島おこしと地域活性化」「対馬の製塩業」「対馬の漂着ゴミ」「対馬とイノシシ、シカ」

(3) 日本の農業について考える

講座概要: 農業は大地に根ざした人の営みである。農業を通して日本のこと、世界のこと、私たちの生き方を考えることは必要ではないかと考えた。主な活動として、八王子の水田実習と学内での作物の栽培を行った。本校では学校全体を(そこに集う人も含め)、「学びの土壌」と呼んでいる。そこからインスピレーションを受け、学内でリアル土壌教育をしようと考えた。芸術科研究室前の空いている土地を開墾し、武蔵ファームを作り、生徒はそこを耕し、思い思いの野菜の栽培を行った。また、各自が日本の農業に関するテーマを設定し、水田実習や栽培の体験をもとに課題研究を行った。

生徒が設定した課題テーマ例:

「農山漁村資源の再生可能エネルギーとしての活用」「農業分野の気候変動適応策」「災害リスクへ備える体制の強化」「有機農業・環境保全型農業の拡大」「環境保全型農業直接支払交付金」

(4) ドローン体験

講座概要: これから様々な分野で利用や応用が期待されるドローン技術について、実際にドローンに触れ体験するとともに、撮影用のドローンを利用した学校紹介PVの作成を通し、ドローンの利用の可能性や難しさを体験した。そして、実際に手に触れたドローン技術がこれからの社会で自分たちの身の回りの生活をどのように変えていくのか、またSDGsなどの社会課題の解決にどのように貢献していくのかを考えた。

生徒が設定した課題テーマ例:

「ドローンの農業利用」「ドローンを利用した海洋保全事業」「ドローンを利用した医療品の運搬」「ドローンと物流の未来」「ドローンとエンターテインメントの未来」

探究活動

学校名:長岡聾学校 名前:三國広一

対象 高等部産業技術科
1～3年

科目 総合的な探求の時間

時間 全12時間

参考資料

アイデアブック等

単元名

探究活動

目標

大人も子供も含めより多くの人にSDGsについて知ってもらう。

期待できる学習効果

- ・SDGsについての理解が深まる。
- ・自身と社会とのつながりを考えられる。
- ・自ら考え、行動する姿勢が身に付く。

授業内容

<1学期>

○人種差別

ネルソンマンデラを題材に人種差別について学び、差別がない世の中にするために正しい知識と理解が必要だということを学びました。

○マイノリティ「義足は個性 笑顔は個性」

読売新聞記事「ニュースで道德 笑顔は個性」を題材に、自分の個性とマイノリティについて学びました。

○ジェンダー

ジェンダーとは何か、日本のSDGs目標5の達成状況、男性の育休取得について考えました。

○食品ロス

日本の食品ロスの状況について学び、金沢工業大学作成の「SDGsアクションカードゲームx」を通して解決策を考えました。

○アイデアブックの活用方法

アイデアブックをどのように活用するかを考えました。

本校は幼稚部、小学部、中学部、高等部普通科、高等部産業技術科に分かれています。生徒と相談し、それぞれの学部で分配し、教室等においてもらうことにしました。アイデアブックは生徒自身がそれぞれの学部の先生のところに出向き、活動の趣旨を説明しました。

<夏休み課題・冬休み課題>

読売教育ネットワークの「ワークシート通信」の中から、SDGsに関わるものを宿題にして各自で取り組んでもらいました。

探究活動

学校名:長岡聾学校 名前:三國広一

授業内容2

<2学期>

○ファッションロス

ファッションロスについて学び、ロスを減らすために自分ができること、学校でできることを考えました。

○SDGs探検

長岡技術科学大学の先生に出前授業をしていただきました。授業後半はチームに分かれて謎を解いていくSDGs連合ゲームで盛り上がり、楽しくSDGsについて学ぶことができました。

○活動内容の紹介とユニセフ募金

探究活動の様子やSDGsについて紹介する掲示物を作成し、文化祭で展示しました。同時にユニセフ募金も実施しました。

<3学期>

○食育

郷土料理について学習し、実際に新潟の郷土料理「のっぺい汁」を作りました。

○エコプラランナー回収活動

読売新聞教育ネットワークの「ガンダムR作戦特別編」に応募し、エコプラ体験キットをいただきました。体験キットを作成したあとに出るランナーの回収を各学部呼び掛ける活動をしました。

○SDGsアンケートの作成

より多くの人にSDGsについて知ってもらうため、GoogleFormsでアンケートを実施することにしました。小学部の児童でも答えられるように内容を工夫しました。

子どもたちの反応・感想

写真は「SDGs探検」の様子です。大学を訪れる予定でしたがコロナの影響で、出前授業という形で長岡技術科学大学の先生に講義していただきました。講義ではSDGsの考え方、SDGs9ハブ大学の活動について、SDGs問題の解決につながる研究について詳しく教えていただきました。大学の先生の授業で最初は緊張していましたが、後半の長岡技術科学大学が開発したSDGs連合ゲームで盛り上がりました。問題は難しかったのですが、チームで協力し、謎解き感覚で楽しみながら学ぶことができました。



総合探求

学校名: 日本文理大学附属高校 名前: 安東慎一郎

対象	1	単元名	SDGsに関する具体的な取り組みを知る
科目	探究	目標	SDGsに関する具体的な取り組みを知る
時間	5		
参考資料	SDGsアイデアブック等		

期待できる学習効果

- ・ SDGsに関する具体的な取り組みを知り、自分でも出来る取り組みを考える。
- ・ 自分が何が出来るか、何をすべきかを考え、行動につなげる。

授業内容

SDGsアイデアブックから興味関心を持った取り組みを調べる。
タブレット等を活用する。

グループ内で発表する。
クラスで発表する。



総合探求

学校名: 日本文理大学附属高校 名前: 安東慎一郎

授業内容2

SDGsの具体的な事例を知り、自分に何ができるか考える。
自分が何ができるか、何をすべきかを考え、行動につなげる。



子どもたちの反応・感想

私は服についてのSDGsは学生の私
たちでもできることがあるんじゃないかと思
いました。1つ目は着なくなった服を寄付する
ことです。子供の頃の服などの着なくなった
服を近所の人やそういう寄付を求
めている企業に送れると思います。
2つ目はエシカルファッションと
いう人や環境に負荷をかけない
衣服を着ることです。最近では、そ
ういうものを取り入れているお店
があるそうです。そこでその負
荷をかけない服を買うことで環境な
どに良いと思いました。

9のクライシスマッピング、被災地
の地図をみんなで作る、です。私
たちは普段から SNS を使うので、
その投稿や書き込みを被災地関連
の投稿や書き込みにすればたく
さんの情報を提供することができ、
被災地のマップづくりの力にもな
れます。

プラスチックのゴミを減らすため
に、レジ袋とか買わないでエコバ
ッグとかを持参したり、海辺のど
み拾いのボランティアとかに積極
的に参加する。

←

総合的な探求の時間(課題設定)

学校名:秋田県立湯沢翔北高等学校 名前:佐々木慎二

対象	2年生	単元名	身近な問題から持続可能な社会へ
科目	総合的な探求の時間	目標	その1 身近な事柄に目を向け、問題を考えられるようになる その2 ゴールに向けて自分自身が意識しどのような行動ができるのか考える その3 ゴールに向けて周りの行動を変えるために何ができるか考える
時間	2時間		
参考資料	アイデアブック等		

期待できる学習効果

- ・普段気に掛けることがなかった地元の風景などに注目するようになり、問題意識が向上する
- ・問題を解決する糸口として、SDGsというゴールを設定できるようになる
- ・問題意識と解決のための行動を考え、行動できるようになる

授業内容

講堂に2クラス約70名を集め、スライドを活用しながらSDGsに向けてやれることを考える。
(スライドは別添します)

- ・通学路に潜む、今まで気づかなかったことについて写真を撮影し
その写真について4～5人のグループで確認し、何に気づいたのかを
グループでセッションし、地域課題を共有する。
写真やセッションした内容を classroom1に提出する
(全体での共有)
- ・SDGsについて周りの行動を変えるために何ができるか考える
地域課題をSDGsのどの側面になるか分けていく
その上で、どのように解決するのかを考え
グループで話し合う
話し合いでは、Jamboardを活用し意見をリアルタイムで共有する
その結果を classroom1に投稿する
- ・全国ではどのような取り組みが行われているかを知り
自分たちでやれることの参考にする
全国高校生マイプロジェクトアワードの活動事例などを検索し、
その中で見つけたことをグループで話し合う

～みんなで守る地域の未来プロジェクト～

学校名:愛媛県立松山工業高等学校 名前:藤原清人(教務主任)

対象	1年生及び有志	単元名	SDGsの視点から地域課題について考える!!
科目	総合的な探究の時間	目標	その1 SDGsの目指す目標を理解する その2 世界の取組を理解するとともに身近な取組について知る その3 自分ごととしてどのような取組が行えるのかアクションプランを考え実践する。
時間	2時間×8回		
参考資料	アイデアブック 防災マップ 各種カードゲーム等		

期待できる学習効果

- ・その1 SDGsについて理解し、なぜ全世界で取り組まなければならないかを理解する
- ・その2 身近な取組を知り、自分にできることを考え実践する態度を養う
- ・その3 創造力・実践力・企画力の向上

授業内容

5月の第2週目をSDGs週間として位置づけ、1年生に対し2時間×8クラスに対しアイデアブック用いてSDGsの実践例等について学習した。

- ① アイデアブックを用いて興味のあるゴールの実践を選び出す。
- ② 実践について調べ、小型ホワイトボードに1班2枚にまとめさせる。
- ③ 各班でまとめた内容を2分以内で発表する。
- ③ 質疑応答



ホワイトボードにまとめている様子



まとめた内容を発表している様子

地域防災×SDGs ～みんなで守る地域の未来プロジェクト～

学校名:愛媛県立松山工業高等学校 名前:藤原清人(教務主任)

授業内容2

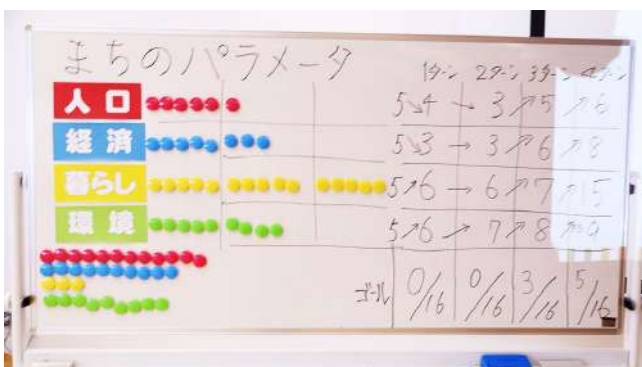
SDGs週間にアイデアブックで学んだ1年生に対し「新貿易ゲーム」や「SDGs de 地方創生カードゲーム」「フードマイレージ」等のゲームを通じて自分ごととして考えるワークショップを行った。



ワークショップの様子

授業内容3

市役所の職員の方と共に、「SDGs de 地方創生カードゲーム」を通じてSDGsと地方創生のための取組やつながりの大切さや対話の重要性について考えるワークショップを行った。



市役所の方とのワークショップの様子

授業内容4

これまでのワークショップに参加した生徒有志が中学校に行き、「新貿易ゲーム」を通じて貿易を通じた世界のつながりと、自分たちに何ができるのかを考える出前授業を行った。



出前授業の様子(一部オンラインで実施)

生徒たちの反応・感想

- ・SDGsが身近なものだと知ることができました。自分のことからコツコツ継続したいと思いました。
- ・一人ではできないことも人とつながることで大きな力になることが分かりました。
- ・社会人の方とゲームを行うことで、みじかな方々がいろいろな取組や課題解決のために頑張っていることを知ることができました。卒業後は就職をする予定ですが、社会人として自分にできること、会社や組織でできることに積極的に取り組んでいきたいと思いました。
- ・対話に大切さを知ることができたとともに、対話の難しさを実感しました。広い知識の必要性和つながりの大切さ、広い視野でものを見ることの重要性を知り、これからの高校生活をより充実したものにしていきたいと思いました。
- ・中学生と一緒にワークショップをすることで、いろいろな考え方を知ることができました。また、企画や運営の難しさを体感しました。相手の気持ちや考え方を尊重することの大切さを知ることができました。

総合的な探究の時間

学校名: 秋田県立湯沢高等学校 名前: 田口 朋美

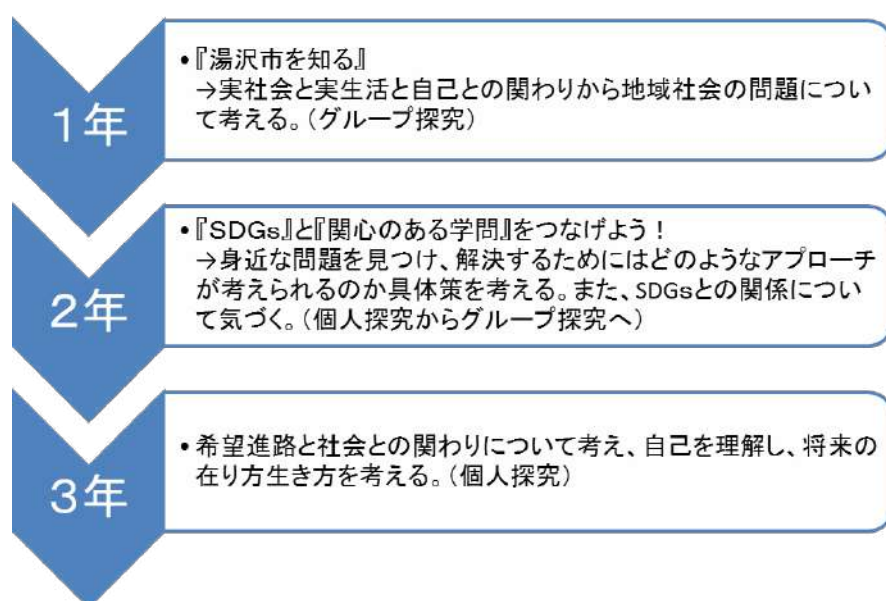
対象	1～3年生	単元名	1年『湯沢市を知る』 2年『SDGsと関心のある学問をつなげよう!』 3年『調べる 伝える 話し合う』～進路希望実現に向けた表現力の向上～
科目	総合的な探究の時間	目標	(1) 人・社会・自然との関わりの中で、社会の一員として何をすべきか考える。 (2) 確かな知識・技能だけでなく、その知識を社会問題に柔軟に当てはめて自分 なりの解決策を想像する思考力・判断力・表現力、そして多様な人々の立場を理解 し、協働しながら主体的に解決する力を身につける。 (3) 探究的な見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、自 己の在り方生き方を考えながら、新たな価値を創造し、よりよい社会を実現しようと する態度を身につける。
時間	各学年1単位		
参考資料	・アイデアブック ・2030SDGsで変える (朝日新聞2020、2021年度版) 等		

期待できる学習効果

- ・日常生活で意識していなかったことが、SDGs目標に繋がっていることを意識することができる。
- ・社会問題が自らも関わる問題である事に気づくことができる。
- ・他者と協力し合うことでその活動が波紋から波になり、いずれは世界を動かせることを知る。

授業内容

本校の「総合的な探究の時間」の3年計画



総合的な探究の時間

学校名: 秋田県立湯沢高等学校 名前: 田口 朋美

授業内容2

1年『湯沢市を知る』

《1学期》

- 湯沢市の現状について知る。
- 関心のある分野の現状を理解し、探究活動の課題を設定する。
- 「RESAS」等のデータの扱い方、「情報」「データ」の活用の仕方を学ぶ。
- シンキングツールの活用

《夏休み》

インターシップやフィールドワークを行って情報収集し、視野を広げる

《2学期》

- フィールドワークなどの情報を生かして問題解決に向けて提案する。
- 中間発表

《3学期》

- 発表会①…各分野ごとに発表会をして代表チームを決める
- 発表会②…代表チームの発表会(全体で共有する)
- 振り返り&まとめ
- 小論文の執筆

《春休み課題》

『SDGsと関心のある学問をつなげる!!』

探究活動を行うに当たり、課題設定に対して社会への関心の薄さなどから生徒はなかなか自分事に落とし込むことができない。アイデアbookは図書室に配置し、全生徒が必要なときに手に取ることができるようにしている。

そのため、2年生の「総合的な探究の時間」が主に活用すると考えていたが、図書室にある事で、1・3年生ともに探究活動以外でも活用していた。(総合型・推薦受験のためなど)

2年 SDGsと関心のある学問をつなげよう！

《1学期》

- 春休み課題のワークシートを手がかりに書籍から新たな知識を得て、個人探究を進める。
- 課題設定

《夏休み》

インターシップやフィールドワークを通して情報収集し、視野を広げる

《2学期》

- ポスター制作
- ポスターセッション

《3学期》

- 個人探究を踏まえ、グループを編成
- 課題設定
- グループ探究

3年「調べる」「伝える」「話し合う」

→進路希望実現に向けた表現力向上

1年生、2年生での活動をさらに発展させ、
進路希望先にあわせて各自が必要な表現力を
向上させる(個人探究)

- 情報収集・処理・発信
- 論文・レポートの書き方
- プレゼンテーション力
など

デジタルマップとクライシスマッピング

学校名: 岩手県立沼宮内高等学校 名前: 荒屋敷 由美

対象 1学年

科目 総合的な探究の時間

時間 50分

参考資料

未来を変える目標SDGs
アイデアブック

単元名

9 産業と技術革新の基盤をつくろう 《クライシスマッピング》 他

目標

- その1 古橋教授が行っていることを知る
- その2 クライシスマッピングとは何かを知る
- その3 さらに関心のある単元について考えを深める

期待できる学習効果

- ・その1 授業で行ったことが実体化され、より関心を持ちやすくなる
- ・その2 防災意識を高めることができる
- ・その3 SDGsをより身近に感じられるようになる

授業内容

前半では、岩手町の事業で行ったデジタルマップの講師である古橋教授の取り組みについて読み、そこから自分たちが行ったことが、防災につながっていたということを意識させ、さらに自分たちでもできることがあるのかどうかを考えさせた。

後半では、各自関心のある項目をひとつ読み、SDGsが自分たちの身近なところにも関連しているということに気づかせた。

デジタルマップとクライシスマッピング

学校名: 岩手県立沼宮内高等学校 名前: 荒屋敷 由美

子どもたちの反応・感想

＜前半の感想の一部＞

- ◎古橋教授のおかげで、Open Street Map(OSM)というものを知ることができた。
- ◎OSMを更新していきたい。
- ◎クライシスマッピングや000アプリでハザードマップを作ることができることを知った。
- ◎OSMが被害の規模を抑えるのに役に立つと思う。
- ◎岩手町の地図を作るのに協力したい。
- ◎クライシスマッピングが救助や支援に使われていることを知った。
- ◎多くの人の情報を生かすことで、支援できる可能性があり、助かる命があるということを知った。

＜後半で生徒が選んだ項目＞

- ◎2: 飢餓をゼロに
- ◎4: 質の高い教育をみんなに
- ◎5: ジェンダー平等を実現しよう
- ◎7: エネルギーをみんなにそしてクリーンに
- ◎3: すべての人に健康と福祉を
- ◎12: つくる責任・つかう責任
- ◎13: 気候変動に具体的な対策を
- ◎10: 人や国の不平等をなくそう
- ◎1: 貧困をなくそう
- ◎15: 陸の豊かさを守ろう など

「今まで知らなかったこと、気づかなかったことを知るいい機会となった。」と思っている生徒が大半を占め、さらにその次に「自分たちには何ができるか」ということにまで、多くの生徒が考え及んでいた。

総合的な探求の時間 SDG'sに関する探求

学校名:千葉県立君津高等学校 名前:名本恵子

対象	第3学年	単元名	総合的な探求の時間
科目	総合的な探求の時間	目標	(1)探求の過程において、課題の発見と解決に必要な知識及び技能を身につけ、課題に関わる概念を形成し、探求の意義や価値を理解しようとする。 (2)実社会や実生活と自己との関わりから問いを見だし、自分を課題を立て、情報を集め、整理・分析してまとめ、表現することができるようにする。 (3)探求に主体的・協同的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、新たな価値を創造し、より良い社会を実現しようとする態度を養う。
時間	8時間		
参考資料	アイデアブック等		

期待できる学習効果

- ・その1 SDG'sを自分ごととしてとらえ、現在の社会経済を自ら学ぶことができる。
- ・その2 未来を見据えた、現在のあり方を考え、実行する力を養う。
- ・その3 自ら課題を設定し、探求する力を養うとともに、仲間と共同して問題解決に取り組む姿勢の育成を図る。

授業内容

授業の手立て

- ① アイデアブックや送付資料、映像資料を基に知識情報共有し、地域や企業の取り組みを学ぶ。
- ② 興味を持った取り組みについて、個人もしくはペアで探求する
- ③ 調べたことをプレゼンテーションを通して、問題提起しクラス内で共有する。

授業実施計画

	実施	内容
第0回		講座選択のためのガイダンス
第1回	6月3日	講座開講 アイスブレイク
第2回	6月10日	探求活動① 探求課題を設定しよう
第3回	7月1日	探求活動② SDGsの世界に入っていこう
第4回	7月15日	探求活動③ 調査方法の計画を立てよう
第5回	10月7日	探求活動④ 中間報告会
第6回	11月4日	探求活動⑤ プレゼン準備①
第7回	11月11日	探求活動⑥ プレゼン準備②
第8回	11月18日	ジャンル別に発表 → 相互評価

総合的な探求の時間 SDG'sに関する探求

学校名:千葉県立君津高等学校 名前:名本恵子

授業内容2

授業の実際

- | | |
|-------|--|
| 第1～3回 | 個人が興味関心を持った事柄を調べ、クラスで情報の共有をした。 |
| 第4回 | 個人の発表から、共通するテーマであれば共同研究も可として、探求課題を設定し、調査方法の計画を立てた。 |
| 第5回 | 中間報告会を嫉視した。夏休みに行った調査の進捗を報告し合い、プレゼン発表へ見通しを立てた。 |
| 第6・7回 | 資料やパワーポイント制作、原稿作り |
| 第8回 | 1班4分以内。ポスターもしくはパワーポイント等を利用した発表を実施する条件の下発表を実施した。 |

SDGsについて学ぼう！！

学校名：秋田県立横手清陵学院高等学校 名前：佐藤 好貴

対象	高校1年生	単元名
科目	探究基礎	SDGs特別講座
時間	2時間	目標
参考資料	アイデアブック、エドューケーター資料	その1 SDGsが生まれた背景を知る。 その2 国際的な視点から、地域の課題を見つけることができる。

期待できる学習効果

- ・その1 国際的な視点を持ち、地域の諸問題を自分のこととしてとらえることができるようになる。
- ・その2 世界に目を向けて、地球規模の問題を考えることができるようになる。色々なアイデアを出すことができるようになる。

授業内容

高2での探究活動に向けた、国際的な視点を持つことと、地域の課題を結びつけることに重きを置いた。自分たちのテーマ設定の前段階として、様々なアイデアを柔軟に出すために活用した。SDGsカードゲームも併用し、発想力が大事なことを実感できるようにした。エドューケーター資料を使い、SDGsについて説明をしたのちに、カードゲームやアイデアブックを使って、地域の諸問題の解決に向けたテーマを設定する時間を作った。

中学校3年生にも授業を行ったが、中学生は総合の時間の延長で市議会に参加して、SDGsを用いた市の取り組みを提案した。

SDGsについて学ぼう！！

学校名：秋田県立横手清陵学院高等学校 名前：佐藤 好貴

授業内容2

子どもたちの反応・感想

- ・これらの問題は自分ごととして解決しなければいけないと思った。人任せでは変わらない。自分たちでできることを探してやっていきたい。
- ・どれが正解とかは分からないけれど、自分のできることをやっていきたい。
- ・みんなが行動すれば大きく変えていけると思った。
- ・突拍子もないようなアイデアが世界を救うかもしれない。

SDGsについて考える

学校名: 石川県立金沢商業高等学校 名前: 井村繁夫

対象	第三学年	単元名
科目	課題研究	特になし
時間	2時間	目標
参考資料	アイデアブック等	持続可能な未来のために「商業」という視点を通し、SDGsに貢献できる課題意識の高い人材の育成を目指す。そのために、まず、顧客としてソーシャルマーケティングの考え方を理解し、社会全体の価値を踏まえた購買活動につなげることができる視点を育成する。また、その視点を踏まえて、持続可能な社会を実現するために解決したい課題を自ら設定し、その解決策となる具体的なアイデアを考案できる生徒を育成する。

期待できる学習効果

- ・その1 SDGsを理解する
- ・その2 SDGsの課題に気づかせる
- ・その3 SDGsを踏まえた具体的な取り組みについて考える

授業内容

SDGsとは何かについて、書籍「未来を変える目標 SDGsアイデアブック」を利用して理解する。

具体的にどのような取り組みがあるのか、書籍内容を読み、理解する。

書籍やインターネットを活用し、自分たちができる取り組みについて考える。

本校では「金商デパート」というイベントを実施している。昨年は新型コロナウイルスの影響で本校の一大イベントである「金商デパート」は乗せざるを得なかった。今年は、イベント内容を縮小して、実施する方向で進めている。このイベントで未来を変えるSDGsの取り組みを加えることができるか。各店舗で検討を行っている。

課題研究ではSDGs14番「海の豊かさを守ろう」に重点を絞り、取り組むこととした。書籍を利用してSDGsについて理解した生徒が海の豊かさを守るためのポスターを制作。

続いて、SDGsを踏まえたバスツアーを企画。10月の実施を目標に活動をしているところである。バスツアーでは興味関心のある人を集め、ツアーを企画実施することにより、より深くSDGsについて理解してもらうことが狙いである。

具体的なツアー内容として、地元の海水浴場で浜辺に落ちているプラスチック容器を回収。その後、SDGsに力を入れている飲食店で食事をし、その店舗が実施している取り組みについて講演を聞くことになっている。

SDGsについて考える

学校名:石川県立金沢商業高等学校 名前:井村繁夫

生徒が作製したポスター。生徒玄関に掲示。



課題研究

学校名:大阪府立桜塚高等学校 名前:田上 浩

対象	2年	単元名
科目	課題研究	
時間	週1時間(4～2月)	目標
参考資料	アイデアブック等	その1 探究的な手法での学び方の体験 その2 課題設定を通じた、興味関心の見える化 その3 表現力、コミュニケーション力の育成

期待できる学習効果

- ・その1 多様な側面から成り立つ社会への主体的な関心を深める
- ・その2 探究活動を通じて、思考力、表現力、コミュニケーション能力を高める
- ・その3 進路選択を見据えた内発的な学習習慣を養う

授業内容

様々な社会課題の中から身近な問題を選んで、その背景を考察し、解決策を考えて、ポスターセッション形式の発表(1人・1グループあたり5分)を行う。
探究活動に当たっては書籍やウェブでの調査のほかに、アンケートやインタビューなどを自分たちで考えて適宜実施する。

課題研究

学校名:大阪府立桜塚高等学校 名前:田上 浩

子どもたちの反応・感想

テーマを決めるまでの試行錯誤やブレんストーミングなどにかかる時間に全体の半分程度をかけますが、その時間がとても大事だったという感想が学年末によく出てきます。課題設定を自分で行うという学習スタイルに親和的な生徒は、他の学習においても主体的にかかわり進路選択においても、より意欲的な印象を持ちます。

県内企業はどうやって地域課題を解決しているのか？

学校名：青森県立弘前実業高等学校 名前：佐々木 孝子

対象	3学年	単元名
科目	課題研究	「地域の困った」を解決する
時間	1年間	目標
参考資料		その1 地域課題について知る その2 先行事例として、地域課題に取り組んでいる企業を見つける その3 企業の取り組みを参考に、アクションを起こす
	アイデアブック	

期待できる学習効果

- ・その1 一つの目標を達成するには、多くの「配慮すること」や「考えなければならないもの」があることを体験する。
- ・その2 企業のSDGsに配慮した取り組みを参考に、環境負荷の少ない食生活への行動を意識しながら取り組むことができる。

授業内容

- 1 地域課題を知る。
- 2 先行事例として取り組む企業を調べる。
- 3 企業を訪問し、その取り組みを体験する。
- 4 企業の一員として、地域課題の解決に向けてのアクションを考え、計画を立て実践する。
- 5 研究成果の報告を行う。

子どもたちの反応・感想

魅力発見！ 新しく地域づくりに貢献している

Point 1. フードバンク

フードバンクとは
寄付された食品を、食べ物を必要としている人や施設に届ける社会福祉活動のこと。
食品を回収するフードボックスを設置し、集まった食品を生活に困っている人や子ども食堂に届けられている。
(市役所、銀行、ファミリーマートなどに設置)

⇒生活の支援＋食品ロスの削減

総合英語

高知県立山田高等学校 谷内 有紀

対象	グローバル探究科1年	単元名	年間を通して実施している(可能な限り、教科書の単元に近い目標を選んでいる)
科目	総合英語	目標	
時間	週6時間のうちの1時間を年間で		
参考資料	未来を変える目標 SDGSアイデアブック	目標	①世界で起きている問題を知る ②来年度の探究科目における課題設定のための情報を得る

期待できる学習効果

- ・その1 教科書の内容は、数年前のことであったりするため、現在起きている課題を扱うことによって現実味を感じることができるようになる
- ・その2 SDGsそのものを学習するわけではなく、英語学習を通して、世界で起きている課題を知ることができるようになる
- ・その3 生徒が今まで認識しなかった課題について認識できるようになる

授業内容

教科書(World Trek English Communication I 桐原書店)の内容に合う目標についての記事を週末課題として金曜日夕方配信。例えば、Lesson1,2を扱っている間の週末課題は、目標4についての記事等を配信。(参考資料は配布済み。いつ、どの目標を扱うかはシラバスに記載し年度当初に配布済み。)

生徒は、記事を読み(動画を見て)から、同じく配信されたQuestionsを月曜日の朝SHまでに担当教員まで提出。月曜日の総合英語の授業で、ALTとのTTで週末課題の内容を確認しながらQuestionsを解答、生徒が授業後にアンケートに答えて提出。(宿題の配信・提出、アンケートの実施、提出はすべてGoogle classroom使用)

週末課題については英語の記事を配信することが多いが、動画の場合もある。(写真参照)
月曜日の授業については、ALTとのTTで実施。



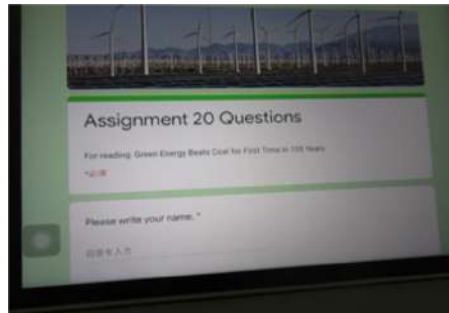
総合英語

高知県立山田高等学校 谷内 有紀

授業内容2

生徒が興味を持つような記事や映像を選ぶようにしている。

月曜日の授業はALTとのTT授業で実施しているため、生徒が知らないであろう情報や英語の表現等に注意して授業を行う必要があり、打ち合わせでプレゼン内容を確認するようにしている。また、授業後のアンケートの提出先をALTにすることにより、ALTへのフィードバックも可能である。(アンケートの集計結果は担当教員も確認できる。)



子どもたちの反応・感想

年度当初は、生徒に聞いても、週末課題で扱っている内容について知らないと多くが答えていたが、最近では、配信した課題に関連した内容の情報をニュース等で見た、動画で確認した、と答えるものが多くなっている。

HIRONO GARBAGE ORCHESTRA

学校名: 福島県立ふたば未来学園高等学校 名前: 齋藤夏菜子

対象	中学3年、高校2年	単元名	CE II Lesson 5 Changing Things, Changing Lives
科目	英語(数学・音楽)	目標	その1 パラグアイのゴミ問題について学び、日本のゴミ問題と比較して考える。 その2 海洋ゴミから楽器を作り、身近なところにある環境問題を考える。 その3 Hirono Garbage Orchestraとして、ゴミ問題について情報を伝えと共に、ゴミで作られた楽器による演奏会を実施する。
時間	10時間		
参考資料	World Trek II アイデアブック等		

期待できる学習効果

- ・その1 教科書の内容について、より自分事に引き寄せて考えることができる。
- ・その2 実際に海にゴミ拾いに行くことで、ゴミ問題を身近に捉え、自分達の行動を振り返り、今から環境保護のためにできることについて考えることができる。
- ・その3 楽器を作り、演奏会を開くことにより発信し、お互いに意見を出し合い対話をする場をつくることができる。

授業内容

○中高合同でのクロスカリキュラム

中3ではフェアトレードの話を、高2ではゴミ問題についての話を教科書で読んでいたため、共通のテーマである「環境問題」に焦点を当ててコラボレーション授業を行った。週に1度の合同授業では、お互いの授業の学びの成果を共有するなどして交流を図った。最後は、お互いの授業について共有する中で学んだ内容を、Kahoot!のTeam modeを使ってクイズ形式で楽しく復習するなど、中高の交流を深めることができた。

○ゴミで楽器を作り、演奏する

今回、環境問題として、特に「ゴミ問題」に着目した。高2の授業で取り扱った単元で、ゴミをリサイクルして楽器を作り、世界的に有名になったLandfill Harmonic Orchestraが登場するため、Hirono Garbage Orchestraとしてゴミでできた楽器を使ってオーケストラを作ろうという目標でこのクロスカリキュラムを行った。

高2は本校がある広野の海にゴミ拾いに行き、そこで拾ってきた素材を使って楽器を製作した。中3は、全国から選手が集まるバドミントン部の生徒達であるため、普段の活動で出たゴミ(シャトル、筒など)を使って楽器を製作した。実際に海岸清掃を行いながら、かなり多くのゴミが漂着していることに驚いていたようである。海洋ゴミをはじめとしたプラスチックゴミが、海や陸の生き物にどのような悪影響を与えているのかについて調べた内容をシェアして意見交換を行った。



HIRONO GARBAGE ORCHESTRA

学校名: 福島県立ふたば未来学園高等学校 名前: 齋藤夏菜子

授業内容2

今回、クロスカリキュラムとして、数学と音楽の教員にも協力を依頼した。まずは数学の教員に、日本のゴミ問題について数字で考える授業を行ってもらった。実際に数字を通して日本のゴミの多さについて学び、自分達にできることは何か考えるきっかけとなった。

その後、SDGsアイデアブックを用いて、ゴミを減らし環境を守るための方法として、「サステナブル・ラベル」、「テラサイクル」、「オーシャン・クリーンアップ」などについて読み、思考を深めた。それからゴミ拾いに行くなどの活動

を通して、生徒達の意識の変化を感じることができた。

次に、楽器を作るにあたって、日本音楽（雅楽）についても学び、元々雅楽で使われる楽器も、竹や木、馬の毛など、自然のもので作られていたということも学び、楽器作りのヒントになった。

また、最終的に我々が学んで来たことのアウトプットと、演奏を通して、校内の生徒や教員にも環境問題について考えてもらう良いきっかけとなった。成果物はしばらく校内に展示し、自由に手にとって見られるようにした。



子どもたちの反応・感想

生徒の感想

「最初は、授業中に海に行けてラッキー、くらいに思っていたけれど、実際に海のゴミが想像以上に多くてびっくりしました。実際に見てみないと分からなかったし、見ていなかったら、自分は環境問題についてあまり自分事に考えられていなかったと思います。」

「ゴミで楽器を作ることが楽しかった。環境問題について言葉で訴えるだけでは伝わらないが、こうしてゴミを拾って、楽器を作って、演奏して、楽しく環境について学ぶことができたし、観客にも工夫して伝えることができた。」

「SDGsアイデアブックで、オランダの高校生の海をキレイにする活動を知って、自分達も広野の海をキレイにしたいと思った。」

「まずは学校の中のゴミから、分別をちゃんとする等、やっていきたい。」



あなたの服が難民の力に！ ～teenagerのあなたが今できること～

学校名：広島市立舟入高等学校 柏原 奨平

対象	2年生	単元名
科目	コミュニケーション英語Ⅱ	Lesson 3 : A teenager To Change the World
時間	1時間	目標
参考資料	・アイデアブック ・世界につながる教室 ～授業で使える映像教材～	1 難民キャンプの現状についての映像を英語で聞いて、概要を「シンキングツール」の「フィッシュボーン」に英語でまとめることができる 2 ユニクロが現在、難民支援のためにしている活動を読み、簡潔な英語で相手に伝えることができる 3 1と2を踏まえた上で、「古着回収を呼び掛けるポスター」にインパクトのある英語フレーズを入れることができる
期待できる学習効果		
・[Speaking] 人物に関する年表や世界の課題に関するデータを見ながら、その内容やそれに対する自分の考えを準備ができれば英語で話す。 ・[Writing] 世界で起きている問題について、その現状をふまえながら自分の思いを相手に訴える英語を書く。 ・[Listening] 140WPM程度の速度で話される世界の諸問題に関する話を英語で聞いて、必要な情報を単語単位でつかんだうえで、それを組み合わせて大まかな内容が伝えられる程度に理解する。		

授業内容

[導入]

1. ユニクロの「古着ボックス」の写真を提示し、「見たことがあるか」「何の目的で置いてあるか」を英語で教師が聞く。生徒が英語で話し合い答える。
2. 「古着ボックス」が難民の子供たちに向けたものであることを伝え、難民とは何かと発問を英語でする。生徒が英語で話し合い答える。

[展開]

1. 生徒は、「難民キャンプ」についての紹介ビデオを見る。見たうえで、「シンキングツール」の「フィッシュボーン」を使って内容をまとめる。
2. まとめたものを見ながらペアで英語で難民について説明し合う。
3. ビデオの内容以外で難民について問題だと考えられることを考え、ペアに伝える。
4. 5で利用する「古着募集のポスター」の標語を英語で考えて書く。
5. ポスターを元に1分間で英語でプレゼンテーションを行う。

[まとめ]

1. ポスターを提出させ、教師がルーブリックに基づき評価する。

あなたの服が難民の力に！ ～teenagerのあなたが今できること～

学校名：広島市立舟入高等学校 柏原 奨平

授業内容2

[本授業のポイント]

- ・CLIL(内容言語統合型学習)を用いて、「英語」「で」SDGsの「16 平和と公正をすべての人に」を考えさせていることがポイントの1つ。「未来を変える目標SDGsアイデアブックのp142の「ゲリラ広告」をヒントに授業を構成してみた。
- ・「まとめる力」を深めるために、「シンキングツール」を用いて、論理的にまとめる作業を行わせている。繰り返し様々な「シンキングツール」を活用してきているので、生徒たちもその繰り返しの中で「まとめる力」を付けてきている。
- ・標語というあえて「語数制限」が厳しい条件下で「表現する力」を養う授業を行うことで、「ことば」には文面以外に色々な伝え方があることを学習させた。
- ・「話す活動」をこまめにいれることで「即興性」を身につける一助とした。
- ・書いたことや絵などを元に話させることで「図を見ながら話す力」を身につける一助とした。

子どもたちの反応・感想

- ・難民の現状を知り、自分ができることは何かを身近な話題に置き換えて考えることで、「自分事」として課題解決に取り組んでいた。
- ・英語で標語を書くことで、文字の字体や色、単語の選択など、「伝えること」を意識して、様々な工夫を行っていた。
- ・フィッシュボーンを使いながら聞いたことを論理的にまとめていた。
- ・難民についてより深く学びたいと思った生徒もでてきた。

Plastic Waste

学校名: 興南高等学校 名前: 玉城 洋介

対象	高校3年生	単元名	Plastic Waste
科目	コミュニケーション英語III	目標	1) 日常生活とゴミの関係を考えようとしている。 2) プラスチックゴミが地球に悪影響を及ぼしていることを理解する。 3) 環境に優しい生活に関するアイデアを考えることができる。 4) 環境に優しい生活のアイデアについて友人と意見交換することができる。
時間	4時間配当		
参考資料	アイデアブック 「読解力と表現力を高めるSDGs英語長文-Think,Share,Act-(竹下 厚志著 三省堂)」 朝日新聞 国連記事		

期待できる学習効果

- ・その1 世界で起きている「プラゴミ」を自分事として捉えることができる。
- ・その2 課題の解決策を英語で表現することができる。

授業内容

授業内容や授業のポイントなどを教えて下さい

<4時間配当>

1、2時間目: 「読解力と表現力を高めるSDGs英語長文-Think,Share,Act-(竹下 厚志著 三省堂)」のLesson3を読み、世界のプラゴミの問題について考える。

3時間目: 新聞記事やアイデアブックを使い、問題の解決策を考える。

(気を付けたこと)

①新聞記事やアイデアブックを使う前に、最新版世界のSDGs達成度ランキングを紹介し、日本でも水問題は取り組みが横ばいであることに気付かせる。

②普段の日常生活ではプラゴミ問題について考えるきっかけがないので、新聞記事やアイデアブックを使い、自分事として捉えるようにさせる。

③国連の記事(英語版)を使い、世界で起きているプラゴミ増加で起因する事故などを伝え、自分でアウトプットする際に使用できる言語材料を増やす

4時間目: 自分の考えを英語で表現し、提出

(気を付けたこと)

①本時は題材も難しかったので、フリーで表現させた。英作文でも、絵日記のようなものでもOKにした。そうすることで、表現に困った場合、絵を使って表現させるようにした。

②携帯電話を活用し、調べることも可とした。

Plastic Waste

学校名:興南高等学校 名前:玉城 洋介

授業内容2

アイデアブックの活用法

発展活動として毎課かならずSDGsのゴールを示していたので、そのゴールを達成するためのオリジナルな解決策を考えさせる上で、必ず生徒へは目を通していました。基本的には英語での授業なので、SDGsのゴールなどが理解できていない生徒も、この本では日本語で丁寧に説明されていたので、そこで理解している生徒も多かったかと思います。

今回まとめた授業は1レッスン分ですが、時間が許す限り、このように授業では活用していました。英語版が出るようなので、今後は英語版も寄贈プログラムがあると嬉しいです。さらに発展的に活用できるかと思います。

学校名: 市立札幌平岸高等学校 名前: 井田 志麻子

対象	第2学年	単元名
科目	C英II	Speech and Presentation (ALTとのチームティーチング)
時間	8+9	目標
参考資料	アイデアブック等	その1 SDGsへの理解をふかめる、興味関心を喚起する(8時間) その2 自分たちでSDGのひとつを調べ、役立つロボットを考案し英語で発表する

期待できる学習効果

- ・SDGsへの理解を深め、身近なことととらえることができる
- ・自分たちで調べ、まとめ、ロボットを考案する中で能動的に関わる姿勢が生まれる
- ・ポスターを作り、発表することで、speaking やlistening の力を伸ばすことができる。

授業内容

◎前半8時間は、毎回SDGひとつ取り上げ、同じパターンで理解を深めるための授業にしました。

授業例 SDG-11 Sustainable Cities and Communities

1. A L Tが英語でSDG-11の概要を説明
2. 全員にアイデアブック配布
 - ・全員で98と99ページを読む
 - ・ペアでAは100-101ページを、Bは102-103を読み、ワークシートに内容をメモ
 - ・その後、お互いにメモを見ながら内容を相手に伝え合い、自分のワークシートに内容をメモ
3. プリントで 'greed city'とはどんな街かを考える。
4. ビデオに出てくる単語をプリントで確認
5. SDG-11についてのA L T自作のビデオを見て、質問に答える。

Video at: <https://youtu.be/1qRw4FMxaqg>

SDGsにつながる英文ライティング

学校名: 古川学園高等学校 名前: 蛸名郁矢

対象	高校2年	単元名	学習事項の復習(語彙や文法的知識を実践に生かす)
科目	英語表現I	目標	その1 SDGs達成に向けた具体的な取り組みを知る その2 英文法や英語の構文についての知識を活用する その3 英訳を協働して作り上げる
時間	3時間		
参考資料	アイデアブック等		

期待できる学習効果

- ・その1 SDGsの活動への関わりを実感できる。
- ・その2 学習したことの復習の機会となり、定着率の向上および実践力を高めることができる。
- ・その3 グループ活動を通して協調性を高めることができる。

授業内容

【手順】

- (1) 1クラス30名の生徒を、6名グループを1つ、4名1組で6グループに分ける。
- (2) 『SDGsアイデアブック』を配布する。
- (3) 各グループで興味のある目標を選ばせる。
- (4) 選択した該当目標の和訳に取り組む。
 - 1) リーダーを決めて分担を決める
 - 2) グループ内で小グループを作り、詳細な分担を決める。
 - a) 1つのグループを編集グループとし、残り7グループを英訳チームとする。
 - 3) 英訳するために必要な辞書や参考書、参考サイトを調べる。
 - 4) 英訳を進める。
 - a) 英訳した文を一文ずつグループウェア内の掲示板にアップする。
 - b) 編集グループは分担して、各英訳グループからアップされた英文を校正する。
必要に応じて教員にも確認して作業を進める。
- (5) 完成した英訳をデータとしてまとめて共有する。
- (6) 編集グループと各英訳グループに英訳のポイントや気をつけた点や苦労した点について発表させる。
- (7) 自分が英訳した「目標」について、英語で感想や自分の考えを書く。(100 words程度)

【ポイント】

「アイデアブック」を用いて「目標」の内容や世界における具体的な取り組みに目を通す機会となる。また、学んできた語彙や文法の知識を実際に活用することで、その必要性を感じさせることができる。加えて、一連の活動を通して、グループ内での共同作業や意思の疎通が必要であり、

SDGsにつながる英文ライティング

学校名: 古川学園高等学校 名前: 蛭名郁矢

授業内容2

英訳を進めるにあたり、協働することが求められ、コミュニケーションを必要とする場面を創出することができる。実際の英訳作業においては、かなりの頻度で生徒どうしのやり取りが必要となり、自分が知っていることの確認だけでなく、他の生徒から与えられる情報も多く、学びにおいて刺激となり、学習事項の定着が促進される。英語が得意な生徒から苦手な生徒への情報伝達が多くなる。英語が得意な生徒にとっては、他人に説明することで定着率と高めたり、理解を深める機会になる。一方、英語が苦手な生徒にとっては、学習事項の復習ができる機会となる。

『SDGsアイデアブック』では、海外での取り組みが紹介されており、英語で書かれたサイトのURLが記載されている。自分が英訳した「目標」について、各団体の取り組みを英語で読むことにもつなげることができる。

英語の苦手な生徒には、英訳することは敷居の高いことであるが、言葉を調べたり、活動内容が紹介されているサイトに触れることで、学習への意欲を高める効果も期待できる。英語を得意とする生徒でも、日本語で書かれた文章を英訳するのは簡単にはいかず、日英語の発想の差にとまどうことが多いが、工夫をする中で精度を高めることができ、英語力が向上する。

英訳の作業に入る前の上記(4)～(3)においては、無料のオンライン辞書を紹介し、英英辞典の使い方を確認したりしておくことで英訳の助けになる。また、むやみに和英辞典を使用しない旨を具体例を交えて教示しておく等、語彙や文法以外に英語を書くうえで留意すべきことを確認する機会にもなる。

子どもたちの反応・感想

【生徒たちの反応や感想】

英語が得意だと思っている生徒たちでも、日本語で書かれた文章を英語に直すことの大変さを感じていた。英語の苦手な生徒は、主に意味を調べたり、表現を調べたりする役割が多くなったが、英語に触れる時間が増え、また学習内容を生徒どうしで教え合う機会があることで、一人でする以上に英語に向き合うことができていた。

SS英語表現 I

学校名:宮城県仙台第三高等学校 名前:西村吉史

対象	高校1年生	単元名
科目	SS英語表現 I	STEM × SDGs
時間	50分×8時間	目標
参考資料	アイデアブック等	SDGsと紐づいた社会課題にはどんなものがあるのかを知り、理系分野での自分の得意や好きを活かして、その社会課題を解決するためのアイデアを考えることで、自分には何ができるか、何のために理系科目を学んでいるのかを改めて考える。

期待できる学習効果

- ・理系科目を勉強する理由を自分なりに腑落ちする。
- ・目的のために学んでいるということを知る。
- ・社会課題を解決するために、自分の理系の知識が役に立つということを実感する。

授業内容

- ・STEM4項目及び生物、化学、物理の分野において、自分の得意や好きを書き出す。→自分には何があるのかを見える化する。
- ・SDGsアイデアブックを読み、世の中にはどんな社会課題があるのか、その社会課題の解決のためにどのような取り組みが行われているのかを知る。
- ・アイデアブックを参考に、自分の得意や好きを活かして解決のアイデアを出せそうな社会課題を考えてみる。
- ・「自分には何ができるか」という視点(自分ごと化の視点)で、その社会課題の創出方法を考えてみる。
- ・アンケートや調査、実験などのアクションを起こし、スライドにまとめて動画を作成する。

SS英語表現 I

学校名:宮城県仙台第三高等学校 名前:西村吉史

授業の様子



子どもたちの反応・感想

「世界の悲慘な状況を知った。今、私たちがこうして授業を受けたり部活をしたりしている、気持ちよく寝ている間にも亡くなる命や幼いながらも銃を手に戦っている人がいるかもしれない。大変な思いをしているかもしれないと思うと、苦しい。幸せな生活を送る私たちが彼らの水食いを求める手を取らないといけない。世界を救うことの難しさも痛感した。」

SDGsを自分ごととしてとらえるための表現活動

学校名: 福山暁の星女子高等学校 名前: 好村 友理

対象	高校2年生	単元名	(年間を通して実施している授業の一部にアイデアブックを活用しています)
科目	英語演習	目標	その1 SDGsの各目標に関連している背景知識について知る。 その2 SDGsの各目標に関する英文を読み、理解を深める。 その3 読んだことやアイデアブックを参考にして、各目標について自分ができる取り組みについて英語で表現する。
時間	1レッスン3時間		
参考資料	SDGsアイデアブック		

期待できる学習効果

- ・その1 1年間、毎週2時間の英語授業で、英語を通してSDGsを学ぶことで、自分ごととして地球のことを考える素地を養う。
- ・その2 SDGsの各目標について、英語を通して読むことで、概要について理解を深めることができる。
- ・その3 読んだ内容に関連して、自分が各目標の達成のために出来る取り組みについて英語で表現することができる。

授業内容

【授業科目名】 英語演習(高校2年生対象)

【授業時数】 週あたり2時間

【授業使用テキスト】 『読解力と表現力を高めるSDGs英語長文 Core -Think, Share, Act-

【テキスト構成】

各レッスンでSDGsの目標を1つずつ扱い、英語を通してSDGsについての理解を深めることのできるような構成となっている。

【各レッスンの授業の進め方】

①そのレッスンで学習するSDGsの目標について、基礎的な事実を学習する。

← ここで、アイデアブックを活用(各ゴールの概説ページ)

②各目標に即した複数の英語長文問題を読み、目標についての理解を深める。

③各目標ごとに設定してある”Think More”で、読んだことを参考にしながら、自分ごととして目標をとらえ、与えられたテーマに対して身近で自分ができることを英語で表現する。

← ここで、アイデアブックを活用(各ゴールの事例ページ)

SDGsを自分ごととしてとらえるための表現活動

学校名: 福山暁の星女子高等学校 名前: 好村 友理

授業内容2

『SDGsアイデアブック』の活用について

①概要ページ

概要ページを見れば、各目標に関する情報や私たちに求められていることが、分かりやすく簡潔に書かれているので、授業での各目標に関する基礎的な事実を学習する際の資料として活用している。ここを読めば、各目標の大まかな考え方を理解することができるので、大変重宝している。

②事例ページ

各目標ごとに、身近に自分でできることを考えさせて書かせるライティング活動を実施している。

(例えば、GOAL 12「つくる責任 つかう責任」であれば、トピックは「店舗・個人レベルで、食品ロスを減らすために、あなたが協力できると取り組みを考えよう」という課題設定。)

ライティング活動に入る前に、アイデアブックの事例ページに掲載されている取組例に目を通して、様々な活動が世界中で行われていることを生徒たちに学ばせてから、自分ができることについて考えさせるようにしている。

子どもたちの反応・感想

英語の授業で毎週SDGsの話題に触れることで、生徒たちのSDGsに対する関心が高くなっている気がする。自分の身の回りで起きたことを、「あ、そういえば、あの時授業で学んだあれだな」というふうに関連づけ、校内での様々な教育活動(総合的な探究の時間に行っている個人研究や、課外活動での個人チャレンジなど)で、生徒自身が考えて行動していく際に、子の授業で学んだことを生かしている様子が伺える。

また、生徒たちは、英語の授業でSDGsを扱うことに対して肯定的に捉えており、「普通の英語の授業より楽しい」という意見も耳にする。

この授業を通して、少しでも生徒たちの中に気づきが生まれ、小さな変化を身の回りに起こすことができる生徒が増えていくとよいと思う。

SDGsに向けた世界の取組(英文パラグラフの書き方を学ぶ)

学校名: 東京都立農業高等学校 名前: 上野真弓

対象	3年	単元名
科目	コミュニケーション英語Ⅱ	特になし(英作文課題)
時間	約6時間	目標
参考資料	アイデアブック等	その1 SDGsをキーワードに世界の取組を調べることで、世の中を知る その2 英文パラグラフの書き方を学び、調べたことを英語で伝える その3 他の人が書いた作文を読み、SDGsに関する知見を広げる

期待できる学習効果

- ・自分の興味・関心のある分野について、主体的に様々な情報を調べたり比較したりすることができる。
- ・まとまりのある英文の書き方を学び、既習の文法事項や語彙を実践的に使う方法を知る。
(翻訳ソフトを正しく使うには、英語と日本語の違いや英文法を理解している必要があると知ることができる。)
- ・様々な取組や英語表現を読み合う(教え合う)ことで、自分の生活に新しい視点を持つことができる。

授業内容

課題: SDGsに向けた世界の取組を調べ、クラスメイトに紹介する

1. これまで扱った教科書の内容とSDGsの関連について考える。
2. そもそもSDGsとは何か(どんな理念に基づいてどのように設定されたか)を知る。
 - ・ The 2030 Agenda for Sustainable Developmentの前文について説明
 - ・ 動画(夢の鍵(BS-TBS)「究極のオーガニックタオル」)を視聴
3. アイデアブックの関心のある部分を読み、課題(世界の取組を調べる)のイメージを持つ。
4. 各自でリサーチする。〔夏休みの宿題〕
5. 英文パラグラフの構成・書き方を学ぶ。
6. 下書きを作成する。Microsoft Teams上で各自タイトルを入力する。
7. 先生の下書きチェック後、清書(英文+イラスト図解)する。
8. 英作文を集めた冊子を読み、疑問などを話し合う。振り返りシートを記入する。

Solutions to problems ~SDGsに向けた世界の取り組み~ 英文パラグラフの書き方

学校名: 東京都立農業高等学校 名前: 上野真弓

授業内容

ポイント

- クラスの生徒が理解できる程度の英語で書く
- 翻訳アプリを使ってもよい(日本語と英語の違いを理解した上で使う必要があることを知る)
- 内容が伝わりやすくなるよう、イラストで図解する

2021 English Communication II [Writing Assignment]

Solutions to Problems ~SDGsに向けた世界の取り組み~



Contents

No.	Goal	Title	
No.1	1	Food rescued by "Too good to go"	"Too good to go" でフードロス削減
No.2	2	Too Good to go	食品ロスを減らす活動
No.3	3	Why do you give girls a doll?	なぜ女の子に人形をあげるの?
No.4	4	Denmark is an equal country to LGBT	LGBTに平等な国・デンマーク
No.5	5	Fashion seeking freedom	自由を求めるファッション
No.6	6	12 years in a row Gender equality in Iceland	
No.7	7	People Tree attempts to make Fair Trade Chocolate	フェアトレードのチョコレート
No.8	8	Tea and Sustainable Farm	伝統と持続可能な農業
No.9	9	Sustainable Afternoon tea	持続可能な午後の紅茶
No.10	10	Sustainable Farm	人と環境を育む持続可能な農業
No.11	11	Starbucks and Fair trade	スターバックスとフェアトレード
No.12	12	SDGs No. 1 in the company TOYOTA	SDGs取り組みの先駆者トヨタ
No.13	13	Devlin O'Brien saves vacant houses with creativity and collaboration.	クリエイティブなコラボレーションで空き家を救済!
No.14	14	Terra Recycling For eco-society	エコ社会のため
No.15	15	"Laguncilla" is environmentally friendly	スウェーデンの企業ラグンシラは環境に優しい
No.16	16	The Choice of "Reformation"	「リフォーメーション」という選択
No.17	17	SDGs brand "patagonia"	SDGsブランド"patagonia"
No.18	18	Vegetable Crayon from mizuno in Aomori	皆で使った野菜から生まれた色鉛筆
No.19	19	About Sustainable Sneakers	持続可能なスニーカーについて
No.20	20	Copenhagen's too futuristic restaurant	コペンハーゲンの未来すぎるレストラン
No.21	21	The Finnish government and people do a lot of measures against the climate change.	フィンランド政府と人々は、気候変動に対する多くの対策をとっている
No.22	22	Work on all 17 goals of the SDGs in Denmark	デンマークにおけるSDGsの17の目標全てに取り組む
No.23	23	UN17 village	UN17 village
No.24	24	Denish: Village Building to Make SDGs	SDGsを作るデンマークの村づくり
No.25	25	Eco Village in the Netherlands	オランダのエコヴィレッジ
No.26	26	♡ Sustainable Starbucks coffee♡	♡サステナブルなスターバックスコーヒー♡
No.27	27	Eco-friendly bar shampoo Ellique	環境に優しいシャンプー エリク
No.28	28	Change the sea: Ocean Cleanup	海をきれいにする Ocean Cleanup
No.29	29	Riviera group that protects the sea	海を守るリビエラグループ
No.30	30	The refugee olympic team	難民選手団について

生徒の作品例

生徒が紹介している取組は、アイデアブックから選んだものだけでなく、自分で関心を持って調べたものもある。

Solutions to Problems ~SDGs Writing Assignment

Title Food rescued by "Too good to go"

"Too good to go" is wonderful service for people and environment. It was born in Denmark in 2016, and it is an application to reduce food loss. There are 30 million 15 European countries. If you use this service, you can get food cheap. Because this food is leftovers by the stores registered on the app. That's why the stores can sell food without wasting it. So the service is good for people, for the stores, and for the environment.

When I was working part-time at restaurant, it was sad that there was a lot of food loss. I want this kind of service to be popular in Japan.

References: <https://ideasforgood.jp>

Solutions to Problems ~SDGs Writing Assignment

Title Why do you give girls a doll?

Romantic is not an ordinary dollhouse. Only few women work in the mechanical field, because there are few toys for girls that need their brain working. It is the toy that children can enjoy learning engineering.

Not just building a house, children can use the motor to turn the fan, connect the cable to turn on the light. Alice Brades invented this dollhouse, because she wants girls to realize that they can do anything.

If a baby girl is born to me, I want to give her a Romantic as a gift. Because I want to give my daughter a lot of choices.

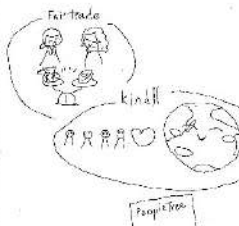
References: SDGs in 8

生徒の作品

Solutions to Problems SDGs Writing Assignment

Title People Tree attempts to make fair-trade chocolate

People Tree is a sustainable company. They sell Fair Trade Chocolate. They use organic cacao grown in Bolivia and Peru. They buy and use them at a fair price. They also support education in Bolivia and Peru. They work with a cooperative called 'MIFITA' in Costa Rica. They make chocolate that is kind to the earth and people. I want to eat fair chocolate.

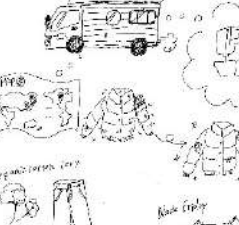


References: peopletree.co.jp

Solutions to Problems SDGs Writing Assignment

Title SDGs brand "paragonia"

"paragonia" is a responsible brand founded for the fashion industry in the future. This brand uses an activity called "Kamihara". In the activity, they put a sewing machine on a wagon and go around the country to repair old "paragonia" products. "paragonia" uses local organic cotton to make their products: pants and T-shirts. The brand passed an old and new blackbird. The message is a piece of a "paragonia" jacket said, "Don't buy this jacket" and asked her to be a lot of clothes. In surprise, she said "working" for the customers and new year's.

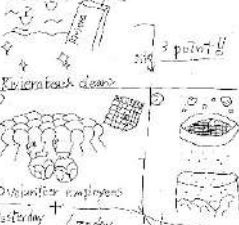


References: paragonia.jp

Solutions to Problems SDGs Writing Assignment

Title Kuroda group that protects the sea

Kuroda group is a Japanese company that tries to protect the sea in the activity "Rivers Beach clean". 50 volunteer employees gather for the activity on the 3rd Thursday of every month. Some time celebrities come and join the activity. They use a streamer to pick up small pieces of trash as well as outboard motors. Large scraps are carried to the beach the day after stormy weather. Our little actions are important to the world.

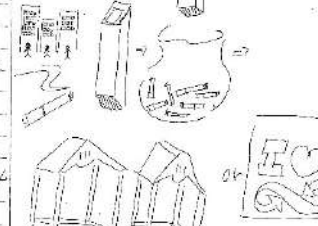


References: https://www.kuroda.co.jp/about/activities/beach_clean/

Solutions to Problems SDGs Writing Assignment

Title Terra Recycling For eco-society

Terra Recycling is a public recycling program in the United States. They don't think of trash as trash. They have programs to pick up trash with people living in towns. The trash they pick up can be used for a playground or art. If we have the program in Japan, I want to recycle things that I normally throw away.

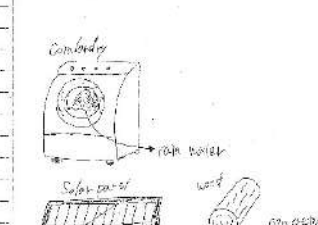


References: Terracycle.com

Solutions to Problems SDGs Writing Assignment

Title Bush construction company work in building a town to achieve SDGs Goals

For village is a project called "Village". It is a Bush construction company the "Village". They build buildings using rain water, green, water, stone, etc. Suburbs are built on roofs. Solar panels cover the electricity used for the village. And the wood, concrete used in the construction are made from waste. We also used recycled material. I thought the project of building and using a lot of things to build a city was amazing.

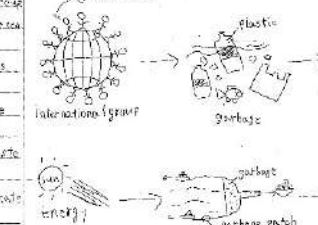


References: bushgroup.jp, info@bush.com

Solutions to Problems SDGs Writing Assignment

Title change the sea: Ocean Cleanup

The Ocean Cleanup is an international group. They are working to reduce plastic waste in the sea. They use clean energy, such as sunlight. Solar energy is used for the U-shaped booms, which collect plastic waste in the sea. The energy is passed through the inside of the garbage patch. With this effort, they are trying to reduce waste by 90% by 2040. It's important for many countries to cooperate to reduce marine plastic waste.

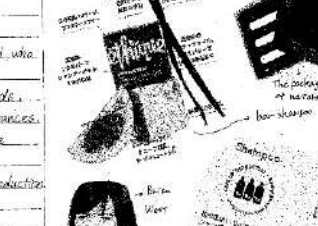


References: https://oceancleanup.org

Solutions to Problems SDGs Writing Assignment

Title Eco-friendly for shampoo Ethique

Ethique's products are all environmentally friendly. From raw materials to packaging. The shampoo brand Ethique was created by Bruna West, a New Zealand high school girl who was distressed by environmental pollution. The products meet strict standards. For example, they don't use artificial fragrances. They don't need plastic bottles because the shampoo is solidified like a bar shampoo. In this way, Ethique prevents plastic production. So I think it's eco-friendly.



References: ethique.co.uk, ethique.com

- I. トピックセンテンス
- II. サポートセンテンス(2~3文)
- III. コンクルーディングセンテンス

という構成で書いています。

生徒たちの反応・感想(抜粋)

◎7月からの取り組みを振り返って(リサーチ～作文～振り返り)

What have you learned so far? Did you do your best? What was difficult? What did you find easy?

文を作文のは、むずかしいと思った。

英語も、日本語も、

でも、今まで知らなかったことを自分で調べたことが、

身近で、できることはしたいと思った。

What have you learned so far? Did you do your best? What was difficult? What did you find easy?

英語の文とみんなに長くかくのは大変だった。調べながら、たから単語が頭に入って、それからと思った。SDGsのことはいろいろあったから今回調べたのもいろいろあった。

What have you learned so far? Did you do your best? What was difficult? What did you find easy?

I learned a lot of SDGs activity from this class.
I could do my best, but I wanted to write well.
So, I felt that I need more efforts.

What have you learned so far? Did you do your best? What was difficult? What did you find easy?

SDGsについて勉強する良い機会だった。日本ではあまり進んでいない。イギリスは日本より企業で取り組みが盛んなところ。ヨーロッパはエネルギーや食品ロスなどの取り組みが進んでいる。日本でも盛んに進めようと思う。

What have you learned so far? Did you do your best? What was difficult? What did you find easy?

皆が作文を考えたのもあって、色々な国からSDGsに取り組んでいるんだとわかった。リサーチは英語や難しい単語に挑戦することや、調べた英語を簡単に日本語に直すことができた。英語に慣れよう。調べてみて、エコな建物で、日本にその建物があったらいい。ために、みんなに伝えてみたいと思います。

◎7月からの取り組みを振り返って(リサーチ～作文～振り返り)

What have you learned so far? Did you do your best? What was difficult? What did you find easy?

広まってきたからこと、取り上げたい内容があまりなくて、選ぶのが、難しいです。英語が出来るので、かんたんにするのも、簡単でした。絵が、とても重要になってくることを、見て学びました。

What have you learned so far? Did you do your best? What was difficult? What did you find easy?

海外でのSDGsの取り組みを調べる時、英語で書かれている所も多くなって、難しくなりました。世界を知るためには、色々な言語を知る事が大切だと感じました。

What have you learned so far? Did you do your best? What was difficult? What did you find easy?

海外と自分の間に、いろいろな違いがあることが、よくわかった。他へ人へも、色んな新しいことが、知られて、面白かった。

What have you learned so far? Did you do your best? What was difficult? What did you find easy?

いろいろ知ることができた。
この授業は、面白い。一生懸命にやることも、ない。英語も、いい。

What have you learned so far? Did you do your best? What was difficult? What did you find easy?

SDGsについては元々興味があったので、今回改めて調べた。思ったより、私が調べた内容は、元々難しい言葉が多かった。言葉が、かたじけなくて、みんなが、分かりやすい言葉を選びたい。こと、とても勉強には、とても、皆のプリントを、お礼として、伝えることも、大切だと感じた。

What have you learned so far? Did you do your best? What was difficult? What did you find easy?

色々な有名なブランドと、サステナブルな活動を知ることができた。とても、いいことを、思った。これから、このブランドも、エコな開発をして、いつか、いいことを、思った。英語で、説明と、かたじけなくて、思った。色んな、ブランド、簡単に、説明、したい。

英語で、説明、したい。

授業を実施した感想

生徒は、他の教科(専門教科等)でSDGsについて学んできているが、「自由にテーマを決めて」「海外の取組」を調べるのは、新鮮だったようだ。多くの生徒が、よい機会と思って意欲的に取り組んでいたように見える。英語や海外にあまり関心がない一部の生徒は、アイデアブックからテーマを選べばよく、本が役立った。関心のあることが多すぎて、テーマを絞り切れないという生徒も複数いた。大学で論文を書く際は、テーマを絞ることが重要なので、それを多少示せたと思う。また、英語が分かると、日本語だけでは得られない情報を、自分で探して読むことができるという、英語学習の意義も、伝えることができたのではないかなと思う。

振り返りを通じて、生徒が日頃から新聞やニュースなどの情報にあまり触れていないという印象も持った。この課題をきっかけに、今後身の回りのことや何かを選択する際、SDGsの視点も判断材料にしてもらいたい。

English x SDGs プロジェクト

学校名: 兵庫県立明石高等学校 名前: 高場政晃

対象 高校1年生

科目 コミュニケーション英語I

時間 10時間

参考資料

アイデアブック
JICA資料
地域自治体の資料

単元名

SDGsプロジェクト

目標

- その1 SDGs17のターゲットの英語表現がわかる
- その2 自分の興味のあるターゲットについて英語で説明できる
- その3 グループで協力して共通のターゲットについて詳しく調べ、その現状と取り組みについて英語で発表できる

期待できる学習効果

- ・その1 SDGsや地域の取り組みについて知り、社会課題に興味を持ち、各教科の学習意欲につながる
- ・その2 SDGsのターゲットについての様々な英語表現を学び、語彙が増える
- ・その3 調べたことや言いたいことをわかりやすく英語で表現するスキルを身に着ける

授業内容

本校が位置する明石市は「SDGs未来都市」に選ばれている。英語の授業を通して、学んでいることを生かし、社会をよくするために能動的に過ごしてほしいという願いから、アイデアブックを活用してSDGsについて調べ、高校1年生2学期のALTとのチームティーチングにおいて、プロジェクト&パフォーマンス評価(「話すこと【発表】」)の題材にしようと考えた。

事前にSDGsの概念や、17のターゲットの英語表現については学習済みであったが、詳細な内容については触れていなかった。発表形式は最終的にはグループでのプレゼンテーションを考えていたが、それ以前にある程度の知識の蓄積が必要だと考え、2段階の発表形式とした。

1段階目は、個人ワークとした。まず「アイデアブック」を各自が十分に読み込む時間を確保し、一番興味あるターゲットを選ばせた。そして違うターゲットを選んだ生徒同士でグループを作り、他のメンバーに対して、自分が選んだ内容を英語で発表するものである。

2段階目は、グループワークとした。今度は1段階目で同じターゲットを選んだ生徒でグループを作り、「アイデアブック」に書かれてあることだけでなく、そのターゲットについて身近な自治体での課題や取り組みを、また可能であれば自分たちができるアイデアについて発表するものである。



English x SDGs プロジェクト

学校名: 兵庫県立明石高等学校 名前: 高場政晃

授業内容2

授業内容(外国人英語指導助手(ALT)との日本人英語教師2名によるチームティーチング)

- 1時間目 オリエンテーション(SDGs17ターゲットの説明、アイデアブックを配布)(E/J)
- 2時間目 個人ワークの説明(アイデアブックを読み、調べてみたいターゲットを選ぶ)(J)
- 3時間目 個人ワーク①(選んだターゲットについて英語でまとめる(個人ワーク))(E)
- 4時間目 個人ワーク②(ターゲットが別の生徒同士でグループになりその中で発表する)(E)
- 5時間目 グループワークの説明(同じターゲットの生徒でさらに深く調べる)(J)
- 6時間目 グループワーク①(資料やタブレットを用いて、地域の取り組みを調べる)(E)
- 7時間目 グループワーク②(それぞれの担当を決めて英文を作成)(E)
- 8時間目 グループワーク③(「SDGsみらい甲子園」のフォーマットに合わせてスライド作成)(E)
- 9時間目 発表①(グループごとにスライドを使って説明)(E)
- 10時間目 発表②(グループごとにスライドを使って説明)、振り返り(E)

※発表はパフォーマンステストとして評価の一環とする。評価の観点は、
English(発音、声の大きさ)/Performance(目線、スライドなど)/Contents(発表内容)とした。

子どもたちの反応・感想

<生徒の感想より>

- ・みんなの前で自分で覚えた英文を発表するのはいい経験になりました。
- ・発表内容やスライドを自分たちで考え、意見を出し合いながら英文を作る力を身につけられた。
- ・しっかり時間をかけて、すごく完成度の高いものができたので楽しかった。
- ・班で協力して調べてタブレットを使って完成させ、楽しみながら「自分の言葉で伝える」力がついた。
- ・内容が勉強になることで、自分が伝えたいことがあって、頑張って英語で話せた。
- ・今実際に問題になっていることに触れると自分の考えもまとめられた。
- ・新しい知識を取り入れながら英文を考えるので新しい言葉も同時に知れた。
- ・みんなに伝わるような文章を考えなければいけないので力がついた。
- ・英語も力がついたし、世界の問題について考えられた。
- ・発表のために文を覚えるから、その文や単語が記憶に残った。
- ・SDGsについて知るだけでなく、英語の勉強にもなった。



SDGsの視点で生態系を分析し、あなたのアクションプランを宣言できるようになろう！

学校名：秋田県立新屋高等学校 名前：阿部大輔

対象	1・2・3年	単元名	(生物基礎)生物の多様性と生態系 (生物)生態系と生物多様性
科目	生物基礎・生物	目標	
時間	4時間		
参考資料	SDGsアイデアブック JICA SDGsカード アクションカードゲーム X		[生物基礎]・[生物] 生態系の保全についてSDGsと共に学習し、自分事として考察し、アクションプランを宣言できるようになる。

期待できる学習効果

- ・知識として生態系やSDGsを学ぶだけでなく、自分事として考えたり、ディスカッションを通して多様な考えや意見を共有したりすることに繋がる。
- ・SDGsというツールを通して、「総合的な探究」の時間と教科横断的に学習を進めることに繋がる。
- ・SDGsの視点でボランティア活動や新聞・ニュースなどを振り返るきっかけになる。

授業内容

SDGsを活用した授業

- (1)「総合的な探究の時間」においてSDGsを紹介し、身の回りのローカルSDGsをマインドマップ化
- (2)「生物基礎」「生物」の授業において、SDGsアイデアブックをアクティブダイアログブックの手法で内容を共有
- (3)「生物基礎」「生物」の授業において、SDGsの概念の深化及び多様な考えを共有するために、SDGsカードの並び替えワークショップを実施
- (4)「生物基礎」「生物」の「生態系」の部分で、各テーマ毎にプレゼンテーションを実施。その際に、各テーマが抱えている課題をSDGsと結びつけたり、解決することで見えてくる姿などを予想したりした。テーマは次の9つ。①生態系の復元力②人間の活動による生態系の乱れ③地球の温暖化④里山の生態系⑤干拓・干潟の生態系⑥湖沼の生態系⑦生物多様性⑧外来生物⑨遺伝的攪乱
- (5)(4)のプレゼンテーションを実施した後、自身の班で取り組むアクションプランを宣言・実施

SDGsの視点で生態系を分析し、あなたのアクションプランを宣言できるようになろう！

学校名：秋田県立新屋高等学校 名前：阿部大輔

授業内容2



子どもたちの反応・感想

【振り返りシートの抜粋】

- ・里山の生態系とSDGsの繋がりについて深く考えることができました。また、SDGsと私たちのできることについても考察し、良い機会になりました。
- ・グループで環境破壊や開発問題など、SDGsを通して考えることができて良かったです。また、改めてこのことを考える大切さを感じました。
- ・自分たちのテーマである湖沼の富栄養化についてSDGsの観点から調べ、新しい発見をたくさん見つけられた。また、関係の深いSDGsのこともしっかり把握することができた。
- ・自身のテーマとSDGsの繋がりを考え、世界が豊かになればよいなと思った。また、他のグループの話を聞いて、新しい発見がたくさんあった。
- ・生物多様性を守るために取り組んでいる活動が分かった。また、その中で自分達にできそうな活動を見つけることができた。
- ・班の皆で自分たちのテーマに関係しているSDGsについて考えてカードの置き方を工夫しました。また、他の班の人たちから来た問いに対して自分たちで考えを深化させることもできた。
- ・環境保全とSDGsのつながりをディスカッションした。今後、日々の生活で自分にできることを実践したいと思った。

スナック菓子は好き？(生態系保全)

学校名：滋賀県立河瀬高等学校 名前：久保川剛宏

対象	高2,3	単元名
科目	生物	生態系の保全
時間	12時間程度	目標
参考資料	アイデアブック WWLホームページ ボルネオ島スタディツアー報告等	その1 スナック菓子は好き？ その2 データからcriticalな思考ができる

期待できる学習効果

- ・その1 教科書知識やSDGsの自分事化
- ・その2 卒業後も持続可能な社会の担い手として、ふとした瞬間に考えられる生徒の育成

授業内容

環境問題は生物基礎や生物の教科書において取り上げられており、現在最も取り組むべき内容ではあるが、教科書の内容を学習しただけでは自分事とならず、事実としては知っているが、それだけという人間を作ってしまうように思う。これを自分事とするためには、探究活動やフィールドワークなどが考えられるが、予算や時間といった物理的問題がある。そこで、予算や時間の乏しい高校においても、環境問題を自分事とし、持続可能な社会の担い手として今後も考え、学び続けるような学習者の育成を目指した取り組みを実施した。具体的にはパーム油の問題を理科的視点から取り扱った後、このような事例が多くあることをアイデアブックにて学び、SDGsを実現するためのアイデアを考えた。一部の生徒はSDGs みらい甲子園に応募した。

1時間目 1人100円程度のお菓子を用意し、教員が「植物油脂」使用の有無で2つの山に分けた。次の3つの課題を課した。課題1ポテトチップスを見て思うことを書きなさい。課題2 お菓子を2つの山に分けた理由を考えなさい。課題3 次の事象の間に起こる4つのことを想像してください。

日本でスナック菓子が売れる → ？→？→？→？ →象のジョー君が動物園にやってくる。

それぞれの意見を共有する。

スナック菓子は好き？(生態系保全)

学校名：滋賀県立河瀬高等学校 名前：久保川剛宏

授業内容 2

2~5時間目 パーム油に関わるような課題を複数出し、教科書・図説・スマホ等利用し、挑む。ただし、調べ学習ではなく自分の理解を深めたり、気になったことは教科の枠を越えて行っても良いこととする。また、全ての課題に挑む必要は無い。教員はファシリテートを心掛ける。なお、この活動は持ち寄ったお菓子を食べながら行う。

6時間目 再度、1時間目の課題1と課題3に取り組む。

SDGsの概念を教授し、次の時間からチームを組んでアクションプランを考える作業に入ることを伝える。どのゴールを選んでも良いこととする。

7~12時間 具体例をイメージするためアクションブックの具体例をいくつか見せる。冊数がある場合は配布する。アクションプランの作成にあたっては、教員はファシリテートを心がけ、探究が深まるように配慮する。

時間の関係で発表は行わなかった。代わりに複数のチームがSDGs みらい甲子園に応募した。

子どもたちの反応・感想

- ・最初の段階では、スナック菓子が売れると経済が潤って象を飼育する余裕が生れるというような解答が多かった。ここの動物園は実は保護施設ではあるが、敢えて伏せてある。象のジョー君は実在するため、課題を進めて行くとほぼ全ての生徒が真実には気付く。

- ・お菓子を食べながら行うということで、基本的に楽しく活動する。しかし、活動を深めていくと、自分が食べているお菓子がこの問題に関わっており、複雑な想いを抱くようになる。この点は6時間目の再課題の記述にも現れている。

- ・パーム油問題は、扱いやすいため他の教科等でも取扱われ、既に知っている生徒もいるが(本校の生徒は英語の題材として学んでいた)、本質的な理解や自分事として捉えている生徒は少なく、どんどん探究的かつ拡張的に活動する様子が見られた。

- ・後半のアクションプランの作成では、最初はワクワク取り掛かるが、暫くすると「これは無理」「こういう問題があるね」とモヤモヤした様子が見られる。このワクワクとモヤモヤの繰り返しこそが重要であり、最終的にモヤモヤで終わったチームもあったが、課題解決の難しさ等は学んでいるため十分目的は達成できたと考えている。

生物探求SDGsワーク

学校名: 兵庫県立伊川谷高等学校 名前: 河合祐介

対象	3年	単元名
科目	生物探求	単元名を教えてください
時間	2時間	目標
参考資料		その1 自分の進路とSDGsの関係を知る
アイデアブック		

期待できる学習効果

- ・その1 関心のあるテーマと生徒の進路の関連性を学ぶことができる
- ・その2 将来ターゲット実現を各自の進路先から目指すことができる

授業内容

9月2日

- 1 自分の関心のある分野をA: 興味のある学問、B: 興味のある職業分野、C: 興味のある世界の話題に分けて記述させる
- 2 1と関連のあるアジェンダをA～Cでそれぞれ3つ選ばせる
- 3 2の理由を記述させる

9月9日

- 1 1日目で選んだ9つのアジェンダの、自分の中での優先順位を付けさせる
- 2 1の理由を書かせる
- 3 班内で発表して、ほかの人の順位と比較する
- 4 3の感想を書かせる

生物探求SDGsワーク

学校名:兵庫県立伊川谷高等学校 名前:河合祐介

授業内容2

指導のポイント

- 学年で後日実施するSDGsワークの班別ワークの際、チューターとなる生徒として指導する
- 発表を聞いたのち、質問を心掛けさせる
- 他人の考えと自分の考えの異なる点、共通する点を考えさせる

子どもたちの反応・感想



「なりきって」ポスター発表

実施校：富山第一高等学校 教諭名：氷見栄成

対象	1学年	単元名	第5章 生態系とその保全 第3節 生態系のバランスと保全
科目	生物基礎	目標	その1 人間活動が生態系に影響を与えていることを、科学的な視点から理解する。 その2 各Goalの達成に向けて活動している人々の取り組みを学ぶことで、課題解決に向けて主体的に行動することの重要性に気づく。 その3 アイデアブックに記載されている取り組み例をポスターにまとめ、発表することで、情報を適切にまとめる力や表現力を伸ばす。
時間	3時間		
参考資料	教科書 生物基礎 SDGsアイデアブック		

期待できる学習効果

- ・ポスターセッションの経験がない生徒に対し、取り組みへのハードルを下げて取り組ませることで、「ポスター発表は難しくなく、自分でもできる」という自信を与える。実践して良かったという成功体験から、次の探究活動への自律的なモチベーションにつなげられる。
- ・身近で現実的な話題から取り組ませることで、SDGs各ゴールの内容と教科書内容の深い理解につながる。
- ・3名のチームで取り組ませることで、他者理解や協働性といった非認知的スキルを伸ばすことができる。

授業内容

- ① 右のポスター原型を作成し、A4サイズ1枚(生徒数分)とA3サイズ4分割ポスター(チーム数分)を印刷する。
- ② 3人からなるチームを形成する。
- ③ 各自が興味をもっているゴール番号(3つ)とその理由を伝え合い、話し合いによりチームとして調べたい1つのゴールを定める。(単元目標からGoal 13～15を推奨したが、生徒の思いを大切に他のGoalでもよいものとした)
- ④ チームで話し合ってアイデアブックに掲載されている取り組みをした人(組織)に「なりきって」紹介するページを1つ決める。
- ⑤ アイデアブックを読み込み、各自でA4ポスター原型用紙に、記事の内容を紹介するミニポスターを自分なりのまとめかたで作る。
- ⑥ チームメンバーが集まり、ポスターの内容を検討する。
- ⑦ A3サイズ4分割ポスターの役割分担を決め、手書きでポスターを作製する。
- ⑧ 4枚のA3用紙をセロハンテープで貼り合わせ、1枚のA1サイズポスターにする。
- ⑨ 発表原稿を考え、チームメンバーで共有する。
- ⑩ 発表原稿を見ずにプレゼンできるまで練習する。
- ⑪ 各自が少なくとも1回はポスター発表を行う。
発表時間2分、質疑応答1分、フィードバック1分とする。

「なりきって」ポスター発表

実施校: 富山第一高等学校 教諭名: 氷見栄成

授業の様子



子どもたちの反応・感想

- ・「ポスター発表をします」と聞いて、はじめは「自分にはできない」と思っていたが、基本のフレームがきまっていたのでまとめやすかった。単に本を読むだけではなく、仲間に分かりやすく伝えようと考えながら取り組んだことで、自分が大切にしたいゴールの本質が理解できたと思う。
- ・プレゼンテーションではとても緊張した。フィードバックコメントにはストライク(良いところ)とボール(改善した方がよいところ)の両方が記されていたので、次のポスターセッションに向けて大いに参考になった。
- ・先生から一方的に話を聞くだけの授業より内容が残るし、友達とのやりとりがとても楽しい。
- ・今まで分かったつもりになっていたSDGsだったが、自分で課題を意識して、その人になりきって取り組むことで、ようやく大きな問題だということが意識できるようになった。
- ・アイデアブックの内容が分かりやすく、自分でもできそうという気持ちになった。総合的な探究の時間の取り組みにおいても、この本を参考にしたい。

学校名:宮城第一高校 名前:三浦 学

対象	高校3年	単元名
科目	地理A	地理A全範囲(1年間のリフレクションとこれからの自分のキャリア)
時間	8時間	目標
参考資料	アイデアブック SDGs新聞	その1 教科教育が実社会と接続しているということを知る。 その2 自分のキャリアとSDGsの各ゴールが密接に関連していることを学び、SDGsというフィルターを通すことで自分の学びの視野が広がることを知る。 その3 アイデアブックを参考にして、自分たちの理想とする社会と現実の社会との差をどのように解決しているのかを考える。

期待できる学習効果

- ・その1 SDGsの各ゴールと教科学習の内容を深く関連していることへの理解につながる。
- ・その2 グループでの学習を通し、他者を理解しコミュニケーション力が伸びる。
- ・その3 自分が認知している世界だけでなく、認知していない世界も考えることで探究していく視野を広げる。

授業内容

授業内容や授業のポイントなどを教えて下さい

- 1時間目 SDGsアイデアブックを読み、グループ内で自分が考えたことや感じたことをディスカッションし、人により考える視点が違うことを体感し、自分の中で新たな気づきを得る。
- 2時間目 2030SDGsカードゲームを通し、SDGsについて体感する。
- 3時間目 2023SDGsカードゲームのリフレクションをSDGsアイデアブックを利用して自分たちが行うことができることを考える。
- 4時間目 SDGs新聞を利用した付箋ワーク(アイデアブックを参考)①
- 5時間目 SDGs新聞を利用した付箋ワーク(アイデアブックを参考)②
※グループ内で気になる記事の一つを選び、その記事の背景に隠された人の思いや行動した思いについて考え、自分たちに新しい気づきを感じることができるようになる。
- 6時間目 SDGsカードを利用して、グループ内で17のゴールについてどのように感じているかを並び替えを行い、他のグループに伝える。(アイデアブックを参考)
- 7時間目 A3版1枚にグループ内でSDGsのテーマを決め、自由にまとめるワーク①
- 8時間目 A3版1枚にグループ内でSDGsのテーマを決め、自由にまとめるワーク②
※洋式を決めてしまうと生徒を教が示した学びのルールに乗せてしまうことになるのであえて自由にまとめるように指示をした。

以上の学びの中に必ず次の視点を入れ、各グループでディスカッションするように伝えた。

(1)地理Aの内容を考慮すること。アイデアブックを参考にすること。

(2)SDGsの次の視点を考慮すること。

- ①誰一人取り残さない世界をつくる
- ②世界を変革する
- ③経済・環境・社会が調和することを考える

学校名: 宮城第一高校 名前: 三浦 学

授業内容2



子どもたちの反応・感想

1 自己採点 90/100
2 1番の発見
SDGsが単なる目標ではなく、
新しい事業の契機になり
うらということ。
3 思ったこと。
SDGsは2030年の目標では
あるが、日本は2025年までに
ないところから力を入れている。
4 役立てた。
VUCA時代の生き抜いていく
ためには、思考力、判断力、表現力
が求められる。それと合わせて、
SDGsに取り組んでいく。
5 高3に比べて字が小さく、見やすい授業だった。
板書の量にも大きな影響を与えてくれたと思う。

1 自己採点 90点
Because, I studied a lot of things
in the class. Thus I want to
study more and more!
2 What is your discovery
in the class? You can choose
only one!
I was surprised that the snow is falling
on the desert!
3 How do you feel?
When you present the class.
Very good!
but I want to move
details.
4 What are you going to use
which you learned in the class?
Maybe I want to be a teacher.
Thus I'll tell the story in my
class.
5 I'm looking for the next lesson class!

1 80点
わりと積極的に参加
したかもしれない。
2 SDGsが
いろんな会社、学校などで
取り入れられていたこと。
3 目標から逆算して
今の課題を明らかに
していく方法道すがら
は、3つ見えるかもしれない。
4 情報
わかりやすくまとめる
技術を身につけたい。

1 95/100
楽しめたから。もう少し
積極的に参加できればよかった。
2 一時にしろ。
自分の知らない世界について
知ることができた上に面白かった。
今回の授業で最も楽しかった。
3 SDGsの関連
4 将来の自分への
"道標"として何かに
いつか活かしたい。
5 一年間
ありがとう。さようなら。

「持続可能な社会の担い手」になるために
～カードゲームを起点とした学習によって～

学校名：長崎県立波佐見高等学校 名前：廣井恒之

対象	1学年	単元名
科目	地理A	私たちが直面する地球的課題
時間	5時間	目標
参考資料	その1 カードゲームによって、SDGsについて体験的に理解する その2 自分が考える社会の理想と現状のギャップを知る その3 理想を現実化するための方策を考え、表現する。	
アイデアブック 東京書籍『高等学校地理A』 二宮書店『詳解現代地図』 ベネッセ『SDGsアイデアシート』		

期待できる学習効果

- ・カードゲーム(2030SDGs)によって、SDGsを頭だけでなく体で納得することができる。
- ・『アイデアブック』を見ながら、『SDGsアイデアシート』に取り組むことによって、理想と現実のギャップを感じながらも、解決に向けての取組を考えることができる。
- ・自分の考えをさまざまな形でプレゼンさせるという条件で、表現物を作成させることによって、ますますSDGsについての考えが深まる。

授業内容

1. カードゲーム(イマココラボ「2030SDGs」)の実施(2時間)

(1) SDGsの説明

- ① SDGsとは
- ② 持続可能な開発とは？
- ③ SDGsの理念などについて(「誰一人取り残さない」など)

(2) カードゲームのルールと実施

- ① ゲームの世界で、様々な価値を持つ人が、お互いに目標を達成するためには、どのような考えや姿勢を持つことが必要かを体験的に学ぶ。
- ② ゲームの途中や最後で振り返ることによって、SDGsを達成するために必要な考え方や行動を体験的に学ぶ。

(3) 理解度の確認

日常生活でできるSDGsへの貢献や、食品ロスについての対策について考えさせる。

2. 関心の焦点化

- ① 『アイデアブック』を読みながら『アイデアシート』をする目によって関心を焦点化する。
- ② 特に『アイデアシート』の最後のシートで、自分の関心を焦点化し、理想と現実、そのギャップを埋める方向性を確認する。

「持続可能な社会の担い手」になるために
～カードゲームを起点とした学習によって～
学校名:長崎県立波佐見高等学校 名前:廣井恒之

授業内容2

3. プレゼン資料の作成

(1) A4の紙を配り、思い思いの表現方法で、SDGs達成への考え方を描かせる。

…文章だけでも、図示でも、絵を描くことでも可。

(2) SDGsマンダラの作成

…大谷翔平選手のマンダラシートにヒントを得て、シートの真ん中に目標の一つなどを入れて、目標達成への方策を分析的に広げさせる。

子どもたちの反応・感想

○カードゲームは、真剣に取り組み、その分ファシリテーターの声掛けに素直に反応したところがあった。頭で考え、自分で動き、対話することで、より理解が深まる体験ができたようだった。

○ワークシートの作業、表現物の作成のいずれをとっても、生徒は普段より興味深げに取り組んでいた。単に受け身で理解をしなければならないのより、取り組みやすかったのかもしれない。

STEP 3

未来を想像し、できることを考えよう



これまでのステップで、サステナブルやSDGsについて知り、世界や日本について見てきました。
このシートでは、実際に未来について想像しながら、未来のためにできることを考えてみましょう。



どの目標が
いちばん気になった？
番号を
入れよう！

5

どうして気になったんだろう？

例:「今まで水やトイレを自由に使えるのは当たり前だと思っていたから」など選んだ理由を考えてみよう！

・身近にLGBTの人がいて、よくそのことを話したりするから
・LGBTの人に対する視線が本当に冷たいと思ったから
・日本はLGBTの人に対しての理解が「まだまだ」と思ったから

キミが大人になるときに、どんな未来に
なっていたらいいかな？自由に考えてみよう。

例:「水問題を解決してみんながきれいな水を飲める未来にしたい」
など。「こんな未来」のイメージがあれば絵でかいてもいいよ

LGBTを隣人としてではなく、
個々の個性だと認識する人が
増えればいいと思う。
そして自分の個性を今よりオープンに
できる、生きやすい未来にしたいと
いいなと思う。

その未来にするためにはどうしたら
いいんだろう？

例:「きたない水しか飲めない人を減らすために、
水をよこさないようにする」など

もっとそのことを勉強する機会を
増やす。私たちは中学のときにLGBT
を学ぶ始めたがそれと違いと思う。
小学校でも早くないし、むしろ幼稚園、
保育園に通っているときから、そういうことを
学ぶ機会などを増やしてほしいと思う。

もっと学ぶ始める時期を早めるべき。

自分たちにできることはなんだろう？

例:「水をよこさないために、川や海にゴミを捨てないようにする」など

個々の個性である、と認識すること。
まずはそこからと思う。今すぐ授業で
LGBTの内容を増やすことは無理がある。
でも「LGBT」もいい、狭い範囲でいい。
もししたらクラスの中でそのことで
悩んでいる子がいるかもしれないから
まずはみんなと話し、お互いの理解
を少しずつ深めていくことが今私たち
にできることだと思う。



さあ、今日からできることをはじめよう。未来をつくるのは、キミだから。



持続可能な「支援案」を作成せよ！

実施校：明德学園相洋中高等学校 教諭名：大廣光文

対象	高校1年	単元名	アフリカ州 ―ミッション 持続可能な「支援案」を作成せよ！
科目	地理B	目標	その1 アフリカについての地誌的理解を深めるとともに地理的見方・考え方を身につける：【思考・判断、知識・理解】 その2 地図や資料等から読み取った情報を自分の言葉で理解し、伝えたい内容を他者に伝える表現力を高める：【資料活用 of 技能、表現】 その3 SDGsの考えを理解して現地の人の立場になって支援のあり方を考え、2030年までに実現できるように取り組む：【関心・意欲・態度】
時間	8時間構成		
参考資料	田中治彦・三宅隆史・湯本浩之(2016)『SDGsと開発教育』, 学文社.		

期待できる学習効果

- その1 相互貢献の視点から、協働してテーマに取り組むチーム力の高まり
 その2 相手軸からよりよく伝えるための工夫や内容を伝えるための言語技術等の表現力の向上
 その3 「誰のための支援か」を考えることで、支援を受ける側にとっての本当の持続可能な支援とは何かを探究する力の育成

授業内容や授業

本単元における目標

新詳地理B(帝国書院)における現代世界の地誌的考察(第1章 6節 北アフリカとサハラ以南のアフリカ)において、「ミッション」を設けることで、アフリカ州への支援のあり方を探究する学習をねらいとした

◎ミッション: アフリカ州にある国の中から1か国を任意に選び、その国の支援計画をSDGsの視点からワークシートを用いて立案する

○主な学習内容と進め方

- 導入 本単元を構成する深い問いの設定、基礎・基本となる知識の共有
- 【第1時】 ゼロベースの生徒たちを前提に丁寧にSDGsを説明し、本単元を貫く深い問いを設定する
- 展開
- 【第2時】 SDGs17のゴールから1つを選択し、その視点からアフリカ州の国への支援案をつくる
- 【第3時】 『未来を変える目標』を活用して、SDGs17から169の小窓へと視点を深める
- 【第4時】 発表するチームを作り、1週間の準備期間を設け、17の視点からの中間発表をチームで行う
- 【第5時】 未完結の場合は中間発表の続きを行い、終わり次第個人とチームで「振り返り」を行う。
- 【第6時】 17の視点からの探究の際に生徒が取り上げたアフリカ州の国同士でクロスカップリングをする
例. 中央アフリカ共和国 (1「貧困をなくそう」× 16「平和と公平をすべての」)

【第7時】	クロスカップリングで作ったペアで、最終プレゼンテーションの準備を進める	声・表情の工夫	声が教室全体に届き、表情がいきいきとしていたか
【第8時】	2人1組のペアがそれぞれ持ち時間5分程度でプレゼンテーションを行う	ジェスチャー・間	身振り手振りなど工夫したり、効果的に「間」をとっていたか
		内容①	現地の人にとって役立つ支援だと納得することができたか
		内容②	説得力があり、実現可能な支援案であったか
		内容③	チームでの連携が取れていて、良い発表になっていたか

※採点は、発表するチーム以外が上の観点から、○・△・×で採点シートを使って採点

持続可能な「支援案」を作成せよ！

実施校：明德学園相洋中高等学校 教諭名：大廣光文

授業の様子

生徒のワークシート作成例①
【中央アフリカ共和国】

生徒のワークシート作成例②
【南アフリカ共和国】

子どもたちの反応・感想

アンケート分析 —開発教育における学習の4段階(田中モデル)

●【振り返り】

「SDGsはただ一方的な支援をするのではなく、支援したいと思う人々と同じ目線になって考え協力することが大切だと知りました。支援は簡単に言葉ではすましていけないものだとか知れたので良かったです(高1男子)」「支援案は口ではなんとでも言えるけど、改めて行動していかないといけないと思います。じっと考えてる時間で感染症や食べ物がない人々は苦しんでいるから行動していきべきです。大人になったら現地に行って、話してどうしてほしいか一緒に考えたいです(高1男子)」「誰も置き去りにしないということを踏まえた上で考えることができた。これをふまえ、また1から考えていきたい。将来SDGsを大学でもやっていきたいと思った。(高1女子)」

上に紹介した振り返りは、単元終了後に行ったアンケートの一部である。アンケート結果を「田中モデル」を活用して分析したが、第2段階【問題に対して基礎的な知識を得る。ときに単純な行動を起こす】に留まる生徒が少なくなかった。8時間という時間を使って取り組んだこともあり、第2段階未満の理解に留まった生徒は、2クラス(86名)合わせても12名(14.1%)と少数であった。しかし、関心の喚起や知識の獲得だけではなく、第3段階となる【問題の複雑性を理解する。具体的な行動はとりにくくなる。それでも関心をもち続ける】まで探究できた生徒はごくわずかに限られた。とはいえ、将来の進路選択に、SDGsをテーマとして選ぶと考えた生徒が現れたのも事実である。今後もSDGsを取り入れた授業実践に力を入れ、生徒を積極的に巻き込んでいきたい。

持続可能なまちづくりを考えよう

実施校：東京都立小笠原高等学校 教諭名：山田 駿

対象	高校2学年	単元名	持続可能なまちづくりを考えよう
科目	現代社会（必修）	目標	1 自分たちの住む地域の課題の解決策は「まちの持続可能性」と密接に関係していることに気づく 2 産業・雇用・環境の望ましいあり方を考えることは、どのような社会で生活していきたいか考えることにつながることに気づく
時間	10時間		
参考資料	アイデアブック 離島経済新聞（2020年春号） 自作プリント		

期待できる学習効果

- 自分たちの住む地域の課題を考える中で、地域の抱える問題は、地球規模で起こっている問題とどのように関係があるか、またその解決のために市民に何ができるのかという視点を持つようになることで、現代社会の諸課題を「自分ごと」としてとらえることが出来るようになる
- 現代社会の諸課題の解決のために、既存の枠にはまることなく柔軟な思考で問題を解決しようとする態度を養うことが出来る

授業内容

本授業は、2年現代社会の3学期のまとめとして設定した。年間を通してSDGsの視点を軸に授業を展開しており、1学期は地球環境問題、資源・食料問題、2学期は貧困問題・人権、社会保障・雇用と労働・租税の範囲を中心に学習を行った。年間を通した最初の時間にSDGsの基本的な内容（各目標や理念）を理解し、各授業では17の目標とどのように関係しているかも合わせて考えさせている。

3学期のまとめではこれまで学んだ現代社会の諸問題を自分の住む地域の視点で考えることとし、約10年後の2030年には、自分たちの住むまちが「持続可能なまち」であるためにはどのようなことをしていけばよいかを考えさせた。

●授業の展開

【第1時】これまでの授業のまとめと、まちづくりのためのチーム決め

1学期、2学期に実施した授業内容を簡単に振り返り、改めてSDGsが目指すものを再確認する。

【第2時】まちのコンセプトを決める

チームごとに現在のまちの課題を考え、2030年の理想のまちの在り方を考える。ブレインストーミングを実施し、アイデアを出した後で、KJ法を用いてテーマごとにグループ分け。自分たちの理想のまちのコンセプトを考える。

【第3時～第6時】コンセプトに基づいて、持続可能なまちを実現するためのアイデアを考える

各時間の最初に「環境」「消費・産業」「雇用・福祉」の視点からまちづくりをするに際しての講義を実施。その後自分たちのチームのコンセプトとこれらがどのようにかわるべきかをアイデアとして出していく。アイデアを出すヒントとしてアイデアブックも用いる

【第7時～第9時】模造紙に理想の持続可能なまちのアイデアをまとめる

プレゼンのための模造紙資料を作成する。【第10時】で発表する。

持続可能なまちづくりを考えよう

実施校：東京都立小笠原高等学校 教諭名：山田 駿

授業の様子



まずは、各グループごとに10年後のまちに必要なものを考え出し、まちのコンセプトを決定していきます。3つの各班がそれぞれ重視していくものは「ネットワーク」「環境」「交通」になり、この視点を軸に持続可能なまちについて考えていきます。

テーマが決まったらその理想のまちを実現するためにどのような政策を実行していくか、どのようなことができるようになる必要があるかをグループでアイディアを出していきます。

アイディアが出そろったら、模造紙にアイディアの書かれた紙を貼り付けて模造紙を完成させていきます。

また最後の時間には各班の発表を行います。



評価項目/観点	3点 (めっちゃすごい！)	2点 (まあすごいかな)	1点 (もう少し！)
チームワーク	発表者全員が役割分担あり、その役割が十分に発揮できている。またチーム内にも協働性があらわれている。	発表者全員が役割分担していることが見られる。チームワークは普通くらいに感じられる。	発表者全員が役割分担があるに感じられる。チームには不協和音が漂っている。
資料・「考え」の内容の原さ	特にアイディアの内容に特化が著し、特異な観点が表れている。社会を変革するためにむなしいアイディアが複数取り上げられている。	アイディアの内容は特異な観点が表れているが社会を転換するうえで妥当なものであった。	アイディアの内容には特異な観点が表れているが、アイディアでも表現されているものばかりで、内容が浅かった。
分かりやすさ	発表の目的・手段が発表者が伝えた内容の旨をわかりやすく表現する手段としてふさわしく、楽に聞いていただけるようであった。	発表の目的・手段が発表者が伝えた内容の旨をわかりやすく表現する手段としてふさわしかったが、わかりにくく感じられた。	発表の目的・手段は特異な観点をのまきまきしているだけで、わかりやすく表現された点も理解できる程度のものであった。
発表態度	時間を守り、大きな声で堂々と発表していた。	時間を守っていたが、やや遅延はあり、遅延しているなど、もう少しは遅延して早かった。	時間のオーバーや不足があった。発表態度もやや悪く、態度がよかった。

発表は模造紙の内容を他のグループにプレゼンをする方式で実施します。模造紙の内容をより分かりやすく伝えるために紹介動画を作成するなど、班ごとに工夫も見られました。聞き手はループリックに従って発表内容や完成度について評価をしていきます。

また発表後のフィードバックでは実現可能性や実現するために何からはじめるべきかなども考えていきます。

子どもたちの反応・感想

●学習を終えて、学んだこと、持続可能なまちづくりにおいて大切なことはどのようなことか考える

語の「リ」の字習ふ通じ人からては、自通はた「リ」の字に、その前接する「リ」
 は「リ」の字に「リ」の字に、自通はた「リ」の字に「リ」の字に「リ」の字に「リ」
 の字に「リ」の字に「リ」の字に「リ」の字に「リ」の字に「リ」の字に「リ」
 の字に「リ」の字に「リ」の字に「リ」の字に「リ」の字に「リ」の字に「リ」

影の部分は等しく1/2。工業⇔環境、技術⇔コストの対比、何れも
 長く1/2とすると極端な問題が発生する。今日の競争はコストと「理想」に決まる。
 この社会が実現しようとする影の部分は等しく必要であり等しい。
 また消費者見聞きするものは大抵である。この社会に「等しく」技術的な社会
 成り立ちの部分は等しく1/2。それと、年々の貯蓄と消費の割合が1/2。

[illegible][illegible]

未来を変える目標 SDGsアイデアブック

学校名: 沖縄県立北山高等学校 名前: 山川康平

対象	高校1、3年生	単元名	未来を変える目標 SDGsアイデアブック
科目	現代社会、地理B	目標	その1 世界の現状を知る(グローバルな視点) その2 私たちの生活との繋がりを知る(ローカルな視点) その3 問題解決の糸口をつかむ
時間	2時間		
参考資料	アイデアブック等		

期待できる学習効果

- ・その1 地球的課題についてグローバルな視点から捉え、ローカルな視点で考察させることができる。
- ・その2 小論文対策や面接対策など、生徒の進路対策にも効果がある。

授業内容

授業内容

- ① p13～31のマンガを読む
- ② 次の問1～問3に答えなさい。

問1 表紙ウラにある17のアイコンからあなたが気になるものを3つ選び、
下の空欄に書き写して下さい。またそれを選んだ理由を記入して下さい。

問2 上の質問で選んだ3つの項目の中から、あなたが最も関心のあるもの(早く達成しなければ
ならないと思うもの)を1つ選んでください。そしてp32～151の中にあるあなたが選んだ項目
のページを読みまとめてみましょう。

私がもつとも関心をもった項目は()番の()です。

【調べて分かったことをまとめよう】

()

【各項目のページにある「考えてみよう」に対するあなたの考えを答えて下さい】

()

問3 今日の授業を通じて学んだことや感じたことを書いてください。

未来を変える目標 SDGsアイデアブック

学校名：沖縄県立北山学校 名前：山川康平

授業内容2

授業のポイント

- ・生徒が各自のペースで本書を読みながらワークシートに自分の考えを記入していく。
- ・教師の発言(意見)は最小限にすることで生徒のとらえ方に多様性をもたせる。
- ・課題解決に向けて何ができるかを教師も一緒に考える。なるべく生徒に解決策を考えて欲しいので教師の意見は必要最小限にする。

子どもたちの反応・感想



SDGsクイズで学ぼう ～これからの私たちの生活と世界～

SDGs(エスディーゼーズ)とは「Sustainable Development Goals(持続可能な開発目標)」の略称で、国連サミットで採択された国際目標です。

携帯電話を利用し、下のQRコードを読みとりSDGsクイズに挑戦



問1 SDGs17の目標からあなたが気になるものを3つ選び、下の空欄に書き写して下さい。

またそれを選んだ理由を記入して下さい。

番号() 理由()

番号() 理由()

番号() 理由()

問2 上の質問で選んだ3つの項目の中から、あなたが最も関心のあるもの(早く達成しなければならないと思うもの)を1つ選んでください。

私がつとも関心をもった項目は()番の()です。

【調べて分かったことをまとめよう】

問3 今日の授業を通じて学んだことや感じたことを書いてください。* 8行以上

マイクロプラスチックプロジェクト

学校名:名古屋経済大学市邨高校 名前:中川琢雄

対象	高校1年	単元名
科目	現代社会他	
時間	10	目標
参考資料	アイデアブック等 インターネットも活用	その1 SDGsについて概観し、理解を深める その2 SDGsの諸ゴールのうち、関心の高いものを選択し、探究する その3 実際に自分たちで活動し、学びを自分ごと化する

期待できる学習効果

- ・その1 SDGsについて知り、自分たちの問題であることを認識する
- ・その2 プラスチックについて、その利用の利点と欠点について、データをもとに議論・考察できる
- ・その3 実際に行動することで、問題意識及び自主的な活動を継続する

授業内容

1、複数科目を跨いだ学際的アプローチとカリキュラムマネジメント

- ・現代社会の時間に、書籍を用いたSDGsの概論とテーマの決定
- ・現代社会の時間に、プラスチックについて、インターネットを用いて調査研究
- ・現代社会の時間に、身近で使用されているプラスチックを知るため、校内のプラスチックを探索
- ・英語表現の時間に、映画「Plastic Ocean」を鑑賞、スピーチ(2時限)

2、学外の専門家とつなぐ

- ・現代社会の時間に、四日市大学の千葉教授よりZOOMを用いた遠隔講義

3、実際に行動する

- ・総合探究の時間に、県内の複数の砂浜で、マイクロプラスチックの最終活動を実施

マイクロプラスチックプロジェクト

学校名:名古屋経済大学市邨高校 名前:中川琢雄

授業内容2

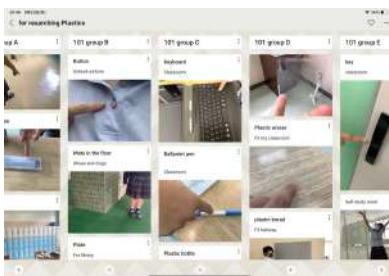
④有志を募り、採取したマイクロプラスチックの研究活動

- ・日本海側、太平洋側の複数の地点でマイクロプラスチックの研究活動を継続
- ・論文の執筆、発表(核融合科学研究所、AITサイエンス大賞)

⑤海岸清掃活動の実施

- ・ボランティアを募り、県内のビーチの清掃活動を実施
- ・藤間干潟清掃活動へ参加、清掃の様子を文化祭でZOOMを用いて中継

子どもたちの反応・感想



SDGsとESDの視点を取り入れた地学基礎の授業

実施校：東京都立羽村高等学校 教諭名：久富 悠生

対象	高校3年生	単元名	大気と海洋
科目	地学基礎	目標	その1 大気によって地表付近に熱が蓄積され、地球の平均温度15℃が保たれていることが分かる その2 大気中の二酸化炭素濃度の変化によって地球の熱趣旨のバランスが乱れて、温暖化が進行することが分かる。 その3 大気や海洋は国境を越えて循環しており、それらによって形成される自然環境は人間活動と密接な関係があることが分かる
時間	8時間		
参考資料	アイデアブック 新訂版 地学基礎(実教出版)		

期待できる学習効果

- ・その1 地球温暖化というグローバルな社会課題に対して、その自然科学的なメカニズムを知り、地球の気候変動の原理や影響を知ることができる。
- ・その2 SDGsとの学習を踏まえて、地学基礎の学習と社会課題との関わりを知り、地学現象に対する興味関心を高めると共に、地球規模の課題に対して主体的に考えられるようになる。
- ・その3 大気や海洋循環の影響によって生じる世界の気候分布の隔たりを知り、国際協力の大切さや必要性を理解することができる。

授業内容

SDGsの概要については、1学期に期末試験後の時間を利用して学習を行った。「未来を変える目標 SDGsアイデアブック」を生徒一人一人に配布し、SDGsの概要や社会的な意義を学んだり、それぞれの目標について調べさせる時間を設けた。2学期に行った気象分野の単元では、毎時間のグループ課題においてSDGsを盛り込んだ課題を設定した。各授業におけるグループ課題とそれに対応するSDGsは以下の表の通りである。関係するSDGsについては、表にあげたもの以外にも、多くのゴールが関わっているが、代表的なものをこちらから提示して、どのような社会課題につながっているのかどうか目に向けさせる工夫を行った。

	テーマ	グループ課題	関係するSDGs
1	大気圏	地表から大気圏上層までをつなぐ宇宙エレベーターで宇宙旅行を企画したときに、見どころとなるポイントを2つ考えなさい。	ゴール9
2	大気の層構造	飛行機は大気圏のどの層を飛んだらよいのか。理由と共に考えなさい。	ゴール12
3	大気の熱輸送	自然から効率よく熱エネルギーを得る方法を考えなさい。	ゴール7
4	雲のでき方	夏の夕方など、局地的に厚い雲ができて大雨が降り、洪水や土砂災害などを引き起こすことがある。このような雲の発生を予測する方法を考えなさい。	ゴール11
5	地球の熱収支	地球の気温上昇を抑えるために、学校でできる対策やアイデアを考えなさい。	ゴール13
6	大気大循環	大気大循環が起これなければ、地球上の気候分布はどのようにになってしまうか考えなさい。	ゴール15
7	海水の運動と循環	各国が海にプラスチックのゴミを捨てることで地球の海洋環境や海洋生物、人間の生活にどのような影響があるか考えなさい。	ゴール14
8	日本の気象と気候	日本のように降水量が多く水資源が豊富な地域とそうでない地域には、どのような自然環境の違いがあり、その違いが経済や社会にどんな影響を及ぼすか考えなさい。	ゴール6

SDGsとESDの視点を取り入れた地学基礎の授業

実施校：東京都立羽村高等学校 教諭名：久富 悠生

授業内容

1学期の期末試験後に行ったSDGsの学習では、以下の3つの課題を設定した。

課題1	持続可能な開発目標SDGs (Sustainable Development Goals)とは何か、映像を見てわかったことをメモしましょう！
課題2	「未来を変える目標SDGsアイデアブック」p.8-11のSDGs解説①を読んで、学んだことや感じたことをまとめましょう！
課題3	SDGsの17目標のうち、自分が最も興味を持った目標についてアイデアブックを活用して調べ、目標の概要をまとめましょう！

学習形態は4人班の学び合いとした。課題1で用いた映像教材は、国連広報センターが2015年にYouTube上に公開したものを利用した(URL: <http://www.youtube.com/watch?v=1c48kWLQ>)。課題3については、自分が調べたゴールについて他の班員と共有し合うようにして、少なくとも4つのゴールについて学習できるよう工夫した。

子どもたちの反応・感想(SDGsアイデアブックを取り入れた授業)

課題1 課題1の映像から子どもたちは、世界を新たに考え直さなくてはならない時代になっていること、未来の世代を犠牲にしない開発が求められること、経済成長と環境保護のバランスを考えなくてはならないことなどを学んだ。

未来の世で暮らしていることと、現代の子どもたちが人々の要求を満たす開発、経済成長を望んでいる。 経済成長と環境保護のバランスを考慮。	未来の世で犠牲にすることなく、現代に生きるすべての人々の要求を満たす開発。
SDGsは、17の目標があり、それぞれが、それぞれの問題を解決する。 持続可能な開発目標を達成するためには、世界のすべての人々の協力が必要（すべての人々の要求を満たす） 経済成長と人々の要求のバランスを考慮しなければならない。	・経済成長と環境保護のバランスを考慮して世界中すべての人々の要求を満たす開発すること。 ・未来の世代を犠牲にすることなく、現代に生きるすべての人々の要求を満たす開発。

課題2 「未来を変える目標SDGsアイデアブック」のp.8-11を読んで、SDGsとは何かをまとめる学習である。SDGsが「誰も置き去りにしない世界」への目標であることや、ゴールの達成に向けて世界が動き始めていることを実感する生徒のコメントが多くみられた。

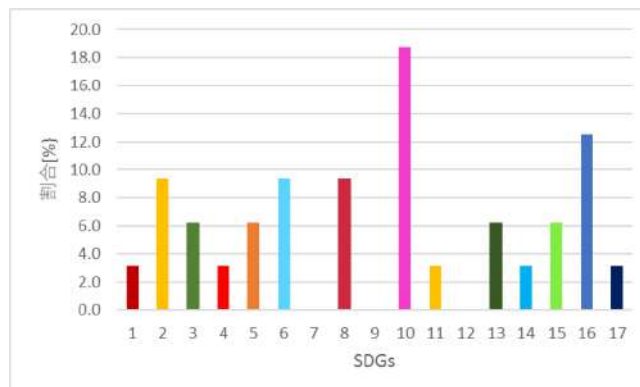
SDGsとは、2030年の世界の姿をあらわした目標の集まりであることに初めて知りました。国連のすべての加盟国がこの目標に合意していることに驚きました。経済、社会、環境の3つに分けていて、どれも現代、未来にとってとても大事なことで「誰も置き去りにしない」世界を目指して、SDGsの世界を実現してほしいです。	大分が目標 ・経済（経済的な成長と雇用、産業や技術の革新） ・社会（貧しい人々をなくし、健康と福祉、教育の徹底、性別平等） ・環境（海洋陸地の環境、気候変動） ・自分たちがあたりまえのよう毎日過ごしているが、世界ではあたりまえではない。
様々な国が同じ目標を掲げている。互いに競争しながらより良い結果を導き出している。これは良いことだと思いました。 17の目標がある。未来を築くために、行動を起こすことがとても大切だと思いました。様々な課題がある中で、同じ目標のために、協力し合っていることがとても大切だと思いました。	この本を読んでみて自分もまたまた保守的な考えを持っていたことを思い出した。新しいことを始める。ということから始めていない。という自分の現状がわかった。しているたげのように感じている。SDGsを知らなければ良かったなと思いました。

SDGsとESDの視点を取り入れた地学基礎の授業

実施校：東京都立羽村高等学校 教諭名：久富 悠生

子どもたちの反応・感想（SDGsアイデアブックを取り入れた授業）

課題3 もっとも生徒の関心が高かったのは10番のゴールで、「人や国の不平等をなくそう」である。この結果は、クラスの4分の1の生徒が経済的に支援の必要な家庭に属している本校の特徴であると考えられる。次に興味関心が高かったのは「平和と公正をすべてのひとに」という16番であったことも、日常生活の中で不平等や不公平さを感じている生徒ならではの傾向なのかもしれない。また、2番の目標「飢餓をゼロに」、6番の目標「安心な水とトイレを世界中に」、8番の目標「働きがいも経済成長も」なども関心が高いという傾向が得られた。



子どもたちが選んだSDGsの分布

選んだ目標 目標[2]: 飢餓をゼロに

目標の概要

食糧安全に脅かされる人々が増え、飢餓や栄養不足の問題が深刻化している。食料や栄養の不足が偏り、命を失う子ども、大人が増えている。飢餓をゼロにするには、農村の生産者を支援するだけでなく、持続可能な農業で食料を供給し、食料のロスや廃棄物を減らす必要がある。また、気候変動による干ばつや洪水の影響を軽減し、持続可能な消費と生産を促進する必要がある。

選んだ目標 目標[6]: 安全な水とトイレを世界中に

目標の概要

世界中に安全な飲料水とトイレが不足している人が21億人以上います。安全な水とトイレは、命を救うだけでなく、健康、教育、経済活動にも不可欠です。安全な水とトイレを提供するには、持続可能な水資源管理、汚染の防止、雨水の活用、トイレの整備、自然環境の保護など、様々な取り組みが必要です。また、持続可能な水資源の確保も重要です。

選んだ目標 目標[8]: 働きがいも 経済成長も

目標の概要

世界中で過剰な労働時間、貧困、健康問題、環境問題などが深刻化している。労働問題は、経済成長、人権、社会正義、持続可能な開発と深く関連している。人々の生活の質を向上させ、持続可能な経済成長を実現するためには、働きがいのある人間らしい雇用、すばらしい労働環境の確保、社会正義の促進などが必要である。

選んだ目標 目標[10]: 人や国の不平等をなくそう

目標の概要

世界の富の半分が、富裕層1%が保持している。分け与えることをめざす世界から貧困が減少している。世界には、性別、宗教、人種、年齢などによる格差がある。持続可能な成長を達成するには、あらゆる人々が経済的・社会的・環境的に参加し、持続可能な発展が実現することが不可欠である。

選んだ目標 目標[16]: 平和と 公正をすべての人に

目標の概要

紛争やテロリズム、4、1個人や集団による暴力で命を失う人や、虐待されたり、暴力を受けて苦しむことが増えています。この目標が目指しているのは「暴力や虐待のない平和な社会」、「誰もが安全な社会」をつくることです。すべての人を守る法律や政治の仕組み、公平な制度をつくることも求められています。

SDGsとESDの視点を取り入れた地学基礎の授業

実施校：東京都立羽村高等学校 教諭名：久富 悠生

子どもたちの反応・感想（SDGsアイデアブックを取り入れた授業）

感想

この前、名古屋である問題よりも更に和歌山問題が
fcsinあり、つぎからつぎのfcsinで、
解決するのだから、和歌山からいって見た。
来週の月曜日から見たら、和歌山問題が、

SDGsでは目標が17つもあり、世界では経済・社会・環境の様々な問題が起こっており、現代や未来を生きるために改善する必要があると感じました。

世界では貧困地域が多く、格差も多い。問題が多く、環境から経済まで広いよである。こういうことを見ると自分は幸運だと思ってしまう。また、悲しいことを思った。

邦はだ世界を改めざるべしとがたけしあり。世界が日本の
 合い世界を賛ふべきにけしきあり。

国には何もの目標があることを知って働けるのか。貧困・異常気象、差別など問題をすべて解決するにはまずどこから改善すべきなのかをどうするか？

世界100カ国以上の軍事問題があり、その20問題は解決済みのはず。
 残りの80は思いつく。その20は 正しい順番に迎えるべきだ。
 例、核戦争の脅威が最大の脅威に感じられる。

未来をSDGsという「契」として用いて、人間が本来持つ
「道徳観」を改めて、行動する身が人であると思った。

スウェーデンの教育技術、アメリカのシェール革命、シリコンバレー、ドイツの医療技術。世界は持続可能な開発を目指しているのに関わらず、日本はすごく遅れているなとあらためて思いました。

人によって感心を持つこととはそれだけ遠くまで興味深いと思つた。
人それぞれが考え方が違ふから、その間の差異に気がつくことか、でさ
解決できる人々と思つた。

1人では世界の環境を治せるわけではなく、全世界の人は助け合っていくことによってのみ、SDGsは完全なものになっていく。

世界に解決しないものは、いつの日か問題が来るからとある人によって決められてしまふ。私が青い眼でいて、それでは、格差がひどく、お金のあつた人は招徠の整へたところへ行けるけれど、貧しい人は教科書やボールペンがなくて学校の天井の下で勉強して居る場合も学校に行っているという状況です。このように格差がひどくあり、いつまでたっても。

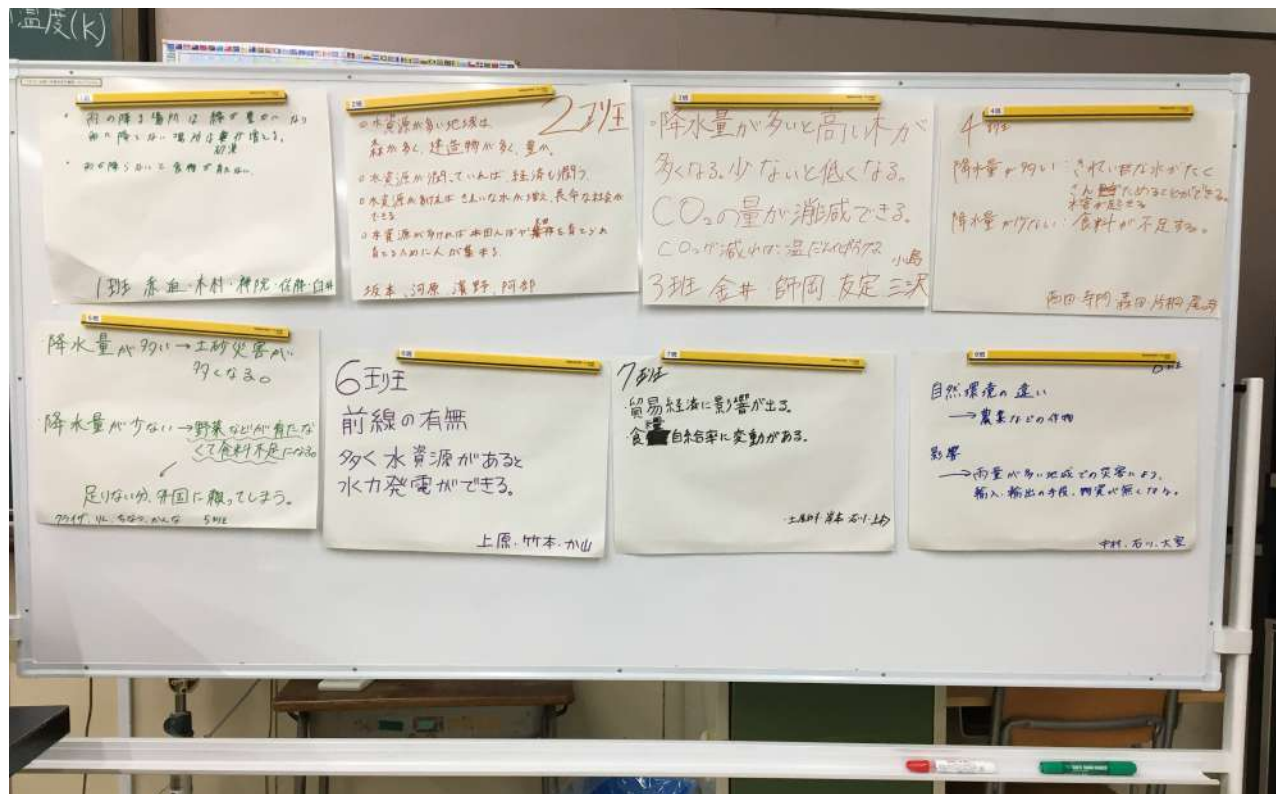
たこの問題が世界中にあり、その問題に至るまでには、簡単に「はい」というのは、何の必要もないと思いました。また、4レボミ、ブーミ、ミカ、ア、イ、ジ、と書いてある。

SDGsとESDの視点を取り入れた地学基礎の授業

実施校：東京都立羽村高等学校 教諭名：久富 悠生

子どもたちの反応・感想(地学基礎の授業での取り組み)

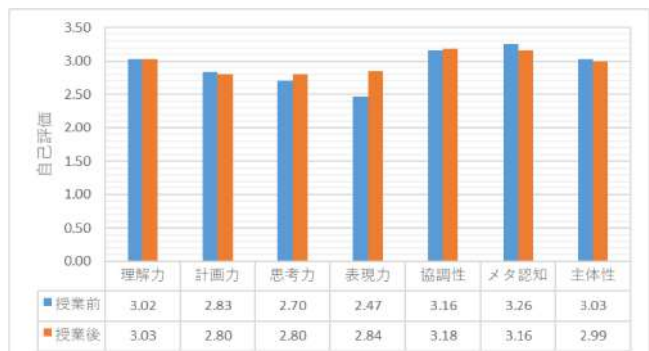
2学期最初の気象分野の授業から、グループ課題にSDGsに関係するテーマを取り入れた。グループ課題は、各班で1枚の紙にまとめて発表するところまでが生徒の活動となる。例えば、気象分野の8時間目の日本の気象と気候の授業では、以下のように子どもたちがまとめている。



この単元では、日本周辺に位置する4つの気団の特徴と、それらが日本の気候に与える影響について学ぶ。例えば、日本の夏は水蒸気を多く含んだ暖かい小笠原気団が勢力を強めて、日本列島は暖かく湿った気候となる。また、晴れの天候が続くため、地表面が暖められて上昇気流が生じ、湿った空気が上昇するため積乱雲が生じて急な豪雨が起りやすくなる。これらの気象現象を科学的に知ることもちろん大切であるが、グループ課題を通じて日本のように雨が多い国とそうでない国とを比較して、自然環境が食糧問題や経済にも影響を与えていることを学ぶことができた。このように自然や社会・経済の関わりを考えさせて、教科学習の枠を超えた深い学びへとつなげるためにSDGsを通じた学習は効果的なのではないだろうか。

地学基礎の教科学習を通じて身につけさせたい力として、ESDの視点から選んだ7項目(国立教育政策研究所 2012)について、授業前の4月と授業後の1月にアンケートを取った。その結果が右の図である。概ねどの項目も授業の前後に大きな変化は見られないが、値がわずかに上昇したのは、思考力と表現力の2つであった。

国立教育政策研究所 2012.『学校における持続可能な発展のための教育(ESD)に関する研究[最終報告書]』。



SDGs × ちょっと数学 × 5D2文

実施校: 近畿大学附属広島高等学校福山校 教諭名: 鳥生 浩紀

対象	高校2年	単元名	データの分析(数値データを読み解く)
科目	数学	目標	その1 数値データを読み解くことからそこに隠れている事柄を推測できる その2 推測した事柄について調べ、現実との対比により理解を深める その3 トレードオフの解消について考える
時間	SDGs関連2コマ (事例は1コマでの活動)		
参考資料	アイデアブック		

期待できる学習効果

- ・その1 数値を分析すること(統計的側面)は数学の学習において重要である。
ただの計算で終わらない効果を期待できる
- ・その2 現実に起こっている具体的な数値を取り扱うことで、身近な問題に気づくことを期待できる
数学と現代社会の問題を融合して授業に取り入れることができる
- ・その3 せっかくならば、自分たちの発想力で解決できないか考えるきっかけを作る
さらに、この過程が数学に必要な「論理的思考力」を高めることにつながる

授業内容

授業内容や授業のポイントなどを教えて下さい

ターゲット6、及びそこから生じるターゲット5についてもあわせて取り上げた。
(アイデアブックの問いかけp.63を利用した)

まずは、われわれが生きていく上で必要な「水」について考えてみようということがスタートである。
当然のように利用している水道水(管理されている上水道)の普及率は他国(特に発展途上国)においてはどうかあるかを具体的に調べることで、他国と日本の違いについて認識させた。
また、現在の発展と水道水の関係についても調べることにつなげた。
さらに、発展の過程において起こったトレードオフの問題についても考えさせた。改善しなければならない国々においても、今後、その問題が生じ(あるいは既に生じている)させないためには、どのような解決策があるか、までつなげるよう示唆した。

※該当クラスはトレードオフについて考える機会を以前設けている。
その解決法には数学を学ばなくても、生きていく上でも重要な論理的思考が求められることを学んでいる。

※授業を通して驚いたこととして、アイデア出しやまとめなどで、ネットで情報を調べるのかと思っていたら、誰一人ネット検索をしなかったことに驚いた。あくまでも自分のたちの知っていることや発想できることで問題解決について考えたことは素晴らしいと感じた。

SDGs × ちょっと数学 × 5D2文

実施校：近畿大学附属広島高等学校福山校 教諭名：鳥生 浩紀

授業の様子①

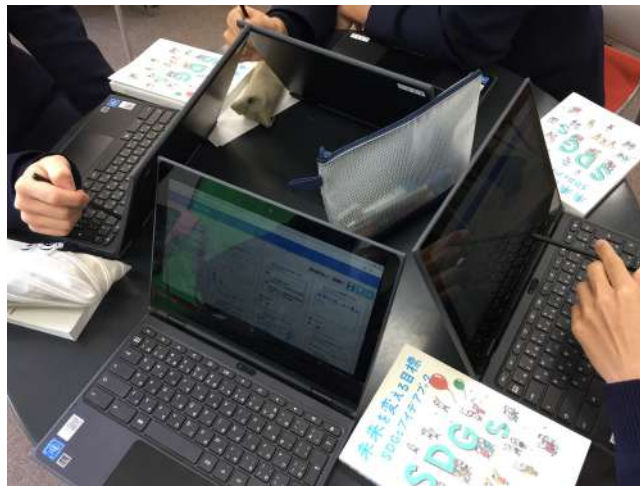
①PaAの問い「女性と子どもに与える不利益って何？」 教育をける 時間が少ない 生徒6 0 1 2 3	①PaAの問い「女性と子どもに与える不利益って何？」 女性は社会進出が望めない こと。子どもは教育を受け ることができないこと。 生徒12 0 1 2 3	①PaAの問い「女性と子どもに与える不利益って何？」 女性 子供の世話ができない 子供 教育がうけられない 生徒7 0 1 2 3	①PaAの問い「女性と子どもに与える不利益って何？」 生活のために学校に通えな かったり、子育ての難航及び妊 婦、授乳婦への体の負担 生徒10 0 1 2 3
①PaAの問い「女性と子どもに与える不利益って何？」 自分の時間が減る 。 生徒1 0 1 2 3	①PaAの問い「女性と子どもに与える不利益って何？」 女性 → 妊娠・出産 子ども → 勉強 できない。 生徒2 0 1 2 3	①PaAの問い「女性と子どもに与える不利益って何？」 仕事や勉強などにか けられる時間の減少 生徒5 0 1 2 3	①PaAの問い「女性と子どもに与える不利益って何？」 勉強や好きな ことが出来ない 世界を知らない 生徒3 0 1 2 3
考えたことなどを箇条書きでも良い のでまとめよう。 アイディア 課題 技術が伝わっても、水源が汚い 解決 水をきれいにするのに、植物の蒸散の 機能を取り入れる。蒸散によって排出 される水（水蒸気）はきれいだから。 生徒6 0 1 2 3	考えたことなどを箇条書きでも良い のでまとめよう。 アイディア 障壁 ・自治体の資金不足 ・内紛などによる水道の工事の阻害 方策 ・国際組織による強制的な平和状態 の創作・及び水道の敷設 生徒12 0 1 2 3	考えたことなどを箇条書きでも良い のでまとめよう。 アイディア 課題 水源が遠い 方策 設備を整えるだけでなく、 給水車のものををばしらせる 生徒7 0 1 2 3	考えたことなどを箇条書きでも良い のでまとめよう。 アイディア 現地の人の知識不足 例）距離を作る知識 水を遠くから引いてくれる知識 井戸を掘る知識 ↓ 知識の伝達及び開発 ↓ 自治体で水質等を管理 ↓ 安定かつ管理下にある水の供給 障壁 解決案 生徒10 0 1 2 3
考えたことなどを箇条書きでも良い のでまとめよう。 アイディア ・お金や技術が足りない→国の垣根 を超えて支援する ・住むところが遠くて届けられてい ない。→飲用水をドローンで運ぶ 生徒1 0 1 2 3	考えたことなどを箇条書きでも良い のでまとめよう。 アイディア 戦争のある地域に、工場の 設備が壊れたら、その設備を 貧困帯に 水を運ぶための施設を設ける。 生徒2 0 1 2 3	考えたことなどを箇条書きでも良い のでまとめよう。 アイディア 課題：浄水技術を持っていない、発展していない 方策：技術者の派遣 世界での情報の共有 生徒5 0 1 2 3	考えたことなどを箇条書きでも良い のでまとめよう。 アイディア 近代化によって汚水 が多いので水をすく いめるように浄化する ものを開発する 生徒3 0 1 2 3
考えたことなどを箇条書きでも良い のでまとめよう。 アイディア お金のない→募金（Google+で募金） お金の少ない→技術者の派遣 お金の少ない→技術者の派遣 お金の少ない→技術者の派遣 お金の少ない→技術者の派遣 お金の少ない→技術者の派遣 生徒1 0 1 2 3	考えたことなどを箇条書きでも良い のでまとめよう。 アイディア ① 水→浄水 → 浄水装置 → 浄水装置 ② 浄水装置 → 浄水装置 → 浄水装置 ③ 浄水装置 → 浄水装置 → 浄水装置 ④ 浄水装置 → 浄水装置 → 浄水装置 生徒2 0 1 2 3	考えたことなどを箇条書きでも良い のでまとめよう。 アイディア 自治体の整備 → 浄水装置の設置 → 浄水装置の設置 → 浄水装置の設置 → 浄水装置の設置 → 浄水装置の設置 生徒5 0 1 2 3	考えたことなどを箇条書きでも良い のでまとめよう。 アイディア ① 浄水装置 → 浄水装置 → 浄水装置 ② 浄水装置 → 浄水装置 → 浄水装置 ③ 浄水装置 → 浄水装置 → 浄水装置 ④ 浄水装置 → 浄水装置 → 浄水装置 生徒3 0 1 2 3

授業の様子②

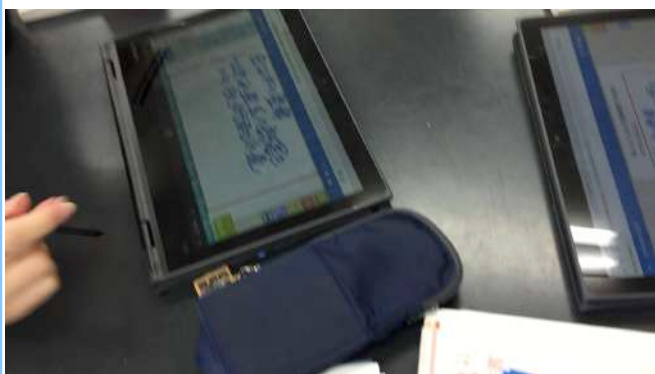
写真①



写真②



動画



写真・動画については生徒本人に了承を得ていますが、もし2次利用する場合はご相談ください。

子どもたちの反応・感想①

- ・ みんなで意見を出し合う事で様々な方面から考えることが出来ました。トレードオフをもう少し考慮できればよかったかもしれません。安全な水を全世界に普及させることは簡単ではないと思います。世界の中で、短所よりもそれを補うことができるくらいに長所を伸ばすべきだと思いました。現代社会の状態を無視せず極端にならないことが大切だと思いました。楽しかったです！
- ・ 可能性は無限大だと思いました。そのアイデアを実現するために自分たちは勉強するべきだと思いました。世界にはまだまだ私の知らない辛い現実があると思うので、1人でも多くの人を救うために今自分にできる、募金などを進んでしたいと思いました。すごく楽しかったです。

子どもたちの反応・感想②

- ・ SDGsに関連させて世界の問題の解決策を考えることが今までそんなになかったので少し新鮮さを感じました。自分は金銭面の問題に関してクラウドファンディングしか考えつきませんでした。他の班で3.11のヤフー募金のような、という具体例を出しながら考えていた班があって、その募金はネット上ですごく盛り上がっていた募金だったので、すごい具体例だと思いました。私ももっと視野を広くして、1つだけではなく色々な考えが出来るようになりたいと思いました。
- ・ 一言で水不足の地域に水道を届けると言っても様々なアプローチがあるし、それに伴いクリアしなければならない障壁もあるのでじっくり考えて行動に移すことが大切だと思いました。トレードオフのことを考慮するとできることが限られるのでメリットとデメリットのバランスをよく考えて計画しなければならないと思いました。また、将来なにかしらの機会でこのような問題に直面することがあると思うので高校生のうちに学ぶことができて良かったです。
- ・ SDGsについては現代社会の授業などで詳しく知っているつもりだったのですが、実際、数字で表されると驚きだったというのが正直なところです。自分たちの考察については、トレードオフについて「財」としてではなく「社会及び経済発展」という面で考慮した上での技術提供や指導について述べることができ、数学的に理論展開ができた(?)ので非常に良かったと思っています。ただ、自分たちで考えるのもいいことですが、正確な情報や知識を手に入れるために、メディアリテラシーを意識しながら情報を手に入れる必要もあるな、とも感じました。
- ・ 様々な考え方や、そんなことも！なんていう発見もできた。まずは自分にできることを一つずつ考えて行動していくことでSDGsに貢献できるのではと思った。
- ・ 水の問題だけでなく、世界には数多くの課題があり、それらが関連しているのだということを改めて感じた。また、1つの問題を解決するにはトレードオフについて考えなければならないということがリアルな解決には必要であるということを知った。
- ・ 自分だけで考えるより他の人と意見交換することで考えの幅も広くなり、より多くのアイデアが思いつくので改めてコミュニケーションの大切さを知った。今は存在しない技術や自分たちとは違う状況で生きる人たちのことなど、想像力を働かせて考えることが面白かった。想像して考えることで実際に知ってみたいとも思った。

SDGs講習会

高知県立山田高等学校 金子 宏

対象	商業科3年	単元名	SDGs導入
科目	課題研究	目標	目標 ①世界で起こっている問題を知る ②地域の問題に置き換えて考える ③ビジネスプランの種を見つける
時間	2校時		
参考資料	未来を変える目標 SDGSアイデアブック		

期待できる学習効果

- ・ 生徒が今まで認識しなかった課題について認識ようになる
- ・ 地域の“現実”に目を向ける契機となる
- ・ 地域課題に即したビジネスプラン構築の動機づけになる

授業内容

6月1日、高知大学の梶英樹先生を講師としてお招きして、SDGs講習会を開催しました。生徒には、事前学習の資料として「未来を変える目標 SDGsアイデアブック」を配布した。SDGs講習会では、梶先生によるSDGsの概要説明を受けた後、SDGsカードゲームに取り組んだ。今回のカードゲームは、金沢工業大学のTHE SDGs アクションカードゲーム X(クロス)であった。



SDGs講習会

高知県立山田高等学校 金子 宏

授業内容2

2校時分での実施であったので、SDGsの紹介と数回のゲームを回すことで精いっぱいであったが、生徒たちにとっては見識を広める授業となったといえる。

また、以降の授業での「地域の課題に即したビジネスプラン構築」に取り組むうえで、大いに参考となる内容であった。生徒たちに配布した「未来を変える目標 SDGsアイデアブック」は引き続き参考図書として活用させることとした。



子どもたちの反応・感想

高知県の課題を出してビジネスアイデアにするのは難しかったです。SDGsを学び学んだことを活用してビジネスアイデアと結びつけました。SDGsとは持続可能でよりよい世界を目指す国際目標なのでどのSDGsと結びつくのかを考えるのが難しかったです。SDGsとは持続可能でよりよい世界を目指す国際目標なのでどのSDGsと結びつくのかを考えるのが難しかったです。

SDGsという17個の目標から作られている国際目標について学ぶ機会もありました。カードを使って、引いたカードでどのようなことをすれば、SDGsに繋がるかを考えながら、チームでゲームをしたことがとても印象強く残っています。最初はカードゲームと言われたので「簡単だろう」と安易に考えていましたが、やってみると結構難しく、ほかの人にたくさん助けをもらいながらゲームをしたことを覚えています。その他にも、自分のビジネスプランを考える場があり、私自身はあまり発想力がなく、友達と協力してすることになりました。

進路学習(社会問題に関心を持つことの大切さ)

学校名: 石川県立能登高等学校 名前: 木村聡(高校魅力化・探究コーディネーター)

対象	2年	単元名	進路学習(社会問題に関心を持つことの大切さ)
科目	ロングホームルーム	目標	自分たちの卒業後の進路を考えたり決定したりするためには、社会で起きている出来事や問題・課題について知り、自分の興味関心と課題意識の在りかを自己理解し、自身が社会に貢献したい(貢献できる)と思う場所を見つけることが大切になる。本時ではSDGsアイデアブックを生徒に一人1冊配布して読むことで、現代社会の問題の一端に触れた。
時間	1時間		
参考資料	アイデアブック		

期待できる学習効果

- その1 社会で起きている出来事や問題・課題について知る
- その2 進路を選択する、あるいはその選考過程において社会問題を理解していることの重要性を知る

授業内容

就職や進学をする上で求められる「社会」「社会問題」に対する理解の必要性和興味関心を持つための方法について生徒に考えさせた。社会には多くの問題・課題があること、その課題の解決に向けたゴールとしてSDGsが設定されていることを説明した。そしてSDGsアイデアブックを生徒に一人1冊配布して読むことで、現代社会の問題の一端に触れた。

子どもたちの反応・感想

SDGsアイデアブックに目を通すことで世界や地域にはたくさん問題・課題が存在していることを知ることができた。また社会問題に関する認識が卒業後に仕事をする上で、あるいは大学等で学ぶ上での共有言語・共通理解となることも理解した様子だった。



コロナ禍の課題に気づこう！

学校名：甲南高等学校 名前：杉本智昭

対象	高校一年生	単元名	グローバルリサーチ
科目	Gリサーチ	目標	①コロナ禍の中で課題だと思われるテーマを自ら設定し、リサーチを行うことができる。 ②リサーチの手法（テーマ設定、情報の集め方、アンケートの散り方、フィールドワークの仕方など）を理解し、自らリサーチを行うことができる。 ③自ら行ったリサーチをポスターにまとめ、発表することができる。
単位	1単位		
参考資料	SDGsアイデアブック		

期待できる学習効果

- ①社会問題に気づき、その問題を解決する主体としての意識を持つことができる。
- ②①を踏まえて、自らができることについて行動を起こすことができる。
- ③自分の興味関心の幅を広げることができるとともに、リサーチのテーマを設定することで自分の興味がある分野について理解を深めることができる。
- ④リサーチの方法を理解することができる。

授業内容

所属校にはグローバルスタディプログラムというプログラムがあり、中学3年生から高校三年生までの、各学年5クラスの内、1クラスの生徒（35名程度）が学んでいます。

中学3年時のプログラムの特別授業として「G教養」という授業があり、授業では教養的な知識を学ぶとともに、生徒たちは新聞ノートを作成し、社会の問題に目を向けることを続けてきました。

その学びを踏まえ、高校一年生のリサーチの授業（本授業）では、12月に開催されるリサーチの発表会でのポスターセッションを目標に生徒たちはリサーチの手法を学びます。例年は本校が阪神淡路大震災で被災した経験から、震災×〇〇という形でリサーチを行っていましたが、今年度はコロナ禍にあるということで「コロナ×〇〇」という形でテーマを設定し、リサーチに取り組んできました。例えば、〇〇には教育、経済、言葉などが入ります。この学びを活かして、高校二年生では生徒たちは自由にテーマの設定をしてリサーチを進め、高校三年生は各自のテーマに基づいた論文を仕上げます。

授業は、グローバルリサーチの授業（1単位）であり、その授業の中でリサーチの方法を学びます。具体的にはテーマ設定のためにオンラインデータ（朝日けんさくくんやジャパンナレッジ等）を活用しながら興味があるテーマの記事を集めていく情報カード作成の授業、リサーチクエスチョンを考える授業、Microsoft Formsを使ったアンケートの取り方（グローバルスタディプログラムの生徒は全員PCを持っています）、フィールドワークの仕方などを授業で扱います。その後は、各自が図書館で自らのテーマに従い、リサーチを進めていくという流れです。

生徒たちが12月のポスターセッションで発表する、ポスターができた時点で自分のテーマがSDGsのどの目標に関わるかを考えさせ、ポスターにSDGsの目標にロゴを入れます。高校一年生の学びはあくまでリサーチの流れを理解することが目標ですが、この学びが高校二年生に繋がります。

PBLフィールドで社会問題に出会う

実施校: 桐朋女子高等学校 教諭名: 吉崎亜由美

対象	高校3年生	単元名	PBLフィールドで社会問題に出会う
科目	決定者講座	目標	その1 プロジェクトの企画書を作成し、プロジェクトの意義を考える その2 新大久保フィールドワークを通して、社会問題を切り取り、問いを立てる その3 実在する人物から入手した情報をもとに、新大久保の社会問題を提起し、その解決方法を提案する作品を作成する
時間	8時間+α		
参考資料	『アイデアブック』 『フィールドに入る』 椎野若菜・白石壮一郎編 古今書院(2014)		

期待できる学習効果

- ・フィールドワークを通して観察力を養い、自ら問いを立て、取材することで、思考力、積極性を養う
- ・話し合いを通して問いを深め、プロジェクトの計画を立て、ゴールを設定することで、主体性、協調性を養う
- ・自ら設定したゴールに向かって、毎回振り返りを行いながら、作品を作成することで身につけたい力を養う

授業内容

第1回 プロジェクトの企画書を作成し、プロジェクトの意義を考える

『アイデアブック』や椎野若菜・白石壮一郎編(2014)『フィールドに入る』古今書院の抜粋、プロジェクトの企画書の用紙を配付した。Google Classroomに登録して、情報の共有を行うシステムをつくった。次回の新大久保フィールドワークに向けて、問いを立て、ゴールを設定し、プロジェクトの意義やプロジェクト学習を通して身につけたい力などを考え、企画書を作成した。当初は、個人のプロジェクト学習を想定したが、生徒がグループによる作品作成を希望したので、グループ毎に話し合いながら、企画書を作成した。

第2回 新大久保フィールドワーク

雨が降る非常に寒い平日の13時20分からグループ毎にフィールドワークを行った。15時に再集合した際には、順調に観察、取材を行うグループがあるのに対し、ほとんどのグループは、何軒も取材を断られ、意気消沈したり、街の雰囲気に圧倒され、チーズドッグを食べただけで戻ってきたりと、プロジェクトの計画通りに進まない様子であった。しかし、15時に解散した後、ほとんどのグループはその場に残り、冷たい雨の中、2時間以上も観察取材を続け、粘り強くフィールドワークを行った。

第3回 作品を作成することで、社会問題を提起し、その改善策を提案する

グループ毎に問いを立て直し、フィールドから得られた情報を分類、取捨選択しながら、社会問題を提起する。

第4回 作品を作成し、Google Classroomに投稿する。プロジェクトの企画書を利用して、振り返りを行う。

自宅で動画の編集を行ってきたグループも複数あり、どのグループも大変意欲的に作品づくりに取り組んだ。パワポに声を吹き込んで、オーディオピクチャーを作成したり、動画を編集したり、ピクトグラムを作成したりしながら、各グループが設定したゴールに向かって、作品づくりを続けた。できあがった作品は、Google Classroomに投稿し、お互いに見合った。最後に、自ら設定した身につけたい力が達成できたか、プロジェクトの意義や問いが達成できたかについて、企画書をもとに振り返りを行った。

PBLフィードで社会問題に会う

実施校: 桐朋女子高等学校 教諭名: 吉崎亜由美

授業の様子



新大久保フィールドワークでの取材

生徒が作成した多言語避難誘導看板



子どもたちの反応・感想

新大久保フィールドワークを通して、生徒が立てた問いとゴールは、以下の5つである。

- ・みんなの街 → 共存するための方法の確立 ・多言語避難誘導看板 → 外国人への災害対策の啓発
 - ・多国籍の地域でのマナー → 文化や習慣、感覚の違いによっておこる問題の解決策を見つける
 - ・日本人と外国人が共生する新大久保にするために → 新宿多文化共生プラザをもっと知ってもらう
 - ・新大久保のまちの移り変わりから学ぶ外国人の受け入れ方 → 外国人が日本で働きやすくなる
- また、プロジェクト学習を通して生徒が身につけたい力は以下の通りである。

- ・情報の取捨選択・内容をまとめる力・協調性・考え抜く力・
- ・働きかけ力、実行力、創造力・傾聴力、実行力、創造力・話を聞く力、実行力、主体性・計画力、実行力
- ・実行力、計画を立てて、考える力・計画力、実行力、思考力・デザイン力、思考力

プロジェクト学習を行った生徒の感想は以下の通りである。

- ・前もって準備していたがやはり時間はかかった。新大久保というテーマから自分でどのような問題なのかを見つけ、提案するのが難しかった。取材したものをすべて入れずに、取捨選択できたと思う。何とか、プロジェクトのゴールを上手く提案できたと思う。
- ・パワーポイントを完成させ、他の人の作品を見た。プロジェクトのゴールを達成できたと思う。
- ・テーマが決まらず混迷したが、「今ある施設をよりよくするための提案するという形」でおさめた。結果、よい提案ができたと思うし、外国人が日本人と交流できていなかったりそのような施設の存在を知らないという現状があることを知った。
- ・つくれた！進んでインタビューの店に入ったり、まとめの文を考えられたりした。がんばりました！
- ・自宅で計画を3人でつくることができた。前日にギリギリの作成になってしまったので計画力は△。インタビューはたくさんできたので実行力は◎。・チームワーク力をパワポの作成によって、身につけられた。

なぜ必要なの？SDGs？

学校名：青森県立弘前実業高等学校 名前：佐々木 孝子

対象	1学年	単元名
科目	家庭基礎	これからの食生活 ～持続可能な食生活を目指して～
時間	2時間	目標
参考資料	アイデアブック SDGsカード (オリジナル)	その1 持続可能な食の営みの必要性を知る その2 持続可能性の視点で、食生活を見直す その3 広い視野に立ち、持続可能な食生活を営む力を身に付ける

期待できる学習効果

- ・その1 近い未来である2030年までに取り組む必要があることを自分事として考えることができる
- ・その2 環境負荷の少ない食生活を営む行動が、SDGsの各ゴールと関連することを理解できる

授業内容

1時間目

アイスブレイク： SDGsクイズで国際的視野で起こっていることを知る。

ワークショップ： オリジナルカード(表に目標と裏に内容が書いてある)を使用し、グループでカードを分類する。

ルール

- ①17枚のカードを1人4枚ひく。
- ②1枚ずつ、次の4つの分類の当てはまる場所においていく。

日本の現状

- | | |
|--------------|--------------|
| A すでに達成できている | B 課題が少し残っている |
| C 課題が残っている | D 重要課題が残っている |

③残った一枚を順番に入れて、場所を交換していく。(必ず交換)

④解答する。あっていた枚数を点数化する。

ワークシート記入 「あなたはすでにSDGsに貢献している」(プリント)に関するSDGsの番号を、アイデアブックを参考に番号を書き込む。

2時間目

本時の目標：『“地産地消”でSDGsに貢献』が説明できる。

「アイデアブック」を参考に自分達ができる具体的行動とその行動が必要な理由を説明する。

子どもたちの反応・感想

- ・今の普通の生活について、世界の状況を見て考えさせられた。身近なことからSDGsの達成に近づけるよう生活しようと思った。
- ・SDGsに関心をもつことができた。いろんなことが知れてうれしかった。少しでも自分でできることをしたいと思った。
- ・日本の課題を確認できた。食べ物を残さないようにしようと思う。
- ・ゴミを減らすにはどうしたらよいか。どうしたら発生を少なくすることができるのか、考えた。



わたしの生活とSDGs

学校名: 静岡県立科学技術高等学校 名前: 川合加寿子

対象	1年	単元名
科目	家庭基礎	夏休みの課題 1年間の学習のまとめ
時間	計2時間	目標
参考資料	アイデアブック等	その1 自分の毎日の生活が、SDGsと関連していることがわかる その2 日々の生活の中でゴールに向けて取り組むべきことがわかる その3 自分の取り組みを周囲に広げていくことができる

期待できる学習効果

- ・その1 SDGsは「誰か」が取り組むことではなく、「自分」の毎日の生活と関係があることに気づく
- ・その2 興味のあるゴールに向けて取り組むうちに、いくつかのゴールが関連し合っていることに気づく
- ・その3 SDGsは達成困難な目標ではなく、毎日の生活で十分取り組めることの積み重ねであることに気づく

授業内容

夏休みの課題

1. 17のゴールの中から、自分の関心度の高いもの、自分にとって切迫した課題となっているものを一つ選び、タイトルをつけ調べ、現状と課題をまとめる。文章は左側(罫線)へ、資料添付(表・グラフ・写真・図 等)は右側(白紙)へ、参考文献(書籍名・著者・出版社、WEB見出し・アドレス、新聞・日付、等)の記入を必ずすること。
2. あなたが毎日の生活の中で具体的にどのような取り組みをすれば、この状況を変えられるか考えてみよう。

学習のまとめ

1. 夏休みに調査した現状の課題解決のために、毎日の生活で具体的にどのように取り組みましたか。また、あなたの取り組んだ行動が、生活環境や周囲の人に影響を与えた、改善できたと実感できたことはありますか。
2. 1年間の家庭基礎で学習したことの中で、1以外にあなたがSDGsを意識して日々の生活で実践するようになったことは何ですか。具体例を挙げて説明してください。

わたしの生活とSDGs

学校名: 静岡県立科学技術高等学校 名前: 川合加寿子

授業内容2

1. 1年間を通してSDGsをベースとして授業に取り組むことを、最初の授業(オリエンテーション)で確認している。また、毎時間の授業の終了時に、本時の授業内容は17のゴールのうちどれと関連があるか考えさせている。
2. 1学期末テスト終了後、夏休みの課題を説明する時間を1時間、計画する。
アイデアブックを配布し、自分が関心があるところをいくつか読む。生徒は、それまでの授業を通して、SDGsのゴールは、誰かが取り組むことではなく、自分の毎日の生活のほんの些細なことでも関係があることに気づき、アイデアブック内の事例を通して、自分の行動が世界を変える可能性があることを理解する。夏休みの課題として、どんなことを調査するか、見通しを立てる。
3. 夏休みの課題を実施する。机上で調べるだけでなく、必ずフィールドワークに出かけ、自分の体で体験することを条件とする。調べて体験してわかった・感じた問題点が、自分がどのような生活を送れば解決できるか・解決に近づけるか、考える。夏休み以降、自分の考えた解決策に取り組む。
4. 年間の最終授業で、課題解決に向けて実際に取り組んだことについてレポートする。

子どもたちの反応・感想

授業内容 夏休み前授業 「わたしの生活とSDGs」

テーマ 1 食料ロスをゼロに

3月

コロナで地球を救う

2020年コロナウイルス感染症の流行により、世界中で食料の不足が懸念されている。食料ロスを減らすことは、食料の不足を防ぐだけでなく、環境問題の解決にもつながる。今回は、食料ロスを減らすための取り組みについて学ぶ。

食料ロスの現状

食料ロスの現状は、世界中で約1/3の食料が廃棄されている。これは、食料の生産から消費までの過程で発生している。食料ロスの原因は、生産段階での廃棄、流通段階での廃棄、消費段階での廃棄に分けられる。

食料ロスの削減方法

食料ロスを削減するためには、生産段階、流通段階、消費段階のそれぞれで取り組む必要がある。生産段階では、生産量の調整や、廃棄物の削減を行う。流通段階では、賞味期限の延長や、包装の工夫を行う。消費段階では、食べ残しの削減や、食品の再利用を行う。

食料ロスの削減の重要性

食料ロスを削減することは、食料の不足を防ぐだけでなく、環境問題の解決にもつながる。食料ロスの削減は、持続可能な開発目標(SDGs)の目標12「つくる責任 つかう責任」に貢献する。

食料ロスの現状

品名	数量	単価	合計
小麦	10kg	1,000円	10,000円
大豆	5kg	2,000円	10,000円
合計	15kg		20,000円

食料ロスの削減方法

食料ロスを削減するためには、生産段階、流通段階、消費段階のそれぞれで取り組む必要がある。生産段階では、生産量の調整や、廃棄物の削減を行う。流通段階では、賞味期限の延長や、包装の工夫を行う。消費段階では、食べ残しの削減や、食品の再利用を行う。

授業内容 夏休み前授業 「わたしの生活とSDGs」

テーマ 1 食料ロスをゼロに

3月

コロナで地球を救う

2020年コロナウイルス感染症の流行により、世界中で食料の不足が懸念されている。食料ロスを減らすことは、食料の不足を防ぐだけでなく、環境問題の解決にもつながる。今回は、食料ロスを減らすための取り組みについて学ぶ。

食料ロスの現状

食料ロスの現状は、世界中で約1/3の食料が廃棄されている。これは、食料の生産から消費までの過程で発生している。食料ロスの原因は、生産段階での廃棄、流通段階での廃棄、消費段階での廃棄に分けられる。

食料ロスの削減方法

食料ロスを削減するためには、生産段階、流通段階、消費段階のそれぞれで取り組む必要がある。生産段階では、生産量の調整や、廃棄物の削減を行う。流通段階では、賞味期限の延長や、包装の工夫を行う。消費段階では、食べ残しの削減や、食品の再利用を行う。

食料ロスの削減の重要性

食料ロスを削減することは、食料の不足を防ぐだけでなく、環境問題の解決にもつながる。食料ロスの削減は、持続可能な開発目標(SDGs)の目標12「つくる責任 つかう責任」に貢献する。

食料ロスの現状

品名	数量	単価	合計
小麦	10kg	1,000円	10,000円
大豆	5kg	2,000円	10,000円
合計	15kg		20,000円

食料ロスの削減方法

食料ロスを削減するためには、生産段階、流通段階、消費段階のそれぞれで取り組む必要がある。生産段階では、生産量の調整や、廃棄物の削減を行う。流通段階では、賞味期限の延長や、包装の工夫を行う。消費段階では、食べ残しの削減や、食品の再利用を行う。

持続可能な生活を考えよう

学校名:青森県立弘前実業高等学校 名前:船水 美智代

対象 1学年

科目 家庭総合

時間 2学期

参考資料

アイデアブック等

単元名

持続可能な生活を考えよう

目標

その1 SDGsに関心を持つ

その2 自分にできそうな行動を考えることができる

期待できる学習効果

- ・その1 自分にできることに気づく
- ・その2 行動に移すことができる

授業内容

※ コロナ禍で、調理台に立てる人数に制限があるため、待機時間にアイデアブックを活用した。

課題:SDGsの17の目標と行動を関連させたカードを2枚つくる。

1枚目

表面・・・本の中から、紹介したいものを見つけてまとめる。

裏面・・・その行動と関連する17の目標を見つけ、シールを貼る。

2枚目

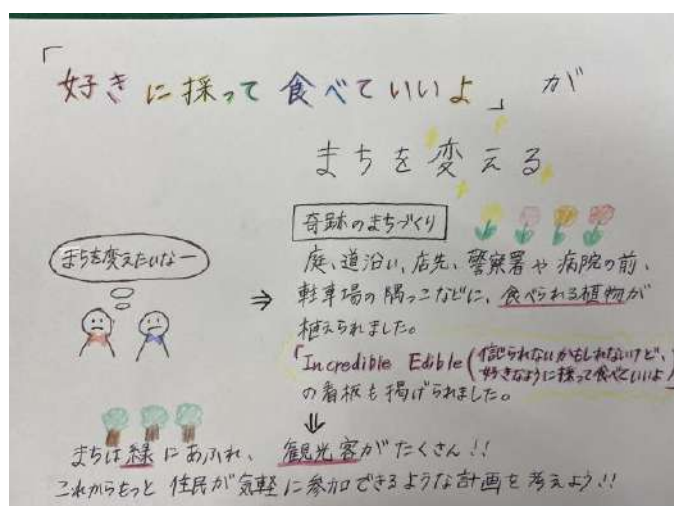
表面・・・アイデアブックを参考に、オリジナルな「アクション」を考えてまとめる。

裏面・・・その行動と関連する17の目標を見つけ、シールを貼る。

The collage consists of several hand-drawn posters and notes, each addressing a different social issue. The posters are written in Japanese and feature various illustrations and diagrams.

- Gender Equality (ジェンダー平等を実現しよう):** This poster discusses the importance of gender equality and the role of women in society. It includes a diagram showing the relationship between men and women and a list of actions to be taken.
- Food Security (食料安全保障):** This poster focuses on ensuring that everyone has access to enough food. It includes a diagram showing the flow of food from production to consumption and a list of actions to be taken.
- Poverty (貧困なくそう):** This poster discusses the issue of poverty and the need for social support. It includes a diagram showing the flow of money and a list of actions to be taken.
- Disability (障害者):** This poster discusses the needs of people with disabilities and the importance of social inclusion. It includes a diagram showing the relationship between people with disabilities and the rest of society.
- Education (教育):** This poster discusses the importance of education and the need for quality learning opportunities for all.

The posters are arranged in a layered, overlapping manner, suggesting a collection of ideas or a project display. The illustrations are colorful and creative, reflecting the students' understanding of the issues and their proposed solutions.



世界の課題を考えよう

学校名:青森県立弘前実業高等学校 名前:中村 保奈美

対象 2学年

科目 フードデザイン

時間 3時間

参考資料

アイデアブック等

単元名

持続可能な生活を考えよう

目標

- その1 世界に目を向ける
- その2 課題を解決しようとする考えを持つ

期待できる学習効果

- ・その1 世界の課題を自分ごととして考えることができる
- ・その2 環境の負荷の低い行動を意識できるようになる

授業内容

※ コロナ禍で、調理台に立てる人数に制限があるため、待機時間にアイデアブックを活用した。

課題: ①アイデアブックを参考に主に解決したい課題を選び、それについてまとめる。
②解決できるように、自分の考えを記入する。

目標 12 つくる責任つかう責任

世界の人々は今、大量のエネルギーや資源を使って、大量の食品や工業製品を生産・消費し、大量に廃棄しています。気候変動だけでなく、物をつくるときに使った有害な化学物質の排出による環境汚染も問題です。

この問題を解決するには

- ・食品ロスを減らす・廃棄物の削減とリサイクルの推進
- ・資源とエネルギーの効率的な利用、それを支える技術や仕組みを開発すること

品目別の食品ロスの割合

品目	割合
穀物	30%
乳製品	20%
魚介類	35%
果物と野菜	45%
肉類	20%
種子や豆類	20%
根菜類	45%

アイディア

果物と野菜の食品ロスが多いことがわかるので人間が食べられなくなった食品を回収してくれる回収車で他の動物のえさや肥料などに使う動物園に運ぶ。

SDGs

2019年 夏 2020年

1 貧困をなくそう

世界の貧困人口は、2019年時点で約7億人です。これは、世界の人口の約10%にあたります。貧困をなくすためには、持続可能な開発目標（SDGs）の達成が必要です。

2 飢餓をゼロに

世界の飢餓人口は、2019年時点で約8億人です。これは、世界の人口の約12%にあたります。飢餓をゼロにするためには、持続可能な開発目標（SDGs）の達成が必要です。

私のアイディア

食料ロスを減らすために、スーパーで売れ残った食品を回収し、動物園のえさや肥料に活用する。

食料ロスを減らすために、スーパーで売れ残った食品を回収し、動物園のえさや肥料に活用する。

SDGs探究発表

学校名:海星学院高等学校 名前:市川栄作

対象	3年(24名)	単元名	探究発表α(ポスターセッション)
科目	日本と世界(選択) (学校設定科目)	目標	その1 SDGsアイデアブック(以下、アイデアブック)を読み、持続可能な社会の実現を阻む諸課題、およびその解消に取り組む活動について理解を深める。 その2 持続可能な社会の実現を阻む諸課題、およびその解消に取り組む活動に関するグループでの探究を通じて、前期に学習した探究手法を活用する。 その3 ポスターセッションにおいて、探究活動の成果を下級生にわかりやすく説明する。
時間	14時間		
参考資料	アイデアブック 自作プリント		

期待できる学習効果

- ・持続可能な社会の実現を阻む諸課題、およびその解消に取り組む活動について基礎的な内容を理解する。
- ・持続可能な社会の実現を阻む諸課題、およびその解消に取り組む活動についての探究活動を通じて、課題を発見する・諸資料から有用な情報を適切に選択し読み取る・論理的にまとめた意見などを他者に分かりやすく伝えるなどの力を養う。
- ・持続可能な社会の実現に対する関心と意欲を培い、他者とともに主体的に探究に取り組む態度を育む。

授業内容

【科目・単元の概要】

この科目は、2021年度から第3学年に設置された持続可能な社会の実現を阻む諸課題について研究する学校設定科目である。

前期において、生徒はSDGsの概要や世界の貧困、児童労働、識字率の問題やその解決に取り組む国際機関やNGO、企業について、また探究手法(課題設定、情報収集、整理・分析、まとめ・表現)について、ワークショップを交えながら学んだ。

後期はその総括として、生徒は2回の探究発表に取り組んだ。2回の探究発表は、第1学年を対象にグループでポスターセッションを行う探究発表αと、個人でレポートにまとめる探究発表βからなり、探究発表αの課題設定において、アイデアブックを活用した。単元計画は以下の通り。

【単元計画】

- 1-2 ガイダンス(全体の流れ)・アイデアブック精読
- 3 グループ編成(4人×6チーム)・精読からの学びや気づき、疑問点のグループ内共有・グループテーマ設定
- 4 グループによるテーマから探究する「問い」の設定・情報収集に関する役割分担決定
- 5 情報収集(※時間が足りない場合は時間外で収集するように指示した。)
- 6-7 ガイダンス(発表・まとめの流れ)・情報共有・発表アウトライン、ポスターラフ案作成
- 8-11 ポスター作成作業
- 12-13 リハーサル(相互評価)
- 14 発表(ポスターセッション)

SDGs探究発表

学校名: 海星学院高等学校 名前: 市川栄作

授業内容2

【アイデアブックの特徴と実践のポイント】

アイデアブックは、巧みに読者の興味関心を高める仕組みがあり、生徒の興味関心は、SDGsの目標、現状を示すデータ、SDGs達成に向けたアイデアや取り組み主体などに向くことが考えられた。生徒の自由な思考を保障し、今後の探究活動を活発化させるために①アイデアブック精読を通じて、「自分が一番面白そう!と思ったこと」をチーム内で共有、②①を踏まえ、チームで採用するテーマを決定、③そのテーマをもとにブレインストーミングを実施し、沢山の「問い」を立てた中から、「気になる且つ調べてもすぐに答えがわからない」もの一つに絞る、④絞った問いを磨く(言葉の定義を明確にする)という手順を採用した。実際にテーマはグループによって多様であった。

【生徒が設定した探究の「問い」(一部)】

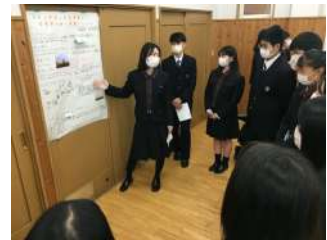
- ・先進国のゴミ廃棄率を減少するには何が必要か?
- ・日本でのDVやいじめから被害者を救うにはどのような行動をすれば良いのか?
- ・海上でのゴミ回収は生態系に悪影響を及ぼすのか?



アイデアブックの精読



収集した情報の共有



下級生を対象に発表

子どもたちの反応・感想

【生徒の振り返り(一部)】

- ・情報収集において、詳細情報や時代背景を確認しながら、矛盾が無いようまとめられた。
- ・社会で起こっていることを学び、自分にできる募金などを行うことができるようになった。
- ・SDGs等のテレビ番組や町にある看板を見て、考えるようになった。
- ・自分が強調して伝えたいことを表現することができた。
- ・もう少し明確な根拠をもって、相手に伝わる様に設計できた気がする。
- ・SDGsが私の中で当たり前の存在になり、日々、自分にできること・やらなくてはならないことを考えられるようになった。
- ・問題を見つけて、対策を考えたいという流れが身についた。
- ・SDGs達成に向け行われている活動に参加したいと思えるようになった。
- ・聞き手に詳しく説明することはできたが、多くの観点から説明できていなかった。
- ・資料の読み取りが早くなり、まとめの時の内容の深さにつながった。
- ・家庭でSDGsについて話す機会ができた。

上記の通り、自己の成長を感じる振り返りが多く、ほぼ全ての生徒が、主体的に協働して活動できた。発表において達成感を得られた生徒も多く、探究βに向けて学習意欲が高まった。

「『現代社会の課題とその解決法』について考える」

学校名: 京都府立鴨沂高等学校 名前: 岩崎 俊之

対象	第3学年	単元名	「『現代社会の課題とその解決法』について考える」
科目	学校設定科目 「京都の産業文化」	目標	その1 ローカル・グローバル双方の視点で様々な課題を発見し、それらの課題を解決していくための資質・能力を育成する。 (身近な京都の課題や、国際的な課題を、SDGsの視点で考える) その2 探究的な学習を通して、よりよい世界を築いていくために、どのように取り組んでいけばよいかについて考え、自己の在り方・生き方に生かす視点を獲得。
時間	21時間		
参考資料	「未来を変える目標 SDGsアイデアブック等」		

期待できる学習効果

- その1 本校「京都文化コース」に設定されている科目における学びの成果を基に、様々な課題を発見し、その解決の方策を考えることで、ローカル・グローバル双方の視点から、課題を解決していくための資質・能力を育成することができる。
- その2 探究的な学習を通して、よりよい世界を築いていくために、どのように取り組んでいけばよいかについて考えることで、自己の在り方・生き方に生かす視点を獲得することができる。

授業内容

「『現代社会の課題とその解決法』について考える」

① テーマを設定する

- ・ 現代社会の課題(身近な京都の課題、国際的な課題)から各自探究するテーマを設定する。
- ・ SDGsとの関連について、「アイデアブック」を配付し、「誰一人取り残さない」という視点から、国内外の様々な課題(貧困・差別・環境・災害・戦争・ジェンダー・教育など)について調べさせる。

(「社会の課題」を解決するために、他人ごとではなく、各自、主体的に関わっていくにはどのような方法があるか考えさせる。)

(時事的な問題、身近な問題などを提示し、ローカル・グローバル双方の視点で考え、行動することの大切さに触れる。)

(SDGsについては、ユーチューブの動画や、テレビ番組などで興味関心を喚起するものを選び、視聴させることで、積極的に取り組めるよう促す。)

(「アイデアブック」の活用)(図書の利用)(タブレットなどによるweb検索の利用)

② 解決の方策について考え、お互いの意見を交流する。

- ・ 各自テーマについて調べ、「ロイロノート」を用いて、「解決したいテーマ」「原因」「理想状況」「解決への方策」について、整理し、互いに交流する。
- ・ 「キーノート」を用いて、プレゼンテーション案を作成する。(クラス内で発表)

③ ①②を踏まえ、個人研究レポートを作成し、交流する。

『現代社会の課題とその解決法』について考える

学校名: 京都府立鴨沂高等学校 名前: 岩崎 俊之

生徒のテーマ、反応など

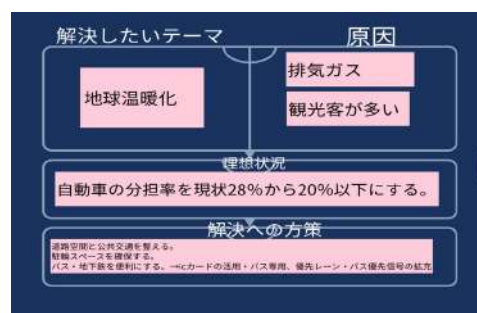
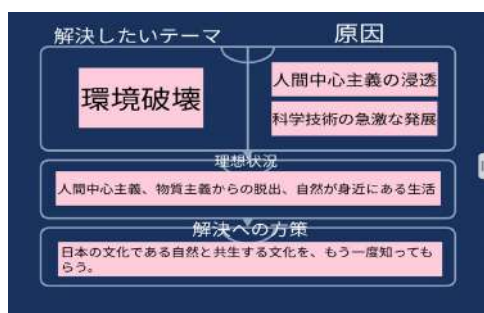
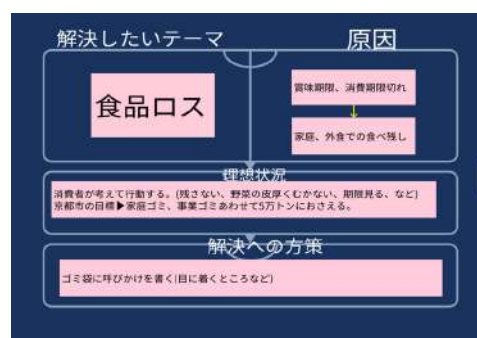
☆生徒選択テーマ例☆

「教育格差について」「京都市からSDGsを学ぶ」「京都市の自転車利用の転換」「貧困・飢饉」「女性の活躍推進」「京都の観光地とゴミ問題」「ごみを減らす」「地球温暖化」「プラスチックゴミ」「海洋プラスチックゴミ」「CO2の削減と京都市電」「温室効果ガスの排出量削減」「京野菜の機能性」「フェアトレードのある社会について」「京都の伝統産業でゴミを減らす」「食品ロスについて」

☆生徒感想抜粋☆

- 現代社会の問題として、地球温暖化や自然災害、地域コミュニティの希薄化などがあるとわかりました。
- 現代の課題について、あまりまとめて見ることはなかったが、環境問題、格差問題など、改めて考える機会を持ち、課題の多さに驚いた。しかし、皆の発表を聞いていると、世界がひとつになって頑張ればきっと解決できると思った。
- 京都の文化は過去のものではなく、現代の課題解決に活用できる様々な知恵が詰まっていると思った。世界的に、コミュニティが希薄になっている問題があり、それを解決する方法には「地蔵盆」など、伝統的な行事などを見直すことも必要だと思った。改めて、人とコミュニケーションをとることの大切さを学んだ。地域の文化、伝統などから学ぶことは多く、可能性の大きさも感じた。
- 現代社会の問題についてみんなで考え、現実的に困難な問題が多いことに気付きました。
- 自分の視野を広げるにはさまざまな人の意見を聞くということが大切だと分かった。社会問題はそれぞれ繋がりがあることがわかった。
- 特に、貧困問題で、必ずしも幸福と金銭は関係しないということが印象に残った。それに関連して、幸福度ランキング上位国の「人のために貢献すること」が人生の生きがいであるという意見は素敵だと思った。
- 日本だけで見るのではなく世界的に見ることが大切だということがわかりました。その方が、良い点や課題などによく気づくことがわかりました。

☆生徒の意見抜粋(「ロイロノート」により作成)☆



SDGsストーリーズ

学校名 千葉県立小金学校 名前 椿 仁三千

対象	1千年生	単元名
科目	産業社会と人間	産業社会と人間
時間		目標
参考資料		SDGs教育により、 その1 様々な視点から物事が見れるようにする その2 思考の多様化(発散)と思考の連結(収束) その3 協働学習によるコミュニケーション能力の習得
アイデアブック等		

期待できる学習効果

- ・その1 SDGsの基本的な理念を学ぶことができる
- ・その2 SDGsの世界規模の考え方はもちろん、身近な問題や地域課題を自分事化する。
- ・その3 SDGsによる探究的な思考を協働学習などを通して実践し、将来の学びにつなげる。

授業内容

生徒たちが将来、世の中の出来事を自分事として向き合い、社会に出た時どうに関わり、今の学びが社会でどう生かされていくのかということに繋がります。SDGsは世界共通の目標ですが、生徒たち自身の日常にある目の前の目標でもあるからです。

例えば「貧困」というテーマは世界規模の問題ですが、これを「地域の貧困」「松戸市内の貧困」というように、項目を地域や地元というキーワードに置き換えれば、それらは身近な問題となります。地域の諸問題は自分たちの解決すべき課題であり、問題設定はとても重要な学びです。

これまでの産業社会と人間では、半径5メートルの中にも課題はあり、それは社会や世界と繋がっているということを伝えて来ました。

本校ではそれを「SDGsストーリーズ」という名前で呼び、SDGs教育を推進してきました。夏休みにSDGsに自分が関連すると思われる内容の写真を撮ることを宿題としてきました。それをグループ内で発表し、最後には全体で発表します。さらに、SDGsに関連する、または取り組んでいる企業を調べ、取材をしてそれをポスターにして発表してクラス全体で共有します。

SDGsストーリーズ

学校名:千葉県立小金学校 名前:椿 仁三千

授業内容2



子どもたちの反応・感想

「SDGsストーリス」年間を通して 生徒の感想等

- ・どの班も端的にシートに作成し、説明できてよかったと思う。
- ・SDGsについて、社会の問題や原因についてと、それに対する今後の対策などを説明していてわかりやすかったし理解も深まった。
- ・日本や地域、他国の比較をすることでよりわかりやすくなっていたし、日本の問題についても理解しやすくなったと思う。
- ・SDGsを通して、色々な観点から考察、説明されていて自分が知らないことに驚いた。
- ・写真コンテスト、企業ウォッチングなど、発表の形式が面白くて聞いていて楽しかった。
- ・世界では国によって貧困対応など、考え方がこんなにも違うのかと驚いた。
- ・日本や企業のSDGsの取組について改めて考えさせられた。

ESD/SDGs学習指導実施報告書

学校名 高崎商科大学附属高等学校

対象 3年生

科目 進路指導とSDGs

時間 6月から10月

1. 期日 令和3年4月~10月

2. 対象 普通科 特進コース 3年5組 石村瑚白

3. 活動名 進路指導とSDGs

4. 目標 ・SDGsの各目標を理解する

・大学の課題と照らし合わせ、ベトナムにとって重要だと思
う課題を見つける

・自分なりの解決方法を見つけ、PowerPointにまとめ10
分間のプレゼンテーションを行えるようになる

5 活動 (6月から10月)

①総合型選抜試験における大学からの課題

2015年の国連サミットで採択されたSDGs(持続可能な開発目
標)で掲げられた17の目標のうちあなたの志望する専攻語が話され
ている国(ベトナム)や地域にとって特に重要だと思う目標を1つ
選び、なぜその目標が重要だと考えるのかを説明してください。そし
て、その目標に達成するために、あなた自身を含め日本の若者には何
ができるか。具体的に述べてください。目標達成の可能性より、問題
の理解とアイディアの独創性を重視します。

②①の課題を考えるきっかけに『未来を変える目標 SDGs アイデアブック』を手掛かりに課題設定を行う。

③ベトナムの少数民族の現状を本やインターネットで調べる

④ベトナム留学生にインタビューする

⑤ベトナムのオンラインツアーに参加する

⑥調べたことやインタビューの結果を、考察しプレゼンテーションの形にまとめる

6. 結果

ベトナムの少数民族の現状から今質の高い教育が必要であると考ええる。そのために自分たちが出来ることとして、ベトナム少数民族について知ること、そして知ったことを自分たちが電波塔となり発信していくことだと考えることができた。このプレゼンテーションを通し、ベトナムだけではなく、多くの問題に対して考えることができるようになった。



**少数民族の
文化**

SDGsの視点を取り入れた清掃活動の実践

学校名 沖縄県立那覇工業高等学校

対象

1・3年生

科目

特別活動

時間

毎日10分

学校名: 沖縄県立那覇工業高等学校 名前: 比嘉良太(環境保健部環境・防災担当)

対象 全学年

単元名

科目 特別活動

SDGsの視点を取り入れた清掃活動の実践

(清掃)

目標

時間 毎日10分

その1 毎日の清掃活動を通して、SDGsの17の目標を認知している

参考資料

その2 SDGsの17の目標が個別に達成するのではなく、何らかの繋がりに気づききっかけになっている

アイデアブック等

その3 チームで協力してSDGsを達成するための行動をすることで、次の発展的なアイデアに繋げている

期待できる学習効果

その1 毎日の清掃活動を通して、SDGsの17の目標を認知している

その2 SDGsの17の目標が個別に達成するのではなく、何らかの繋がりに気づききっかけになっている

その3 チームで協力してSDGsを達成するための行動をすることで、次の発展的なアイデアに繋げている

授業内容

国連が定めた持続可能な開発目標 SDGs を理解するところから始めた。ただし、工業高校特有の教育課程の中に指導する時間の余裕はなく、『総合的な学習の時間』は『課題研究』に置き換えられて設定できず、『LHR』もコロナ禍の影響で年間計画に1時間も入り込む隙間がなかった。しかし、毎日10分間の清掃をSDGsの目標理解と実践に繋がれることに気づき、ポスターを学校の施設中に貼ること(SDGs タギング)で無意識に定着できるようにした。具体的には教室等にあるゴミ箱。本校は校名に那覇と付いているが、実際は北隣にある浦添市に住所があり、那覇市よりゴミの分別が細かい。コロナ禍で冷水機が使用禁止になり、ペットボトル・ゴミが急速に増えた。キャップやラベルを剥がす習慣が乏しかった生徒たちにはゴミ置き場で担当である私がその都度粘り強く指導し、改善が見られるようになった。空き缶も以前は事業所ゴミとして処分していたが、偶然近所にアルミ缶やスチール缶を買い取ってくれる業者があり、分別の徹底で売却でき、アイデア次第では現金化できる資源になることを実感することができた。ただ、生徒にとっては懲罰に伴う作業として捉えることも多かったので、換金した現金はそのままお駄賃として渡していた。それを聞きつけたPTA会長や本校定時制の職員が換金したものをプールして、ゴミ置き場周辺の緑化を提案し、芝生を植えることになった。おかげで、それまでただ捨てていたゴミも資源化することで、目標の8の「働きがいも経済成長も」、11の「住み続けられるまちづくり」、12の「つくる責任つかう責任」、14「海の豊かさを守ろう」、15の「陸の豊かさを守ろう」、17の「パートナーシップで目標を達成しよう」が無意識に達成できることとなった。

子どもたちの反応・感想

中学校までは、清掃時間には先生の指示通りに校内美化活動をしていたが、高校では SDGs の視点で学校生活を振り返ると意味があるということがわかった。「先生に言われたから」とか「何となく捨てていた空き缶をこまめに拾っている老人がいるのは不思議だったけど、アルミ缶を換金するだけで自分のアルバイト代と同じくらいになることに気づき、できればすべて自分に任せてほしい」という生徒も出てきた。SDGs の 17 の目標が個別に存在するのではなく互いに関連付いていることに気づく生徒も少ないがいる。



地球の未来をかんがえよう！

学校名：東海学園高等学校

対象	1年生	単元名	地球の未来を考えよう
科目	特別教育活動	目標	SDGsについて、その内容と具体的な取り組み例を調べ、日常的な活動につなげる
時間	4時間		
参考資料	アイデアブック等		

期待できる学習効果

- ・環境や人権などの自身に関わる問題に配慮して行動ができるようになる。
- ・資料を用いて調べたことをまとめ、他の人にわかりやすく伝える力を養う。
- ・グループ活動を通して協働して取り組む力を養う。

授業内容

- ① 1～3人のグループを作り、SDGsの17目標のうち興味があるテーマを選択する。
- ② グループごとに選んだテーマに沿って、インターネットや冊子資料などを用いて、世界や日本の現状や問題点について調べる。
- ③ アイデアブックなどを用いて、企業や自治体の活動について調べる。
- ④ 自分たちで取り組めることは何かを考えて、標語にする。
- ⑤ 別のテーマを調べたグループと交流し、調べたことをそれぞれ発表し合う。
- ⑥ 標語をカードに書き、SDGs宣言ボードを作成する。

※ 担当教員が事前に新聞社主催のSDGSカードゲームの講習会に参加することで、世界の問題解決のためには様々な制約があることを理解することができた。講習会に参加することで、具体的に問題解決のために行動するとはどのようなことなのかイメージできるようになり、生徒が自身の問題として引き寄せることができるようにするためのヒントを得た。

地球の未来をかんがえよう！

学校名：東海学園高等学校

身近な自治体や企業が様々な活動を行っていることを知り、自分たちの生活にSDGsの視点を取り入れることにつながった。

宣言ボードを、廊下の目立つ場所に掲示して啓発活動を行い、生徒の意識が高まった。
(下記の写真は、宣言ボードの一枚です。)



ゴミとは何だろう。プラスチックとは何だろう。

学校名:八重山特別支援学校 名前:戸ヶ瀬哲平

対象	高等部3年	単元名
科目		海のゴミの種類と分別
時間	6時間	目標
参考資料	アイデアブック 海洋ゴミの映像	その1 海の豊かさを守ろう その2 つくる責任つかう責任

期待できる学習効果

- ・その1 海に流れ着いた「ゴミ」の種類への理解
- ・その2 「ゴミ」にもいろいろな種類があることを知り、リサイクルについて知る
- ・その3 プラスチックにも種類があることを知る

授業内容

授業内容

- ・八重山特別支援学校から徒歩で行ける宮良海岸に行き授業を行う。
- ・ゴミにも色々な種類があることを確認しながら、それぞれ拾い集める。
- ・拾ってきたゴミを洗浄する。

授業のポイント

- ・本校は知的障害のある生徒が主であるため、本を読むことの前に実際に活動を行うことを先に行う。
- ・ゴミを洗浄することで、ゴミという認識から物質として感じられるようにする。

ゴミとは何だろう。プラスチックとは何だろう。

学校名: 八重山特別支援学校 名前: 戸ヶ瀬哲平

授業内容2

授業内容

- ・教室に「ゴミ」を並べ、共通のゴミを分別していく。
- ・リサイクルされるものと、埋め立てられるものについて解説。
- ・プラスチックについてはPEやPP、PETなど表記をみながら違いを解説。
- ・教室にプラスチックゴミのポイントを置き、PE、PPを見つけたら集められるようにする。
- ・SDGsアイデアブックを配布し、持続可能な社会について話し合いを行う。

授業のポイント

- ・ゴミの分別をしたからといってリサイクルされているとは限らないことを伝える。
- ・授業の最後にアイデアブックを配布し、実感を持って持続可能とは何かを考えられるようにする。

子どもたちの反応・感想

生徒たちは、ゴミを集めるという体験はしたことがあったが、集めたゴミひとつひとつについて考えたことはなかったとのこと。また、プラスチックの種類についての学習をした際には、商品の分別マークについて学習をし、ポリエチレン、ポリプロピレンなどの種類を覚えることができた。PPは何？と聞くとポリプロピレンと答えられるようになっていった。家にあったポリプロピレンなどを持ってくる生徒もいた。